

**平成 28 年度  
男女共生社会に関する市民意識調査  
報告書**

**平成 29 年 3 月  
和歌山市**



## はじめに

和歌山市では、性別にかかわらず一人ひとりの人権が尊重され、男女がともに責任を分かち合いながら、その個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現をめざし、平成26年度に「第3次和歌山市男女共生推進行動計画」を策定し、計画に基づき各種施策を推進してきました。

今日では、少子高齢化の進展、非正規労働者の増大、社会保障や地域社会の持続可能性の低下といったさまざまな課題を背景に「女性の活躍」への期待が高まっており、本市においても今後さらに女性の活躍が重要になってくると考えられます。

この度、現計画の期間満了を平成29年度末に迎えるにあたり、次期計画策定の基礎資料とするため、「女性の活躍」に関する項目を新たに取り入れた「男女共生社会に関する市民意識調査」を実施いたしました。

今回の調査結果から見えてきた新たな課題やニーズ等を次期計画に反映し、今後さらに男女共生社会の推進のための施策を総合的かつ計画的に進めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました市民の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、男女共生社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年3月

和歌山市長 尾花 正 啓



## ～目 次～

<b>I アンケート調査概要</b> .....	1
1 調査の目的 .....	1
2 調査内容 .....	1
3 調査方法 .....	1
4 集計について .....	1
<b>II 調査結果の要約</b> .....	2
<b>III 調査の結果</b> .....	4
◆ 回答者について .....	4
1 男女平等について .....	8
2 高齢期について .....	26
3 地域活動について .....	27
4 防災意識について .....	29
5 男女共生の今後について .....	31
6 就労について .....	33
7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について .....	46
8 男女共生社会について .....	59
9 男女共生社会をさらに推進していくためのご意見（自由意見） .....	70
<b>IV 調査結果の概要</b> .....	74
<b>V 語句の解説</b> .....	79
<b>VI 調査票</b> .....	81



# I アンケート調査概要

## 1 調査の目的

和歌山市の男女共生社会を推進のため市民の意識を調査し、今後の行政施策、次期行動計画策定への基礎資料にするために活用していく。

## 2 調査内容

### ◆ 回答者について

- (1) 男女平等について
- (2) 高齢期について
- (3) 地域活動について
- (4) 防災意識について
- (5) 男女共生の今後について
- (6) 就労について
- (7) DV（ドメスティック・バイオレンス）について
- (8) 男女共生社会について

## 3 調査方法

- ◆調査区域 和歌山市全域
- ◆調査対象 平成28年7月1日現在、和歌山市に居住する満20歳以上の男女を等間隔無作為抽出
- ◆調査方法 郵送による配布・回収
- ◆調査期間 平成28年9月2日（金）～同9月30日（金）
- ◆回収率 発送数 3,000人  
回収数 1,124人 回収率 37.5%
- ◆調査機関 和歌山市男女共生推進課

## 4 集計について

○図および表中の比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。

○複数回答がある質問では、比率の合計が100%を超えている。

○図中の「n」とは、分類別の該当対象者数を示し、比率は「n」を100%として表示している。※「n」が調査母数の場合は表示しない。

## Ⅱ 調査結果の要約

---

### 1 男女平等について（P8～）

男女の地位の平等については、家庭、職場、学校、地域、政治・制度、社会通念・慣習・しきたりの中で、「男性が優遇されている」と思う割合は、「女性が優遇されている」と思う割合より高くなっている。

男女の性別役割分担意識として、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、男女とも「思わない」の割合が高く、前回調査（平成25年度実施）と比較しても、「思う」割合は低くなっている。

ワーク・ライフ・バランスについては、現実には「仕事を優先」の割合が最も高く、理想としては「仕事と家庭生活と個人の生活を優先」の割合が最も高くなっている。

### 2 高齢期について（P26）

高齢期の過ごし方としては、「趣味の活動やスポーツ、旅行」の割合が最も高い。また、「働くこと」、「孫など家族との団らん」、「夫婦・カップルでの団らん」の割合も高くなっている。

### 3 地域活動について（P27～）

社会活動、地域活動への参加については、「現在、参加している」のは「趣味の活動やスポーツ、旅行」の割合が最も高い。

参加するときの問題としては、「時間がない（仕事・家事・育児で忙しい）」の割合が最も高くなっている。

### 4 防災意識について（P29～）

参加したことがある防災活動については、「防災訓練」が最も高くなっている。

避難所や防災・災害対策において、性別に配慮して取り組む必要があることについては、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」、「性別に配慮した備蓄品の備え」が高くなっている。

### 5 男女共生の今後について（P31～）

今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことについては、「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が高くなっている。



## 6 就労について（P33～）

女性が職業をもつことについて、現実としては「子育て時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が最も高いが、理想としては「仕事は定年まで続ける」の割合が最も高くなっている。

女性が職業をもち続けていく上での問題として、「家事や育児・介護との両立が難しい」、「産前産後休業や育児・介護休暇、再雇用などの制度の浸透が不十分である」の割合が高くなっている。

男女が対等に働くために必要なことについては、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」、「男女とも育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」の割合が高くなっている。

## 7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について（P46～）

配偶者や交際相手から暴力行為を受けたときの相談先としては、「家族」、「友人」の割合が高いが、「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」の割合が最も高くなっている。

「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と答えた理由としては、「相談するほどのことではなかった」の割合が最も高く、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」、「相談しても無駄だと思った」の割合も高くなっている。

配偶者や交際相手から暴力を受けたとき必要な助けについては、「一時的に加害者から逃げる場所の提供」、「親身になって、相談に応じてくれるところ」の割合が高くなっている。

## 8 男女共生社会について（P59～）

男女共生に関する言葉について、「ストーカー規制法」や「セクシュアル・ハラスメント」は認知度が高く、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」や「メディア・リテラシー」は認知度が低くなっている。

男女共生社会に関する講座で興味のあるテーマについては、「防災」、「こころとからだの健康」の割合が高くなっている。

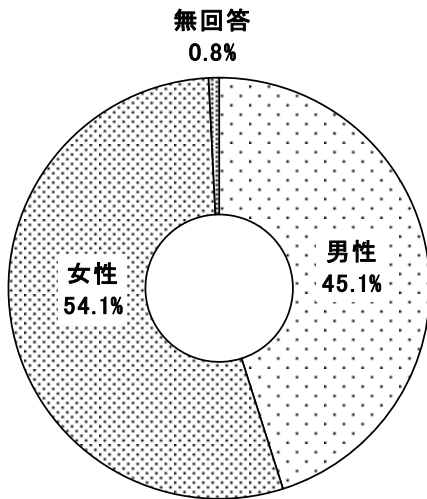
男女共生を推進するための個人の取組については、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」、「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」の割合が高くなっている。

### Ⅲ 調査の結果

#### ◆ 回答者について

##### 問1 性別

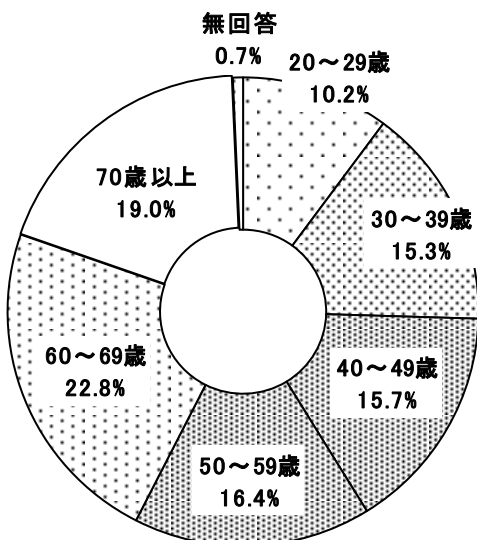
1 男性	2 女性
------	------



回答者の男女別構成比は、「女性」が54.1%、「男性」が45.1%と女性の回答が9.0ポイント多くなっている。

##### 問2 年齢

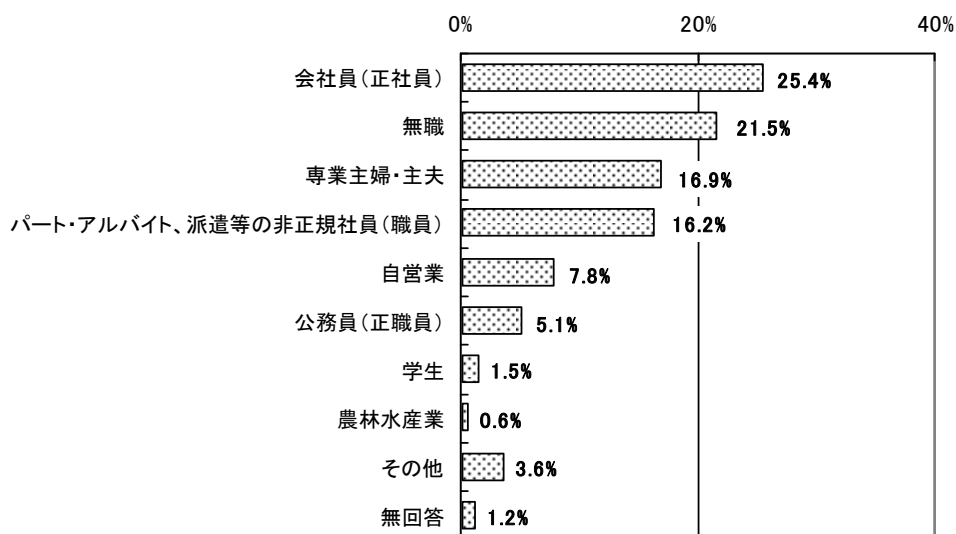
1 20～29歳	2 30～39歳	3 40～49歳	4 50～59歳
5 60～69歳	6 70歳以上		



回答者の年齢別構成比は、「60歳代」が22.8%と最も多く、次いで「70歳以上」(19.0%)、「50歳代」(16.4%)の順となっている。

### 問3 現在の職業、勤務形態

1 会社員（正社員）	2 自営業	3 農林水産業	4 公務員（正職員）
5 パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員）	6 専業主婦・主夫	7 学生	8 無職
9 その他（ ）			



回答者の職業は、「会社員」が25.4%と最も多く、次いで「無職」(21.5%)、「専業主婦・主夫」(16.9%)の順となっている。

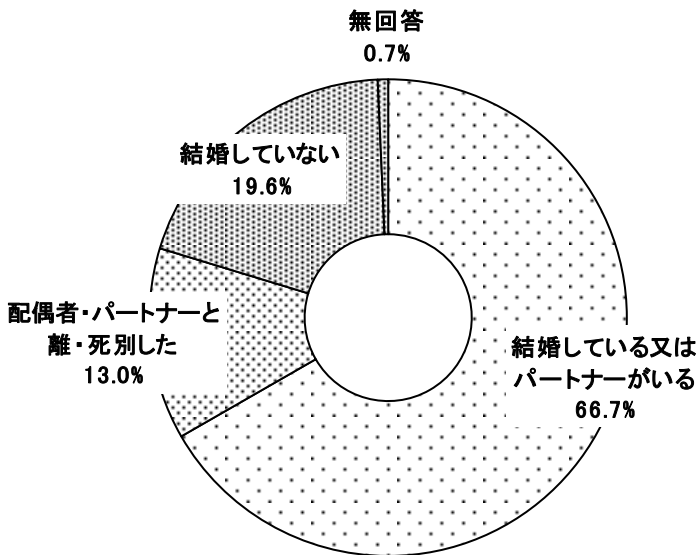
### ○回答者の属性について

回答者の属性一覧表（問1から問3の結果を集計）

区分		総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
総数		1,124	115	172	176	184	256	213	8
性別	男性	507	52	74	73	75	117	116	0
	女性	608	62	98	103	109	139	97	0
	無回答	9	1	0	0	0	0	0	8
職業別	会社員（正社員）	286	51	79	74	56	23	3	0
	自営業	88	0	10	13	18	30	17	0
	農林水産業	7	0	1	1	0	3	2	0
	公務員（正職員）	57	16	11	10	16	4	0	0
	パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員）	182	13	31	43	48	41	6	0
	専業主婦・主夫	190	8	24	20	30	81	27	0
	学生	17	16	1	0	0	0	0	0
	無職	242	5	6	8	11	66	146	0
	その他	41	4	7	7	5	8	10	0
無回答	14	2	2	0	0	0	2	8	

#### 問4 結婚について

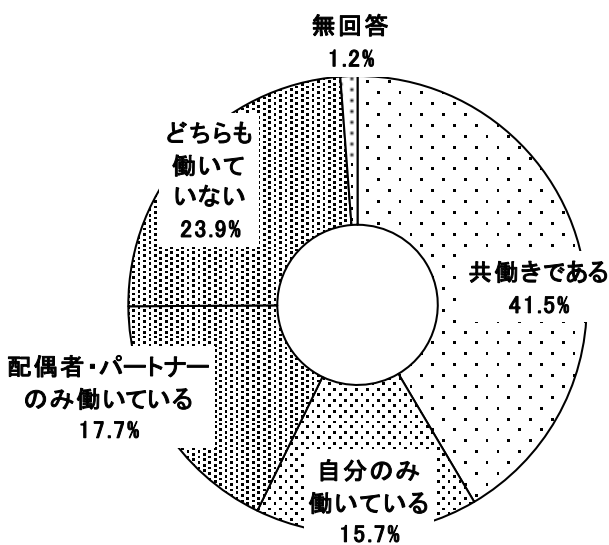
- 1 結婚している又は※パートナーがいる ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方  
 2 配偶者と離・死別した  
 3 結婚していない



「結婚している又はパートナーがいる」は66.7%、「結婚していない」は19.6%、「配偶者と離・死別した」は13.0%となっている。

#### 問4-1 就労について

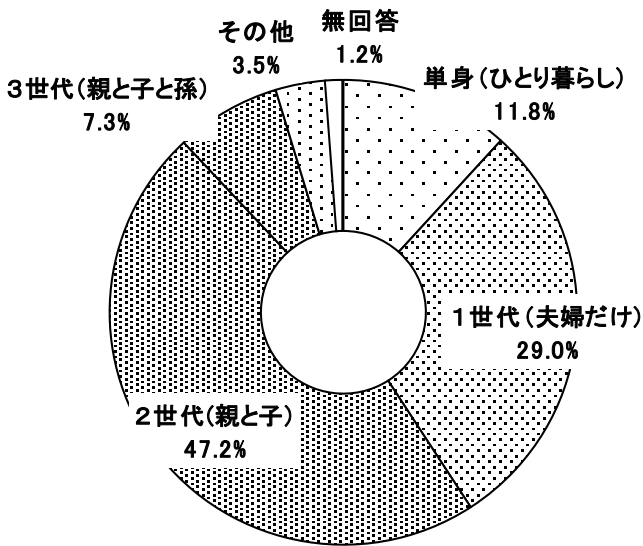
- 問4で「1」と回答された方のみお答えください。2人とも働いていますか。
- 1 共働きである  
 2 自分のみ働いている  
 3 配偶者・パートナーのみ働いている  
 4 どちらも働いていない



「結婚している又はパートナーがいる」と回答した750人のうち、「共働きである」が最も多く41.5%、次いで「どちらも働いていない」(23.9%)、「配偶者・パートナーのみ働いている」(17.7%)、「自分のみ働いている」(15.7%)の順となっている。

問5 現在の家族構成について

1 単身（ひとり暮らし）	2 1世代（夫婦だけ）
3 2世代（親と子）	4 3世代（親と子と孫）
5 その他（	）



回答者の同居している家族構成は、「2世代（親と子）」が47.2%と最も多く、次いで「1世代（夫婦だけ）」（29.0%）、「単身（ひとり暮らし）」（11.8%）、「3世代（親と子と孫）」（7.3%）の順となっている。その他の家族構成では、「4世代」、「兄弟・姉妹」の回答があった。

---

○回答者の家族環境について

---

家族環境については、既婚者（結婚しているまたはパートナーがいる）が最も多く、その中で「既婚者のいずれかが働いている」（「自分のみ働いている」と「配偶者・パートナーのみ働いている」の計[33.4%]）より「共働き」（41.5%）の割合が高い。

# 1 男女平等について

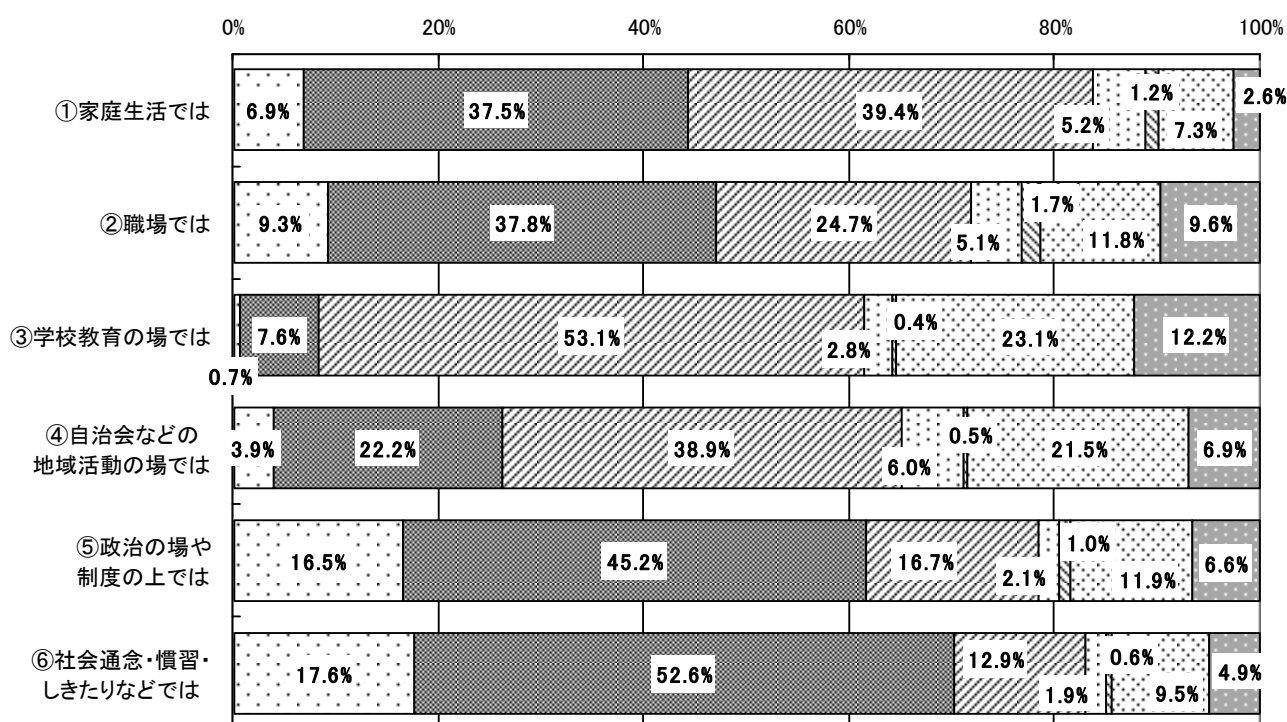
## 問6 男女の地位の平等

次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①家庭生活では
- ②職場では
- ③学校教育の場では
- ④自治会などの地域活動の場では
- ⑤政治の場や制度の上では
- ⑥社会通念・慣習・しきたりなどでは

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答



男女の地位について、いずれの項目も「男性が優遇されている」割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は、「女性が優遇されている」割合（女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）より高くなっている。

「平等である」割合は、「学校教育の場では」と「自治会などの地域活動の場では」が「男性が優遇されている」割合より高くなっている。

○「平等である」割合が高い項目の性別・年齢別表

			優男 遇性 され 方が 非常 に	れ男 ど性 ちら かか とい ええ ば	平 等 で あ る	れ女 ど性 ちら かか とい ええ ば	優女 遇性 され 方が 非常 に	わ か ら な い	無 回 答
① 家庭 生活 では	男性 ・ 年 齢 別	20～29歳	7.7	17.3	61.5	1.9	1.9	9.6	0.0
		30～39歳	2.7	27.0	41.9	13.5	2.7	10.8	1.4
		40～49歳	2.7	34.2	45.2	6.8	4.1	5.5	1.4
		50～59歳	4.0	46.7	33.3	14.7	0.0	1.3	0.0
		60～69歳	0.0	38.5	47.9	2.6	3.4	5.1	2.6
		70歳以上	3.4	31.0	48.3	5.2	0.0	6.9	5.2
	女性 ・ 年 齢 別	20～29歳	4.8	33.9	37.1	9.7	1.6	12.9	0.0
		30～39歳	8.2	38.8	34.7	4.1	0.0	11.2	3.1
		40～49歳	14.6	36.9	34.0	2.9	0.0	9.7	1.9
		50～59歳	9.2	45.0	34.9	3.7	0.9	5.5	0.9
		60～69歳	13.7	46.0	33.8	0.7	1.4	2.9	1.4
		70歳以上	7.2	40.2	29.9	4.1	0.0	10.3	8.2
③ 学 校 教 育 の 場 では	男性 ・ 年 齢 別	20～29歳	0.0	3.8	59.6	13.5	3.8	19.2	0.0
		30～39歳	0.0	10.8	48.6	6.8	0.0	29.7	4.1
		40～49歳	0.0	6.8	52.1	1.4	1.4	32.9	5.5
		50～59歳	0.0	6.7	49.3	4.0	1.3	32.0	6.7
		60～69歳	0.0	6.8	53.8	3.4	0.0	17.9	17.9
		70歳以上	0.9	4.3	46.6	0.0	0.0	19.0	29.3
	女性 ・ 年 齢 別	20～29歳	0.0	1.6	61.3	4.8	0.0	30.6	1.6
		30～39歳	0.0	12.2	59.2	0.0	0.0	26.5	2.0
		40～49歳	2.9	7.8	62.1	1.0	0.0	22.3	3.9
		50～59歳	0.9	10.1	61.5	2.8	0.0	18.3	6.4
		60～69歳	1.4	9.4	47.5	2.9	0.7	22.3	15.8
		70歳以上	1.0	7.2	42.3	1.0	0.0	15.5	33.0
④ 自 治 会 な ど の 地 域 活 動 の 場 では	男性 ・ 年 齢 別	20～29歳	1.9	11.5	42.3	3.8	1.9	38.5	0.0
		30～39歳	1.4	18.9	33.8	10.8	1.4	31.1	2.7
		40～49歳	0.0	15.1	45.2	11.0	2.7	20.5	5.5
		50～59歳	1.3	17.3	44.0	10.7	1.3	20.0	5.3
		60～69歳	1.7	24.8	48.7	5.1	0.0	12.0	7.7
		70歳以上	2.6	12.1	51.7	6.9	0.0	10.3	16.4
	女性 ・ 年 齢 別	20～29歳	4.8	14.5	19.4	8.1	0.0	51.6	1.6
		30～39歳	4.1	24.5	28.6	6.1	0.0	33.7	3.1
		40～49歳	7.8	20.4	35.0	5.8	0.0	28.2	2.9
		50～59歳	5.5	28.4	42.2	4.6	0.0	15.6	3.7
		60～69歳	9.4	34.5	36.0	2.9	0.0	11.5	5.8
		70歳以上	2.1	27.8	33.0	2.1	1.0	15.5	18.6

○「男性が優遇されている」割合が高い項目の性別・年齢別表

			優男性 遇さ れ方 が非 常に	れ男 ど 性 の ら か と 優 い 遇 さ ば	平 等 で あ る	れ女 ど 性 の ら か と 優 い 遇 さ ば	優女性 遇さ れ方 が非 常に	わ か ら な い	無 回 答
② 職 場 で は	男性・ 年 齢 別	20～29歳	11.5	28.8	28.8	17.3	3.8	9.6	0.0
		30～39歳	12.2	33.8	31.1	13.5	4.1	4.1	1.4
		40～49歳	6.8	37.0	28.8	9.6	4.1	11.0	2.7
		50～59歳	4.0	38.7	40.0	6.7	4.0	6.7	0.0
		60～69歳	5.1	35.0	40.2	3.4	0.0	8.5	7.7
		70歳以上	5.2	31.9	16.4	0.0	0.0	16.4	30.2
	女性・ 年 齢 別	20～29歳	8.1	37.1	30.6	12.9	1.6	8.1	1.6
		30～39歳	12.2	50.0	18.4	2.0	1.0	14.3	2.0
		40～49歳	13.6	35.0	25.2	6.8	2.9	15.5	1.0
		50～59歳	11.9	47.7	27.5	1.8	0.9	8.3	1.8
		60～69歳	12.2	42.4	12.9	1.4	0.7	15.8	14.4
		70歳以上	8.2	30.9	10.3	1.0	1.0	15.5	33.0
⑤ 政 治 の 場 や 制 度 の 上 で は	男性・ 年 齢 別	20～29歳	11.5	32.7	30.8	9.6	3.8	11.5	0.0
		30～39歳	8.1	47.3	20.3	5.4	2.7	13.5	2.7
		40～49歳	12.3	39.7	23.3	6.8	2.7	9.6	5.5
		50～59歳	10.7	49.3	29.3	2.7	1.3	5.3	1.3
		60～69歳	6.8	47.0	27.4	0.9	0.0	8.5	9.4
		70歳以上	6.9	42.2	20.7	1.7	0.9	10.3	17.2
	女性・ 年 齢 別	20～29歳	25.8	37.1	9.7	3.2	1.6	21.0	1.6
		30～39歳	24.5	54.1	6.1	2.0	0.0	12.2	1.0
		40～49歳	26.2	49.5	9.7	1.0	0.0	11.7	1.9
		50～59歳	24.8	47.7	8.3	0.0	0.9	15.6	2.8
		60～69歳	24.5	44.6	10.8	0.0	0.0	12.2	7.9
		70歳以上	12.4	42.3	15.5	0.0	1.0	13.4	15.5
⑥ 社 会 通 念 ・ 慣 習 ・ し き た り な ど で は	男性・ 年 齢 別	20～29歳	11.5	42.3	26.9	5.8	1.9	11.5	0.0
		30～39歳	13.5	52.7	14.9	2.7	1.4	12.2	2.7
		40～49歳	12.3	56.2	13.7	2.7	2.7	6.8	5.5
		50～59歳	12.0	65.3	17.3	2.7	0.0	2.7	0.0
		60～69歳	9.4	58.1	22.2	1.7	0.0	3.4	5.1
		70歳以上	9.5	44.0	18.1	1.7	0.9	11.2	14.7
	女性・ 年 齢 別	20～29歳	19.4	45.2	8.1	4.8	0.0	21.0	1.6
		30～39歳	28.6	50.0	7.1	0.0	0.0	14.3	0.0
		40～49歳	31.1	51.5	5.8	1.0	0.0	9.7	1.0
		50～59歳	24.8	56.0	6.4	0.0	0.9	11.0	0.9
		60～69歳	23.7	54.0	8.6	1.4	0.7	6.5	5.0
		70歳以上	10.3	50.5	12.4	2.1	0.0	10.3	14.4



「平等である」割合の高い項目（P9）にみると、「家庭生活では」は、男性の50歳代以外は「平等である」割合が最も高いが、女性の20歳代以外は「男性の方が優遇されている」割合が最も高くなっている。

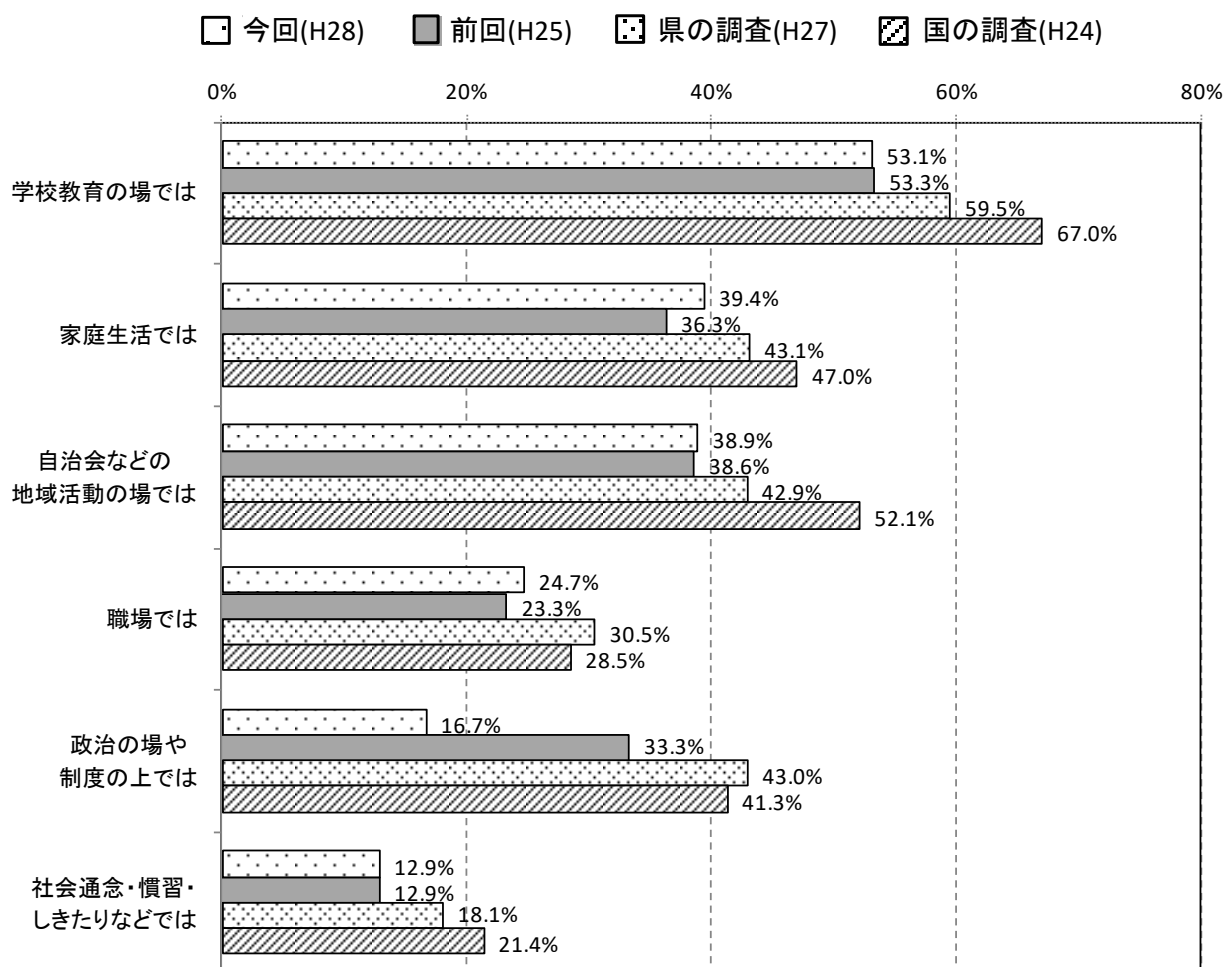
「学校教育の場では」は、男女のすべての年齢層が「平等である」割合が最も高いが、割合をみると、男性の30歳代（48.6%）、50歳代（49.3%）、70歳以上（46.6%）、女性の60歳代（47.5%）と70歳以上（42.3%）が50%を下回っている。

「自治会などの地域活動の場では」は、男性のすべての年齢層と女性の40歳代以上で「平等である」割合が最も高いが、女性の30歳代以下は「わからない」が最も高くなっている。

「男性が優遇されている」割合は「政治の場や制度の上では」と「社会通念・慣習・しきたりなどでは」で男女のすべての年齢層で最も高くなっている。

「職場では」は、男性の50歳代と60歳代で「平等である」割合が最も高い。男性の30歳代と40歳代と70歳代以上、女性のすべての年齢層で「男性が優遇されている」割合が最も高くなっている。

### <男女の地位について「平等である」の割合の前回調査、県、国との比較>



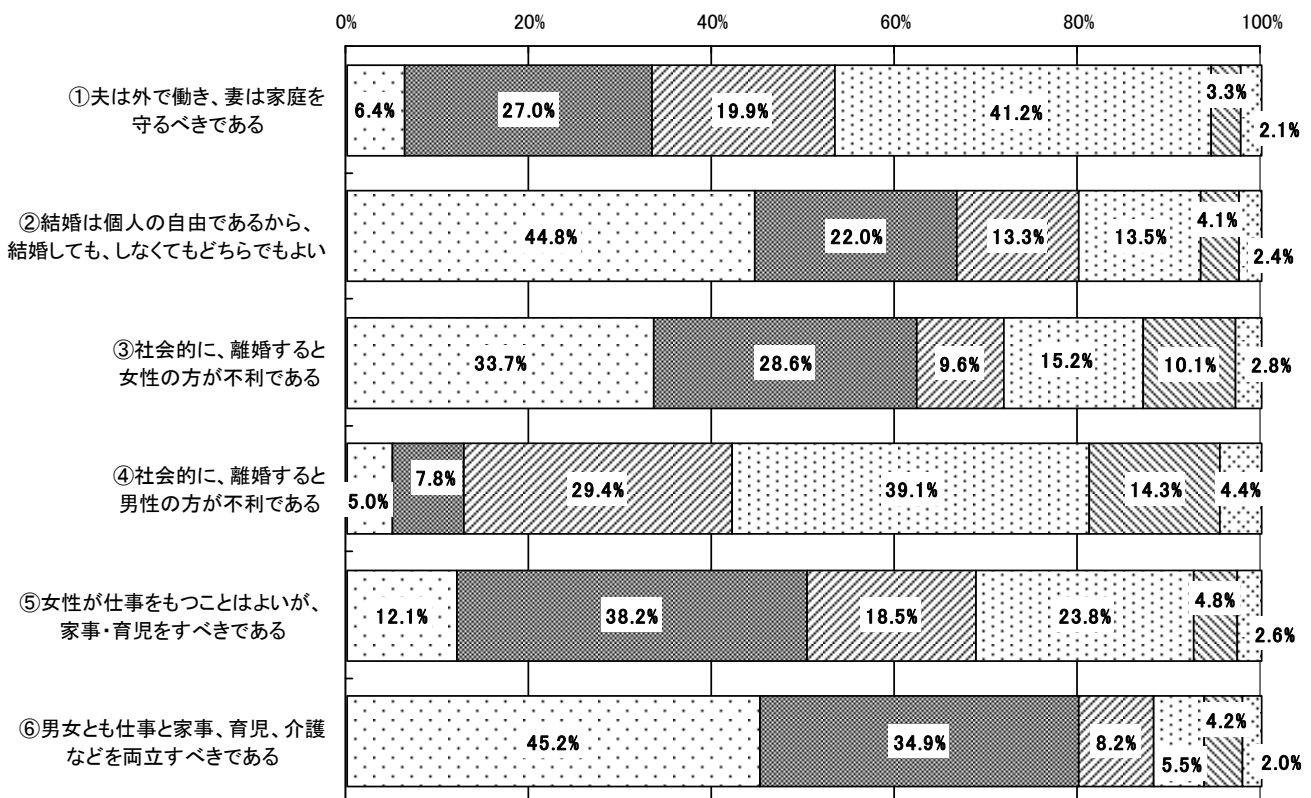
「家庭生活では」、「職場では」、「自治会などの地域活動の場では」の項目は、和歌山市が平成25年度に実施した調査より今回のほうが上回っている。

## 問7 性別役割分担意識について

「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。  
 (各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
- ②結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい
- ③社会的に、離婚すると女性の方が不利である
- ④社会的に、離婚すると男性の方が不利である
- ⑤女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである
- ⑥男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである

思う  
  どちらかといえば思う  
  どちらかといえば思わない  
  思わない  
  わからない  
  無回答



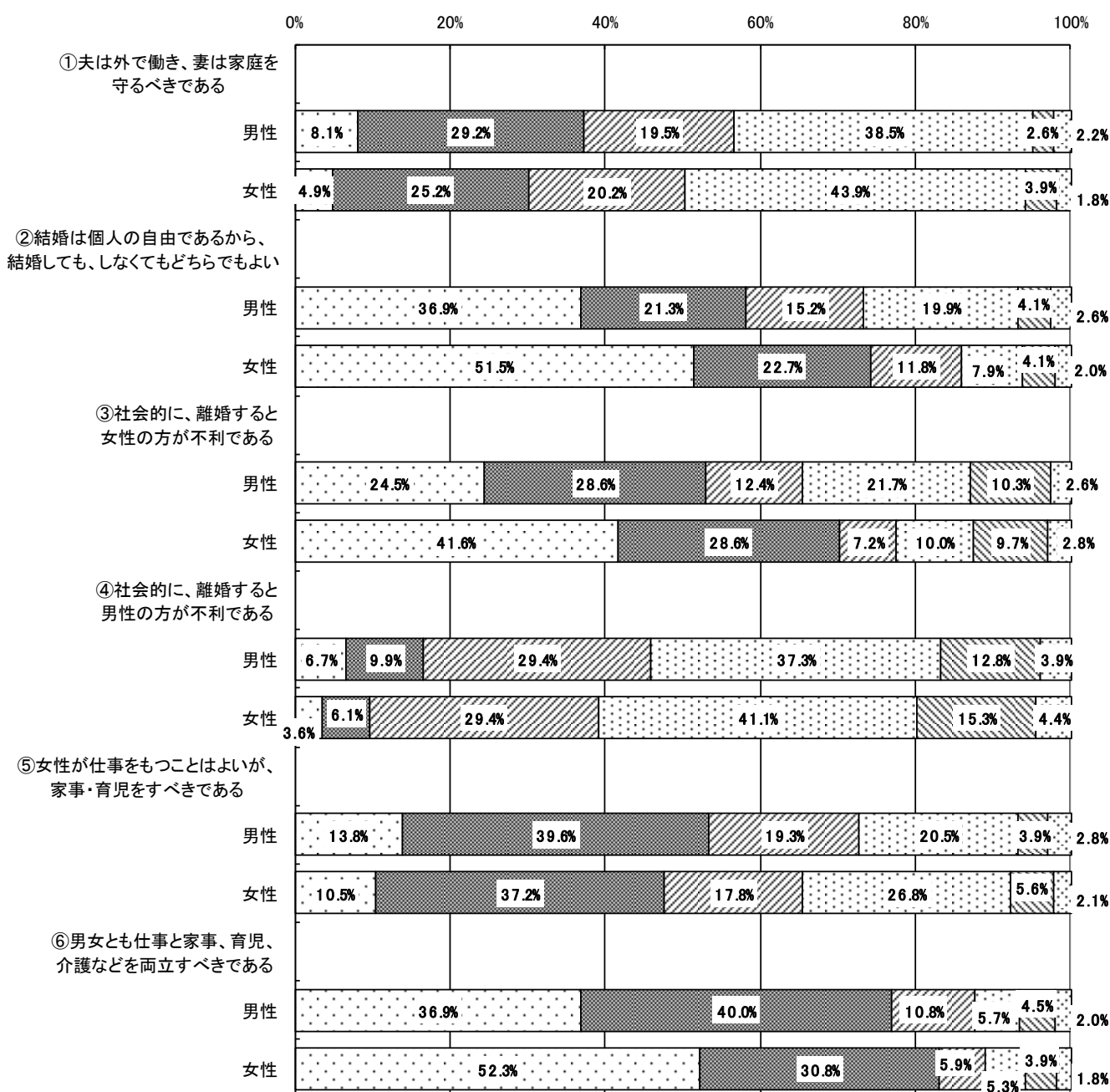
結婚や家庭についての考え方の項目で思う割合(「思う」と「どちらかといえば思う」の計)にみると、「男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである」が80.1%と最も高く、次いで「結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい」(66.8%)、「社会的に、離婚すると女性の方が不利である」(62.3%)の順となっている。

思わない割合(「どちらかといえば思わない」と「思わない」の計)にみると、「社会的に、離婚すると男性の方が不利である」が68.5%と最も高くなっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は思わない割合(61.1%)が思う割合(33.4%)を27.7ポイント上回っている。

## ○性別

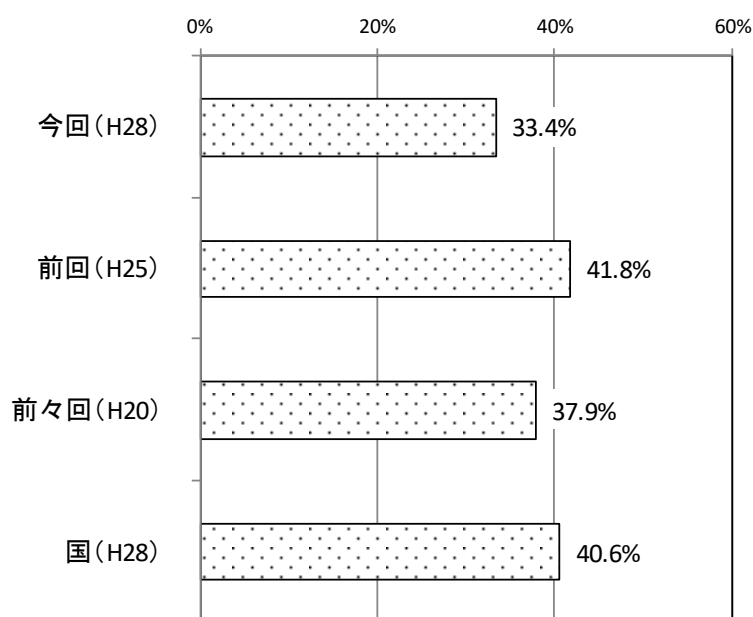
□ 思う    ▨ どちらかといえば思う    ▩ どちらかといえば思わない    □ 思わない    ▨ わからない    □ 無回答



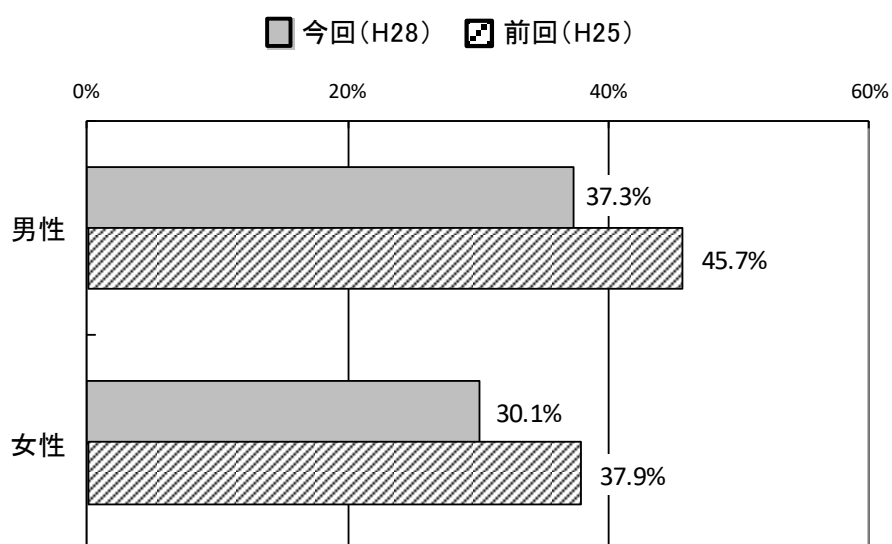
男女ともに「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合より思わない割合が高くなっている。

また、思う割合で「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである」は男性（53.4%）の回答の割合が女性（47.7%）よりやや上回り、「男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである」は女性（83.1%）の回答の割合が男性（76.9%）より6.2ポイント上回っている。

＜固定的性別役割分担意識「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と思う割合  
前回調査、国との比較＞



今回の調査結果は、前回（H25）より高く、前々回（H20）より低くなっている。  
平成 28 年度に実施された国の調査では 40.6%となっている。



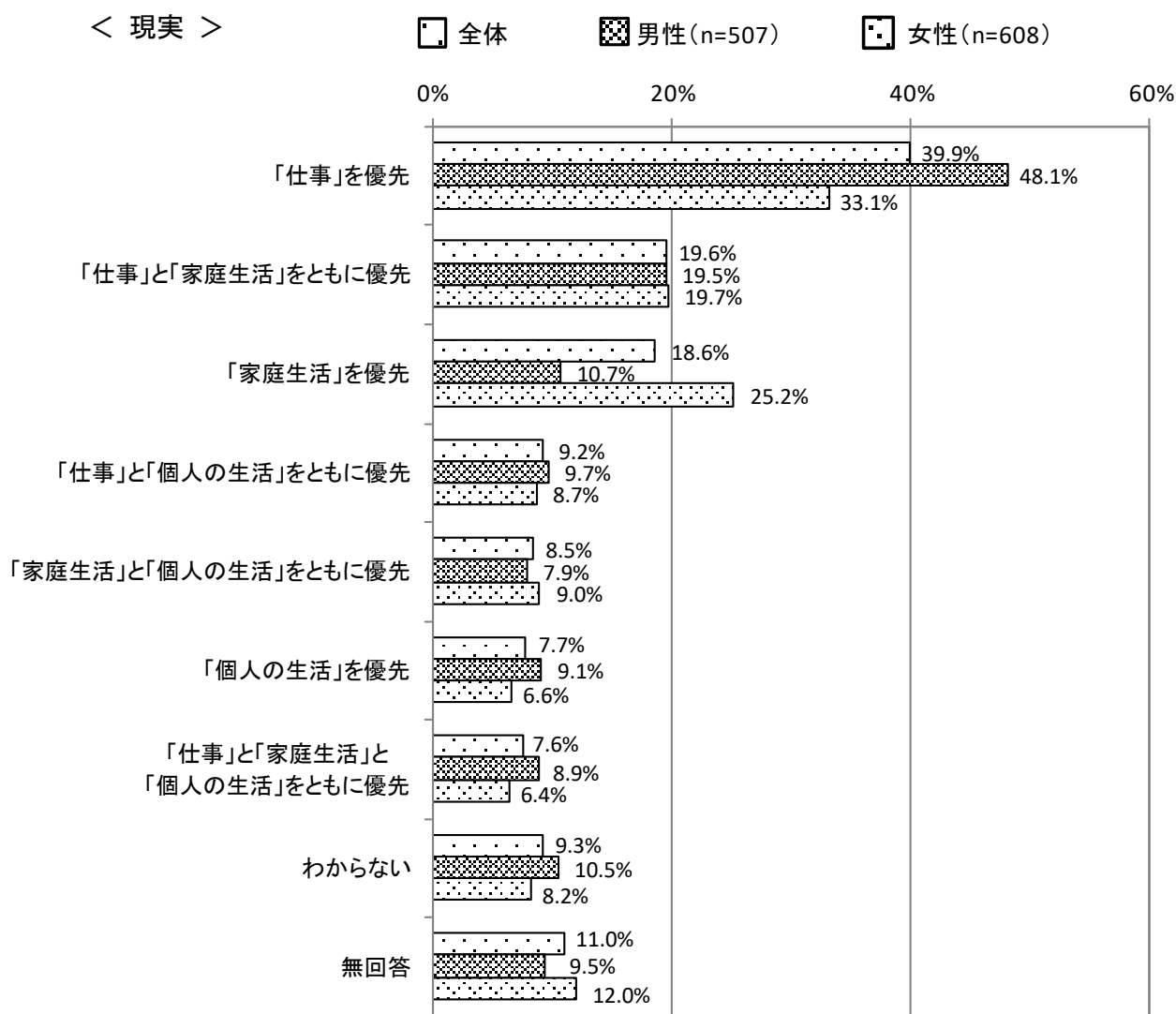
性別にみると、男女ともに前回より今回の割合が低くなっている。  
また、女性より男性が賛成と思う割合が高く、今回は 7.2 ポイント、前回は 7.8 ポイント  
ト男性が女性より高くなっている。

## 問8 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の最も優先したいこと、最も優先していることはどれですか。

（現実と理想について、あてはまる数字に1つだけ○印）

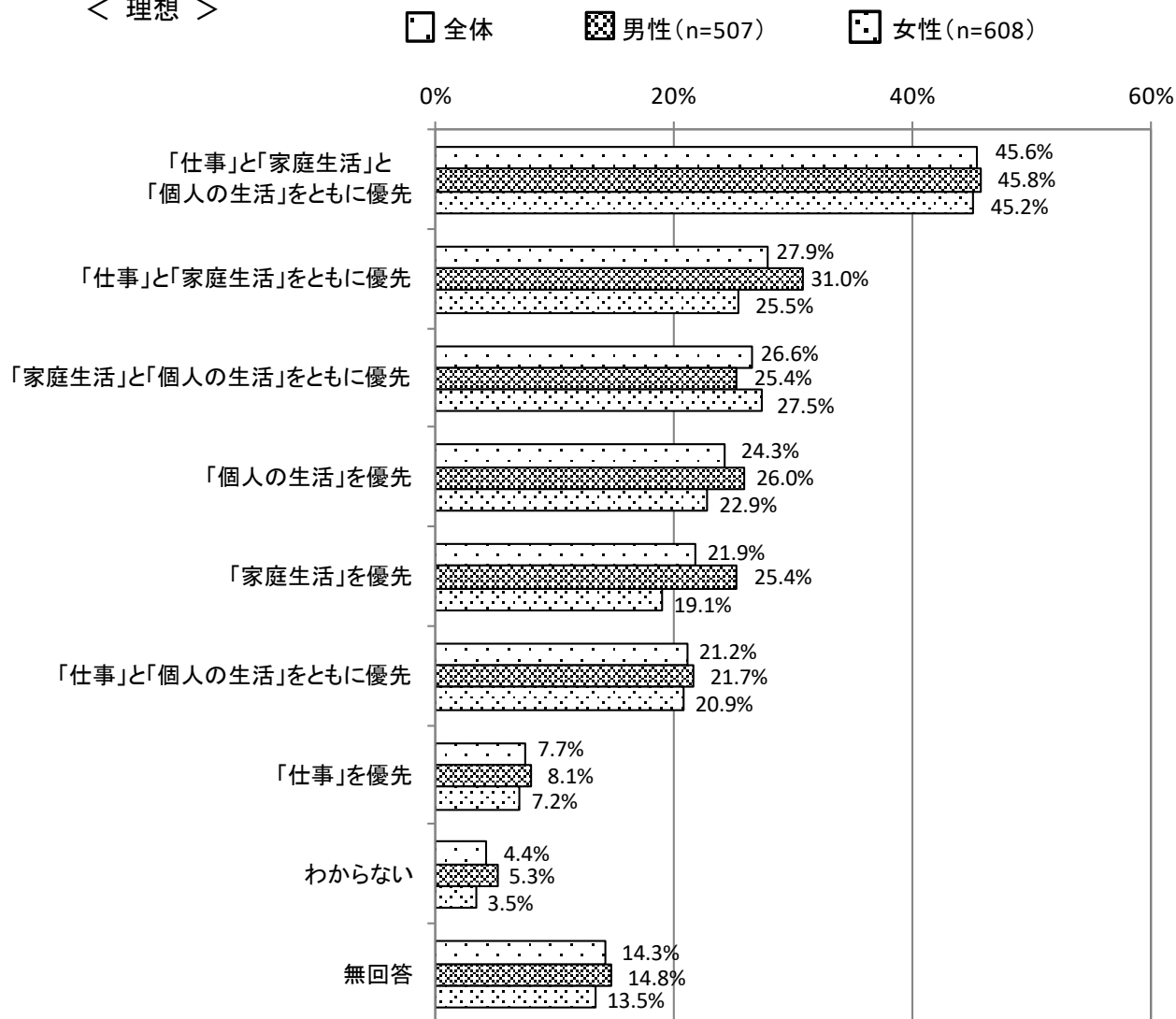
- ①「仕事」を優先
- ②「家庭生活」を優先
- ③「個人の生活」を優先
- ④「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ⑤「仕事」と「個人の生活」をともに優先
- ⑥「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- ⑦「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
- ⑧わからない



仕事と生活の調和について、最も優先しているのは、現実では「『仕事』を優先」（39.9%）の割合が高くなっている。

性別にみると、男女ともに現実には「『仕事』を優先」が最も高くなっている。回答に差がみられたのは、「『仕事』を優先」で、男性（48.1%）が女性（33.1%）より15.0ポイント上回り、「『家庭生活』を優先」で、女性（25.2%）が男性（10.7%）より14.5ポイント上回っている。

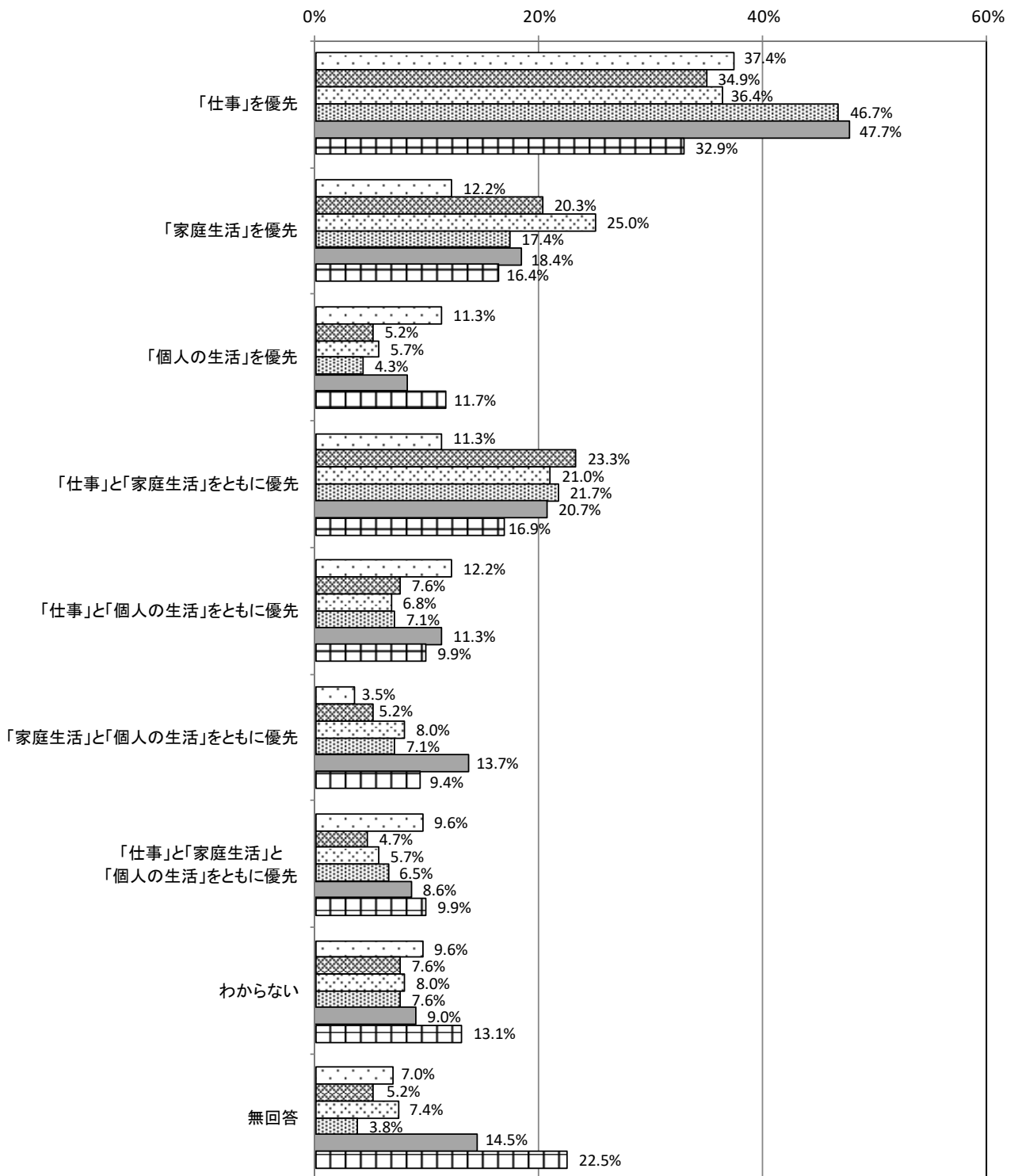
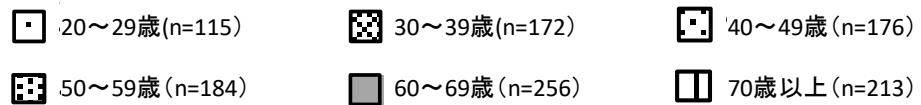
< 理想 >



理想として、最も優先したいのは「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」(45.6%)の割合が高くなっている。

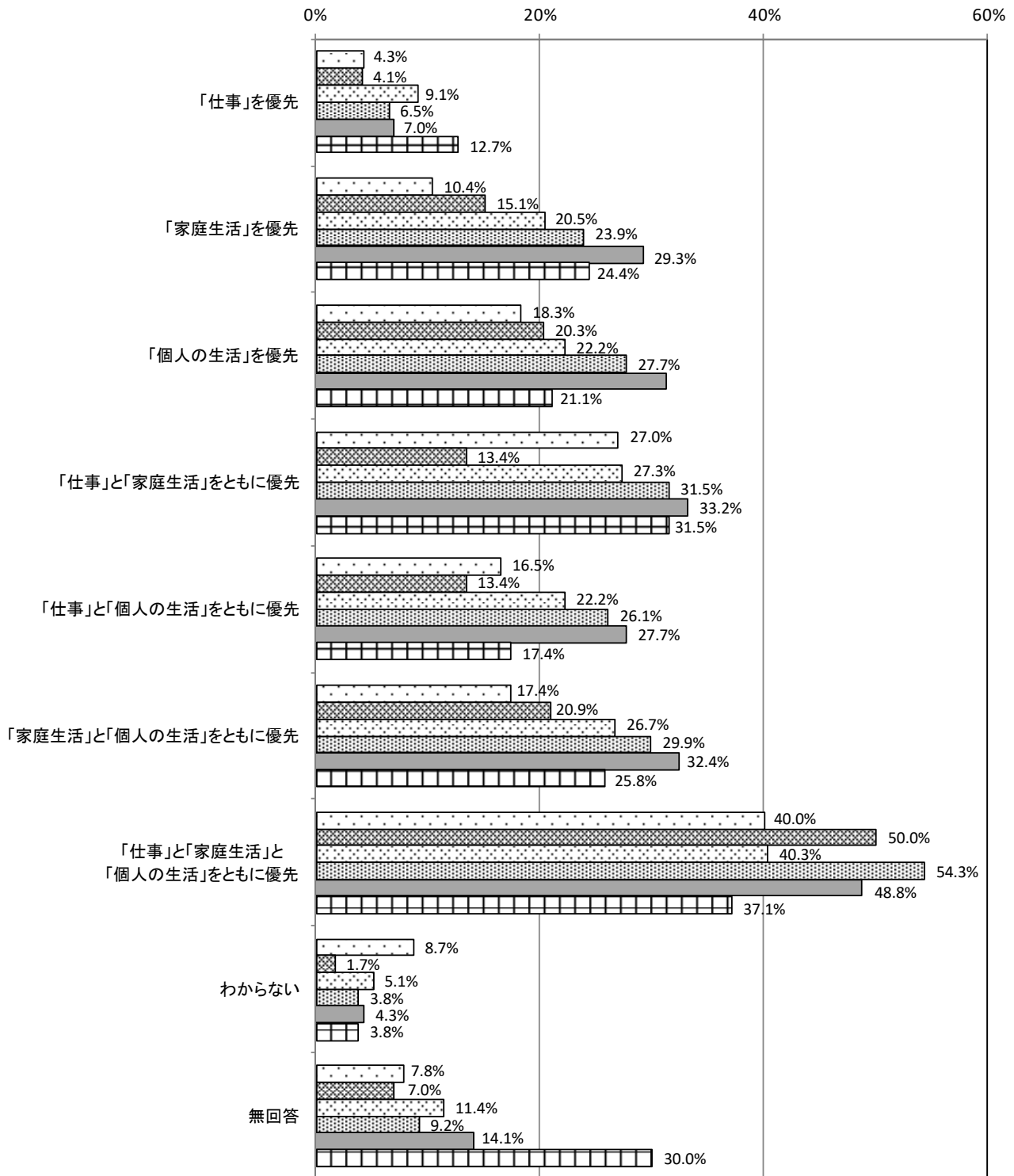
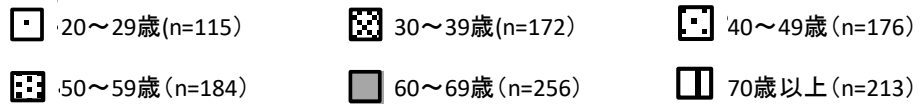
性別にみると、男女ともに理想は「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の割合が最も高くなっている。回答に差がみられたのは、「『家庭生活』を優先」で、女性(19.1%)より男性(25.4%)が6.3ポイント上回り、「『家庭生活』と『個人の生活』を優先」で、男性(25.4%)より女性(27.5%)がやや上回っている。

○年齢別 <現実>



現実には、いずれの年齢層も「『仕事』を優先」の割合が最も高くなっている。2位は30歳代と50歳代、60歳代が「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」となり、20歳代は「『家庭生活』を優先」と「『仕事』と『個人の生活』をともに優先」、40歳代は「『家庭生活』を優先」となっている。

○年齢別 <理想>



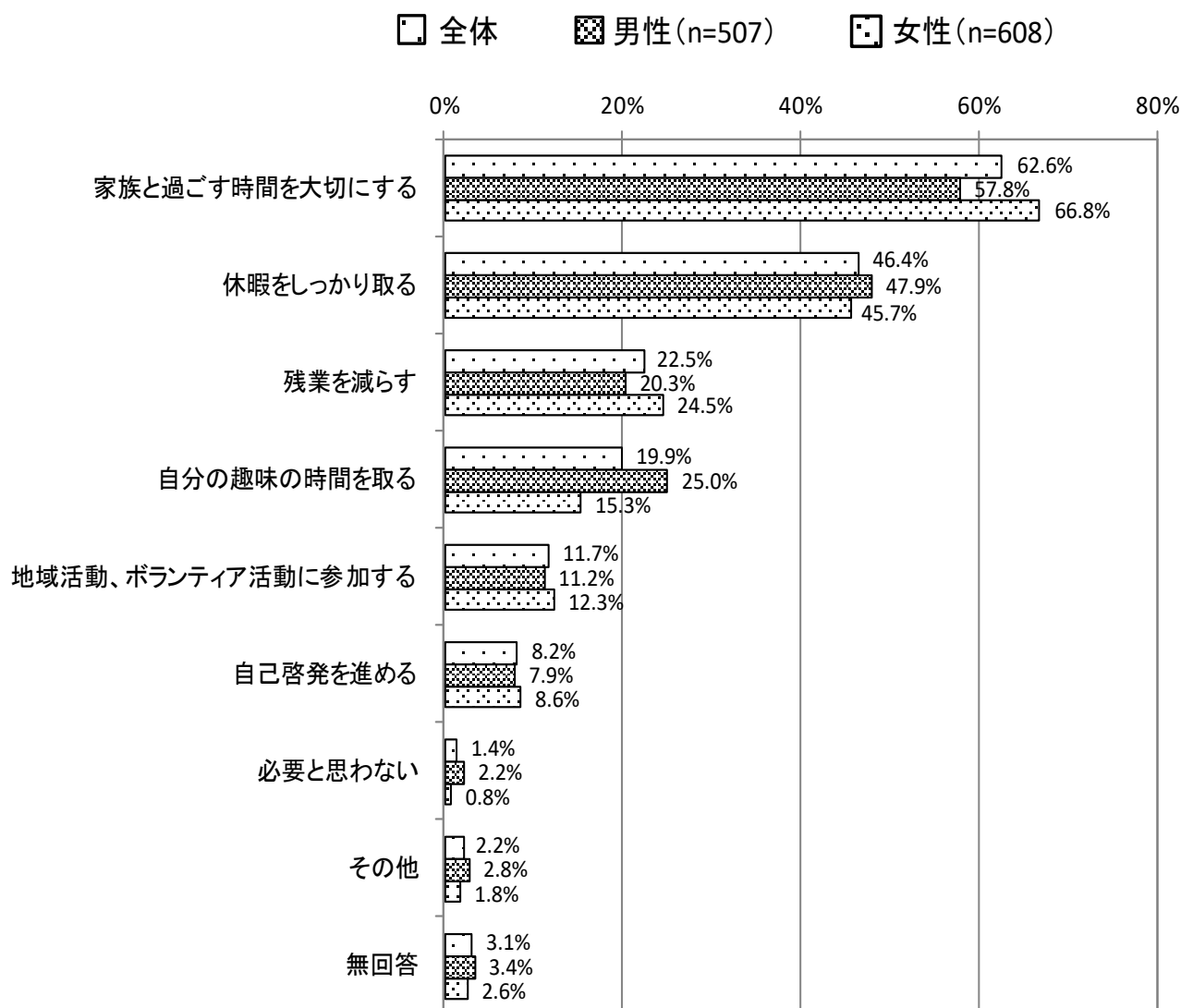
理想は、いずれの年齢層も「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」の割合が最も高くなっている。2位は、30歳代以外の年齢層で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」で、30歳代は「『家庭生活』と『個人の生活』をともに優先」となっている。



## 問9 男性の「仕事と生活の調和」

男性が、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の調和を図るためにはどのようなことが必要と思いますか。（2つまでに○印）

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 1 残業を減らす         | 2 休暇をしっかりと取る         |
| 3 家族と過ごす時間を大切にする | 4 自己啓発を進める           |
| 5 自分の趣味の時間を取る    | 6 地域活動、ボランティア活動に参加する |
| 7 必要と思わない        | 8 その他（ ）             |



男性が生活の中で調和を図るために必要なこととして、「家族と過ごす時間を大切にする」が62.6%と最も高く、次いで「休暇をしっかりと取る」(46.4%)、「残業を減らす」(22.5%)の順となっている。

性別にみると、「休暇をしっかりと取る」と「自分の趣味の時間を大切にする」以外の項目は、男性より女性の割合が上回っている。

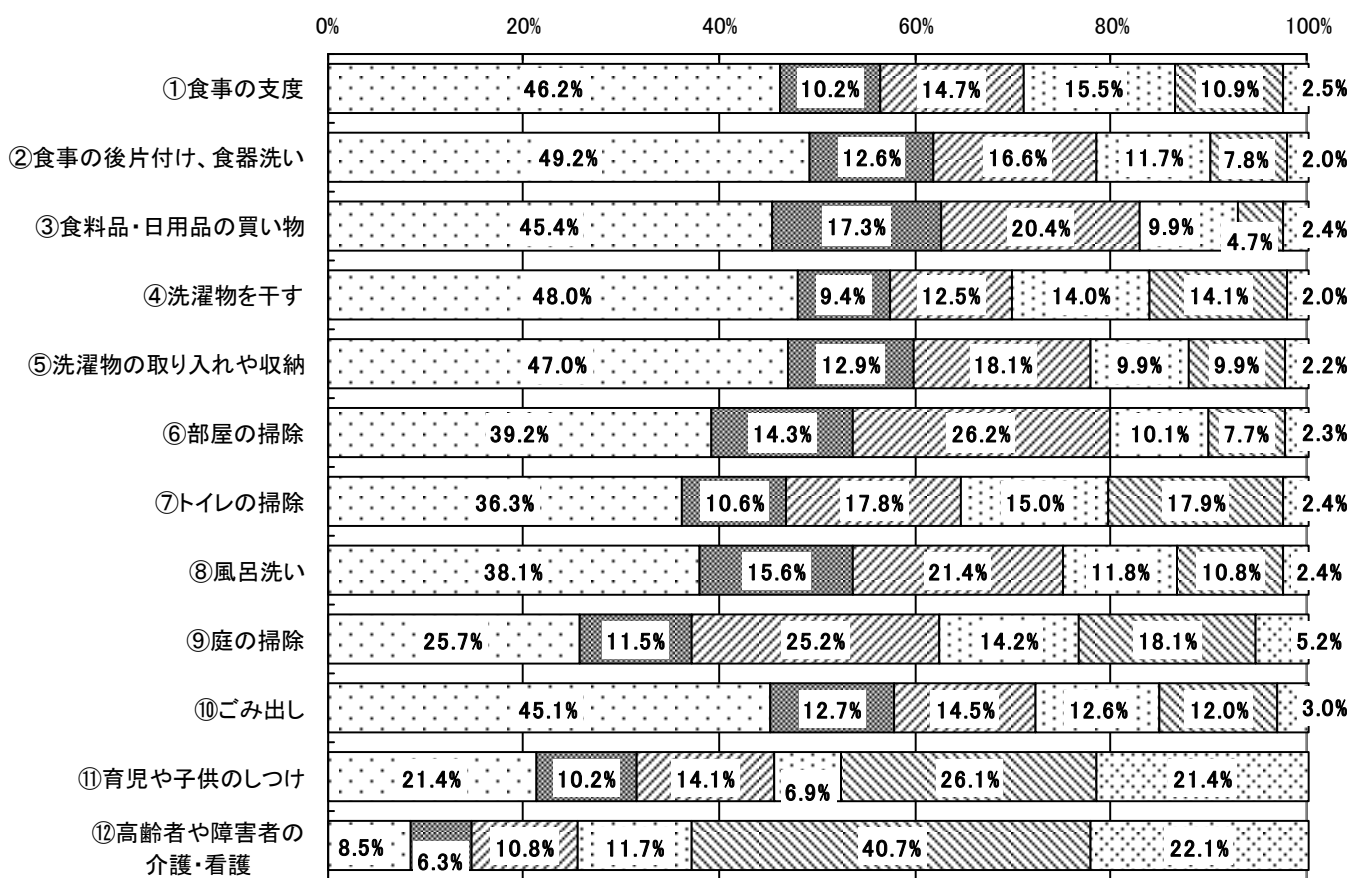
## 問 10 家事について

家事についてどのようなことをしていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| ①食事の支度       | ②食事の後片付け、食器洗い  |
| ③食料品・日用品の買い物 | ④洗濯物を干す        |
| ⑤洗濯物の取り入れや収納 | ⑥部屋の掃除         |
| ⑦トイレの掃除      | ⑧風呂洗い          |
| ⑨庭の掃除        | ⑩ごみ出し          |
| ⑪育児や子供のしつけ   | ⑫高齢者や障害者の介護・看護 |

□ いつもする    ▨ わりとよくする    ▩ とときどきする    □ ほとんどしない    ▩ まったくしない    □ 無回答



家事については、「よくしている」割合（「いつもする」と「わりとよくする」の計）は「食料品・日用品の買い物」が62.7%と最も高く、次いで「食事の後片付け、食器洗い」（61.8%）、「洗濯物の取り入れや収納」（59.9%）の順となっている。「育児や子供のしつけ」と「高齢者や障害者の介護・看護」は対象者が限定されるため、「まったくしない」が「いつもする」の回答の割合を上回っている。

○性別・年齢別表

			いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答
① 食事の支度	男性・年齢別	20～29歳	9.6	17.3	28.8	17.3	26.9	0.0
		30～39歳	6.8	10.8	24.3	29.7	27.0	1.4
		40～49歳	9.6	11.0	27.4	35.6	9.6	6.8
		50～59歳	9.3	12.0	24.0	33.3	20.0	1.3
		60～69歳	18.8	11.1	24.8	27.4	15.4	2.6
		70歳以上	17.2	12.1	19.0	25.9	23.3	2.6
	女性・年齢別	20～29歳	37.1	12.9	11.3	24.2	12.9	1.6
		30～39歳	62.2	16.3	13.3	5.1	2.0	1.0
		40～49歳	81.6	7.8	5.8	1.9	2.9	0.0
		50～59歳	83.5	7.3	6.4	0.9	0.9	0.9
		60～69歳	89.2	5.0	0.7	2.9	1.4	0.7
		70歳以上	69.1	7.2	8.2	1.0	5.2	9.3
② 食事の後片付け・食器洗い	男性・年齢別	20～29歳	7.7	15.4	30.8	28.8	17.3	0.0
		30～39歳	16.2	13.5	33.8	21.6	13.5	1.4
		40～49歳	12.3	15.1	38.4	21.9	11.0	1.4
		50～59歳	17.3	22.7	21.3	24.0	14.7	0.0
		60～69歳	20.5	15.4	27.4	20.5	13.7	2.6
		70歳以上	21.6	12.9	25.0	20.7	16.4	3.4
	女性・年齢別	20～29歳	43.5	12.9	19.4	12.9	9.7	1.6
		30～39歳	73.5	12.2	12.2	1.0	0.0	1.0
		40～49歳	81.6	12.6	2.9	1.9	1.0	0.0
		50～59歳	87.2	6.4	3.7	1.8	0.9	0.0
		60～69歳	84.9	10.8	0.0	2.2	1.4	0.7
		70歳以上	69.1	7.2	9.3	2.1	4.1	8.2
③ 食料品・日用品の買い物	男性・年齢別	20～29歳	13.5	19.2	32.7	28.8	5.8	0.0
		30～39歳	14.9	16.2	36.5	27.0	2.7	2.7
		40～49歳	12.3	21.9	50.7	9.6	4.1	1.4
		50～59歳	14.7	33.3	28.0	13.3	9.3	1.3
		60～69歳	23.1	23.1	28.2	17.1	5.1	3.4
		70歳以上	24.1	17.2	29.3	9.5	16.4	3.4
	女性・年齢別	20～29歳	29.0	17.7	24.2	21.0	6.5	1.6
		30～39歳	64.3	18.4	13.3	3.1	0.0	1.0
		40～49歳	81.6	8.7	7.8	0.0	1.9	0.0
		50～59歳	85.3	8.3	4.6	0.9	0.0	0.9
		60～69歳	78.4	11.5	7.9	0.7	0.7	0.7
		70歳以上	48.5	19.6	8.2	8.2	6.2	9.3
④ 洗濯物を干す	男性・年齢別	20～29歳	15.4	15.4	15.4	25.0	28.8	0.0
		30～39歳	9.5	9.5	21.6	29.7	27.0	2.7
		40～49歳	6.8	19.2	19.2	30.1	24.7	0.0
		50～59歳	14.7	12.0	22.7	20.0	30.7	0.0
		60～69歳	17.9	6.0	25.6	21.4	25.6	3.4
		70歳以上	25.0	8.6	12.9	22.4	27.6	3.4
	女性・年齢別	20～29歳	38.7	11.3	12.9	19.4	16.1	1.6
		30～39歳	64.3	17.3	10.2	7.1	0.0	1.0
		40～49歳	82.5	7.8	5.8	2.9	1.0	0.0
		50～59歳	85.3	4.6	6.4	2.8	0.9	0.0
		60～69歳	87.1	6.5	3.6	0.7	1.4	0.7
		70歳以上	71.1	5.2	4.1	5.2	6.2	8.2
⑤ 洗濯物の取り入れや収納	男性・年齢別	20～29歳	19.2	23.1	21.2	15.4	21.2	0.0
		30～39歳	9.5	9.5	36.5	28.4	13.5	2.7
		40～49歳	6.8	19.2	37.0	17.8	17.8	1.4
		50～59歳	12.0	22.7	30.7	12.0	22.7	0.0
		60～69歳	19.7	11.1	31.6	17.1	17.9	2.6
		70歳以上	24.1	12.1	25.0	14.7	20.7	3.4
	女性・年齢別	20～29歳	40.3	14.5	19.4	14.5	9.7	1.6
		30～39歳	66.3	15.3	16.3	1.0	0.0	1.0
		40～49歳	81.6	10.7	3.9	1.9	1.9	0.0
		50～59歳	77.1	13.8	6.4	1.8	0.9	0.0
		60～69歳	83.5	7.9	5.0	0.7	1.4	1.4
		70歳以上	71.1	6.2	2.1	7.2	4.1	9.3

○性別・年齢別表

		いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答	
⑥ 部屋の掃除	男性・年齢別	20～29歳	13.5	15.4	57.7	7.7	5.8	0.0
		30～39歳	12.2	9.5	39.2	23.0	12.2	4.1
		40～49歳	6.8	19.2	31.5	23.3	17.8	1.4
		50～59歳	8.0	17.3	42.7	18.7	13.3	0.0
		60～69歳	17.1	12.0	34.2	17.9	15.4	3.4
		70歳以上	19.0	8.6	34.5	17.2	17.2	3.4
	女性・年齢別	20～29歳	27.4	24.2	33.9	6.5	6.5	1.6
		30～39歳	60.2	17.3	18.4	3.1	0.0	1.0
		40～49歳	70.9	12.6	14.6	1.0	1.0	0.0
		50～59歳	68.8	11.9	16.5	2.8	0.0	0.0
		60～69歳	66.2	16.5	12.2	2.2	1.4	1.4
		70歳以上	52.6	14.4	10.3	7.2	7.2	8.2
⑦ トイレの掃除	男性・年齢別	20～29歳	9.6	3.8	23.1	26.9	36.5	0.0
		30～39歳	9.5	10.8	18.9	21.6	36.5	2.7
		40～49歳	11.0	6.8	17.8	31.5	30.1	2.7
		50～59歳	6.7	12.0	25.3	21.3	33.3	1.3
		60～69歳	13.7	7.7	21.4	28.2	26.5	2.6
		70歳以上	17.2	3.4	16.4	29.3	28.4	5.2
	女性・年齢別	20～29歳	24.2	12.9	16.1	14.5	30.6	1.6
		30～39歳	55.1	10.2	19.4	7.1	7.1	1.0
		40～49歳	66.0	10.7	18.4	1.0	3.9	0.0
		50～59歳	66.1	14.7	13.8	5.5	0.0	0.0
		60～69歳	63.3	18.0	11.5	2.9	2.9	1.4
		70歳以上	48.5	12.4	18.6	5.2	8.2	7.2
⑧ 風呂洗い	男性・年齢別	20～29歳	11.5	30.8	25.0	15.4	17.3	0.0
		30～39歳	8.1	18.9	31.1	21.6	17.6	2.7
		40～49歳	13.7	23.3	30.1	20.5	11.0	1.4
		50～59歳	10.7	21.3	37.3	16.0	14.7	0.0
		60～69歳	24.8	19.7	22.2	14.5	16.2	2.6
		70歳以上	29.3	11.2	19.8	13.8	20.7	5.2
	女性・年齢別	20～29歳	22.6	12.9	25.8	19.4	17.7	1.6
		30～39歳	53.1	10.2	18.4	12.2	5.1	1.0
		40～49歳	61.2	11.7	19.4	5.8	1.9	0.0
		50～59歳	62.4	12.8	15.6	5.5	3.7	0.0
		60～69歳	63.3	15.8	12.9	3.6	2.9	1.4
		70歳以上	47.4	9.3	16.5	6.2	11.3	9.3
⑨ 庭の掃除	男性・年齢別	20～29歳	7.7	1.9	17.3	15.4	50.0	7.7
		30～39歳	6.8	9.5	14.9	20.3	43.2	5.4
		40～49歳	9.6	17.8	20.5	21.9	26.0	4.1
		50～59歳	17.3	14.7	29.3	18.7	20.0	0.0
		60～69歳	19.7	14.5	29.1	18.8	11.1	6.8
		70歳以上	21.6	12.9	29.3	10.3	19.0	6.9
	女性・年齢別	20～29歳	9.7	3.2	12.9	22.6	46.8	4.8
		30～39歳	26.5	7.1	28.6	16.3	19.4	2.0
		40～49歳	40.8	3.9	26.2	18.4	8.7	1.9
		50～59歳	40.4	9.2	32.1	11.0	7.3	0.0
		60～69歳	41.7	23.7	25.2	2.2	2.2	5.0
		70歳以上	34.0	9.3	23.7	8.2	8.2	16.5
⑩ ごみ出し	男性・年齢別	20～29歳	17.3	19.2	21.2	17.3	25.0	0.0
		30～39歳	37.8	5.4	17.6	13.5	23.0	2.7
		40～49歳	27.4	15.1	23.3	16.4	15.1	2.7
		50～59歳	28.0	29.3	13.3	12.0	17.3	0.0
		60～69歳	33.3	17.1	20.5	12.8	13.7	2.6
		70歳以上	43.1	12.1	18.1	11.2	11.2	4.3
	女性・年齢別	20～29歳	25.8	12.9	17.7	16.1	25.8	1.6
		30～39歳	43.9	14.3	16.3	15.3	9.2	1.0
		40～49歳	59.2	3.9	14.6	14.6	5.8	1.9
		50～59歳	69.7	11.0	6.4	8.3	4.6	0.0
		60～69歳	64.7	10.1	10.1	9.4	3.6	2.2
		70歳以上	52.6	8.2	4.1	10.3	11.3	13.4

○性別・年齢別表

			いつもする	わりとよくする	ときどきする	ほとんどしない	まったくしない	無回答	
⑪ 育児や子供のしつけ	男性・年齢別	20～29歳	1.9	5.8	11.5	5.8	59.6	15.4	
		30～39歳	6.8	10.8	28.4	4.1	40.5	9.5	
		40～49歳	11.0	23.3	30.1	4.1	20.5	11.0	
		50～59歳	2.7	16.0	28.0	10.7	28.0	14.7	
		60～69歳	1.7	12.8	29.1	16.2	16.2	23.9	
		70歳以上	0.9	5.2	18.1	19.0	22.4	34.5	
		女性・年齢別	20～29歳	16.1	1.6	4.8	0.0	59.7	17.7
	30～39歳	53.1	7.1	1.0	1.0	29.6	8.2		
	40～49歳	55.3	5.8	3.9	1.0	19.4	14.6		
	50～59歳	42.2	11.9	4.6	7.3	16.5	17.4		
	60～69歳	29.5	12.2	10.1	4.3	17.3	26.6		
	70歳以上	15.5	9.3	5.2	4.1	21.6	44.3		
	⑫ 高齢者や障害者の介護・	男性・年齢別	20～29歳	11.5	1.9	13.5	9.6	50.0	13.5
			30～39歳	1.4	4.1	5.4	8.1	70.3	10.8
40～49歳			2.7	4.1	15.1	12.3	50.7	15.1	
50～59歳			2.7	6.7	22.7	22.7	32.0	13.3	
60～69歳			4.3	9.4	21.4	17.9	23.9	23.1	
70歳以上			6.0	2.6	10.3	18.1	28.4	34.5	
女性・年齢別			20～29歳	8.1	4.8	4.8	9.7	62.9	9.7
30～39歳		2.0	5.1	4.1	7.1	72.4	9.2		
40～49歳		11.7	3.9	4.9	7.8	52.4	19.4		
50～59歳		21.1	11.9	12.8	8.3	29.4	16.5		
60～69歳		15.8	7.9	12.2	7.2	25.9	30.9		
70歳以上		8.2	8.2	1.0	12.4	24.7	45.4		

「よくする」割合は、いずれの項目も女性が高くなっている。男性は、40歳代以上で「ごみ出し」が5割を超えている。

男性の「ときどきする」割合が高くみられる項目は、「食事の後片付け、食器洗い」（20～40歳代、60歳代以上）、「食料品・日用品の買い物」（20～40歳代、60歳代以上）、「洗濯物の取り入れや収納」（30歳代以上）、「部屋の掃除」（全年齢層）となっている。

「食事の支度」の回答は、男性の30歳代以上は「ほとんどしない」割合が最も高く、女性はすべての年齢層で「いつもする」割合が最も高くなっている。

「洗濯物を干す」と「トイレの掃除」の回答について、男性のすべての年齢層で「ほとんどしない」と「まったくしない」割合を合わせると5割を超えている。

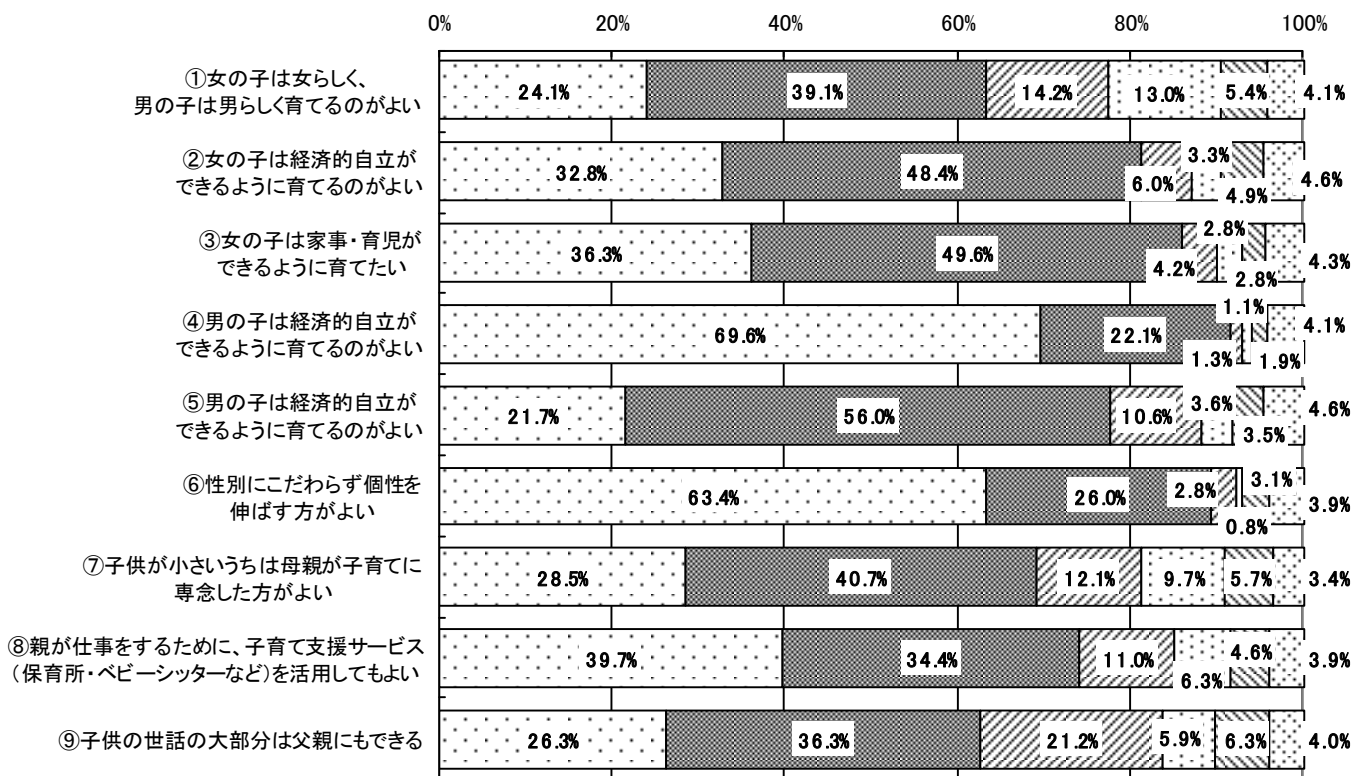
## 問 11 子供の育て方

子供の育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい
- ②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい
- ⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい
- ⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい
- ⑦子供が小さいうちは母親が子育てに専念した方がよい
- ⑧親が仕事をするために、子育て支援サービス（保育所・ベビーシッターなど）を活用してもよい
- ⑨子供の世話の大部分は父親にもできる

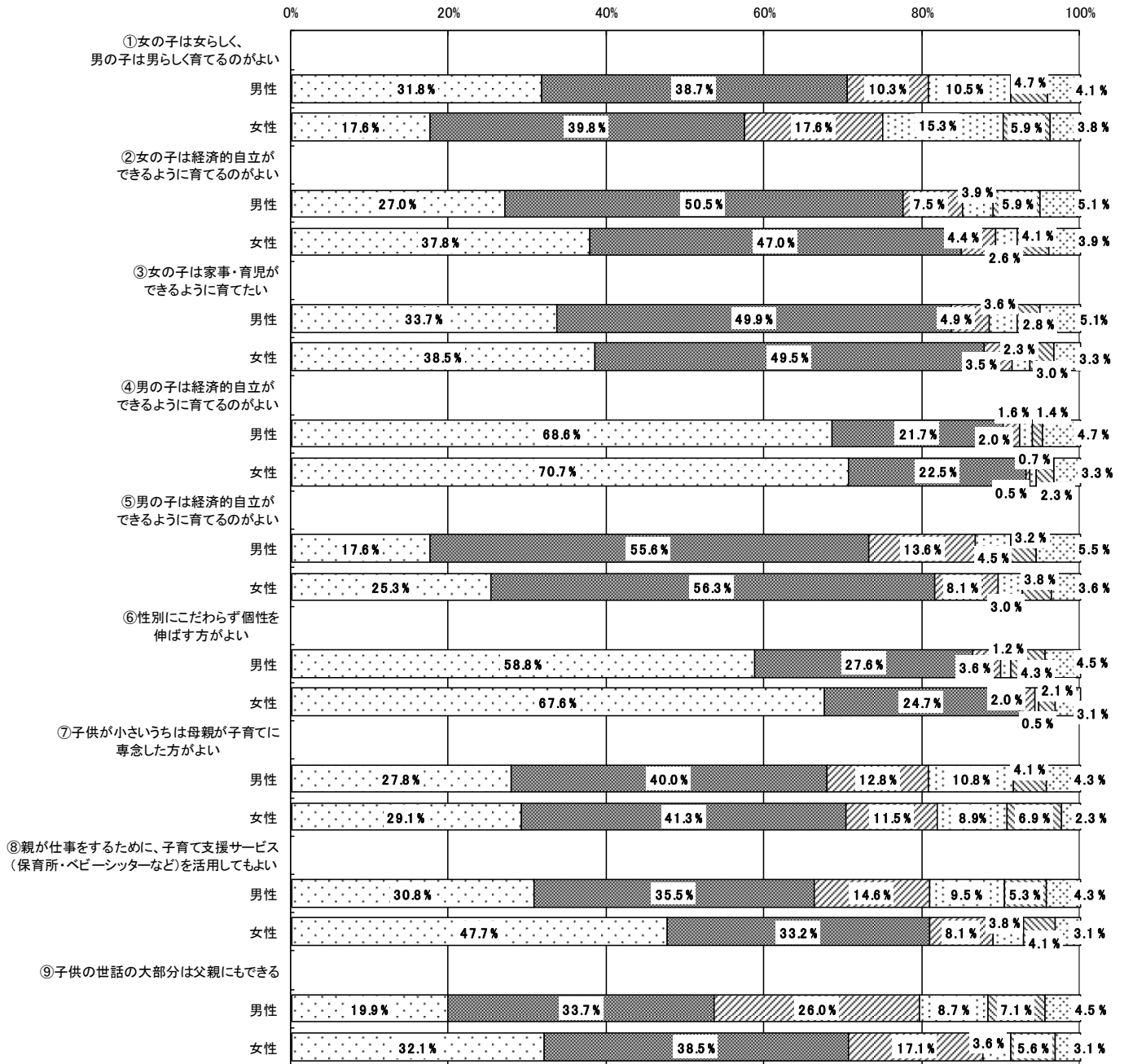
□ 思う    ▨ どちらかといえば思う    ▩ どちらかといえば思わない    □ 思わない    ▨ わからない    □ 無回答



子供の育て方は、「男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい」と思う割合（「思う」と「どちらかといえば思う」の計）が91.7%と最も高く、次いで「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」が89.4%となっている。「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」と思わない割合（「どちらかといえば思わない」と「思わない」の計）が27.2%と最も高くなっている。

○性別

□ 思う    ▨ どちらかといえば思う    ▩ どちらかといえば思わない    □ 思わない    ▨ わからない    □ 無回答



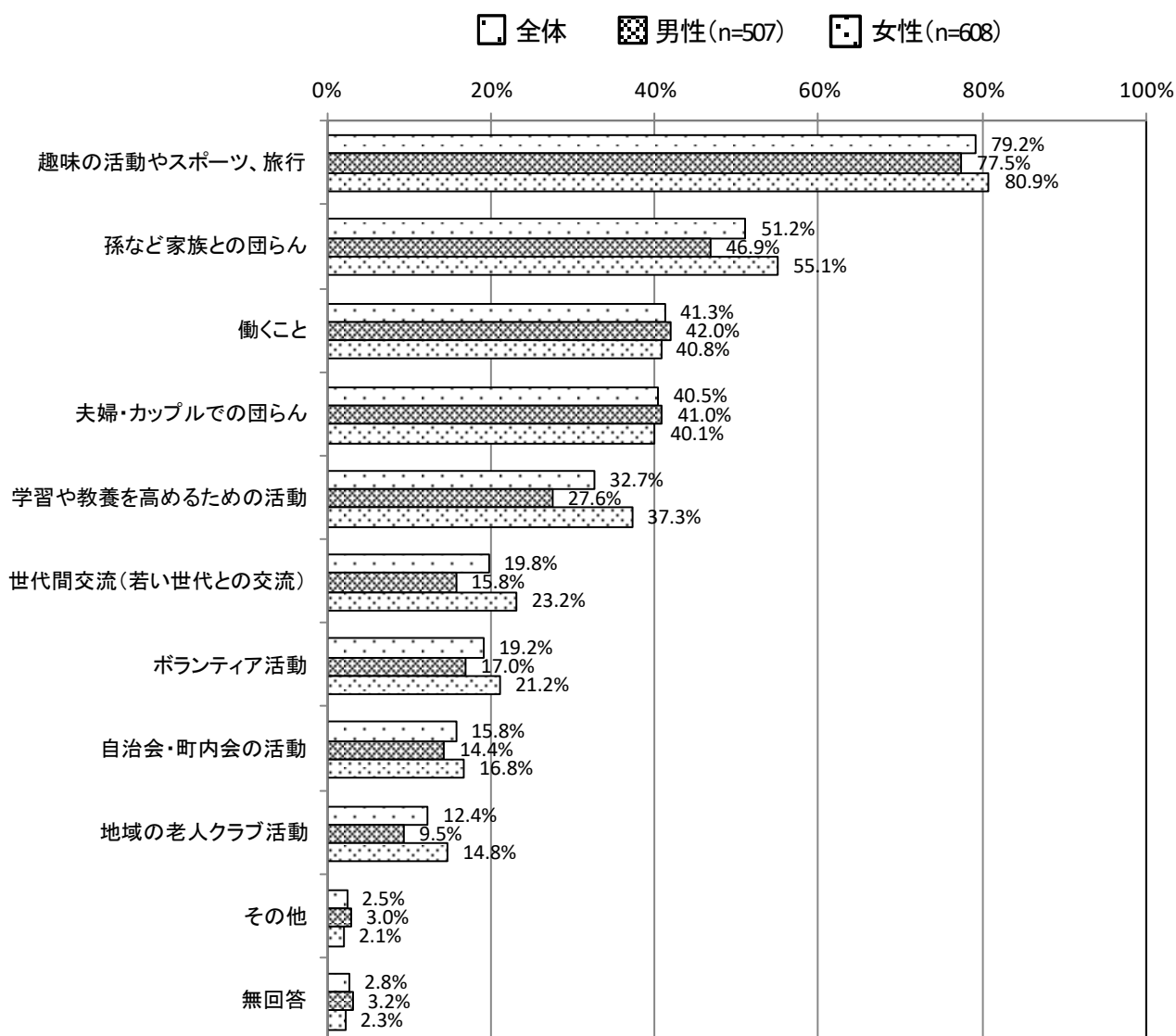
「子供の世話の大部分は父親にもできる」と思う割合は、男性（53.6%）より女性（70.6%）が 17.0 ポイント上回っている。「親が仕事をするために、子育て支援サービス（保育所・ベビーシッターなど）を活用してもよい」と思う割合は、男性（66.3%）より女性（80.9%）が 14.6 ポイント上回っている。

## 2 高齢期について

### 問 12 高齢期の過ごし方

高齢期をいきいきと送るためにやってみたいことはありますか。(高齢者の方は、現在行っていること)(あてはまるものすべてに○印)

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 働くこと          | 2 学習や教養を高めるための活動  |
| 3 趣味の活動やスポーツ、旅行 | 4 世代間交流(若い世代との交流) |
| 5 ボランティア活動      | 6 地域の老人クラブ活動      |
| 7 自治会・町内会の活動    | 8 孫など家族との団らん      |
| 9 夫婦・カップルでの団らん  | 10 その他( )         |



高齢期の過ごし方として、「趣味の活動やスポーツ、旅行」が79.2%と最も割合が高く、次いで、「孫など家族との団らん」(51.2%)、「働くこと」(41.3%)の順となっている。

性別にみると、順位に大きな差はみられないが、「夫婦・カップルでの団らん」の回答は女性(40.1%)より男性(41.0%)がやや上回っている。「学習や教養を高めるための活動」の回答は男性(27.6%)より女性(37.3%)が9.7ポイント上回っている。



### 3 地域活動について

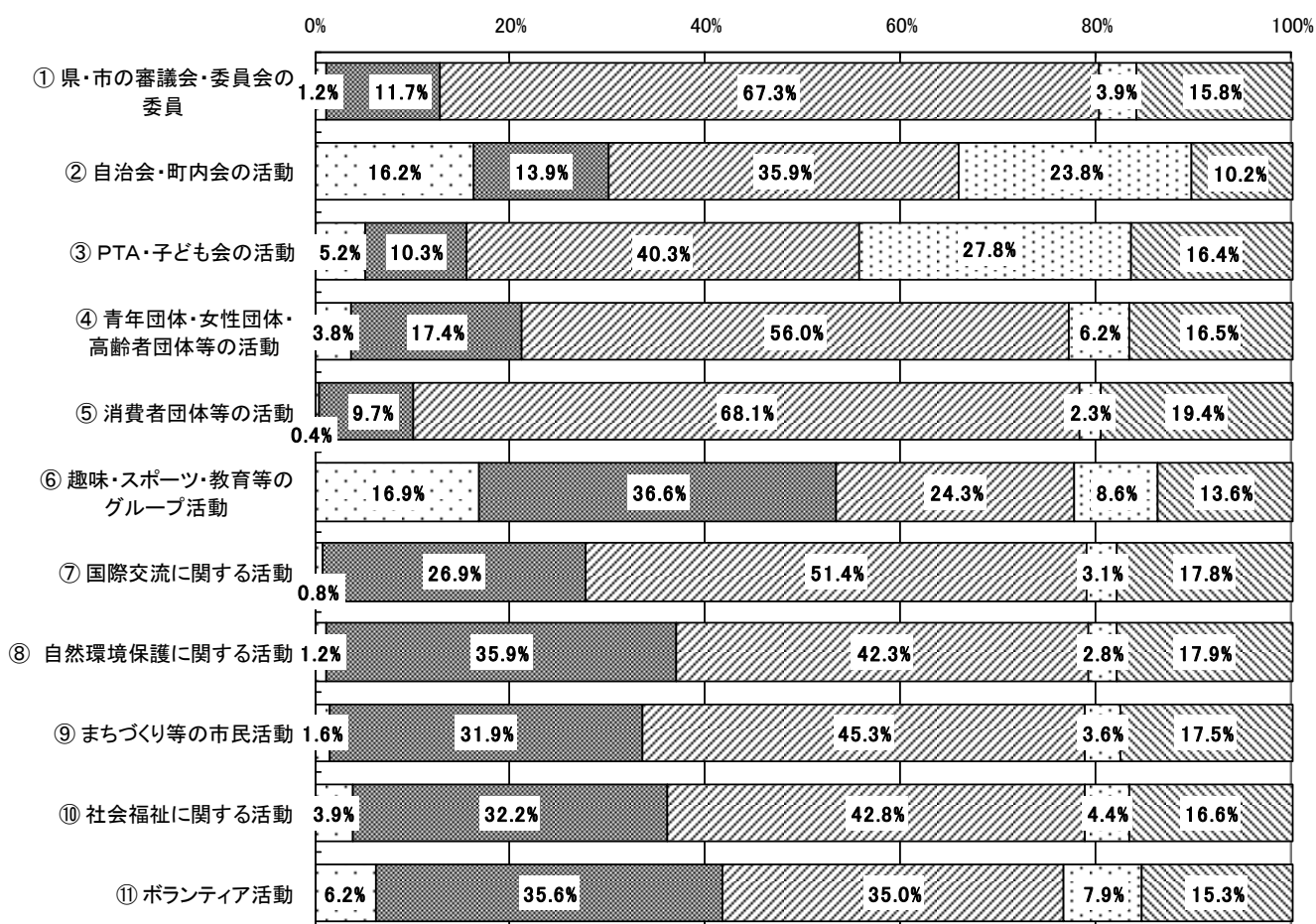
#### 問 13 社会活動、地域活動の参加

社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| ① 県・市の審議会・委員会の委員 | ② 自治会・町内会の活動          |
| ③ P T A・子ども会の活動  | ④ 青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動 |
| ⑤ 消費者団体等の活動      | ⑥ 趣味・スポーツ・教養等のグループ活動  |
| ⑦ 国際交流に関する活動     | ⑧ 自然環境保護に関する活動        |
| ⑨ まちづくり等の市民活動    | ⑩ 社会福祉に関する活動          |
| ⑪ ボランティア活動       |                       |

現在、参加している
  今後は参加したい
  参加したくない
  以前、参加したことがある
  無回答

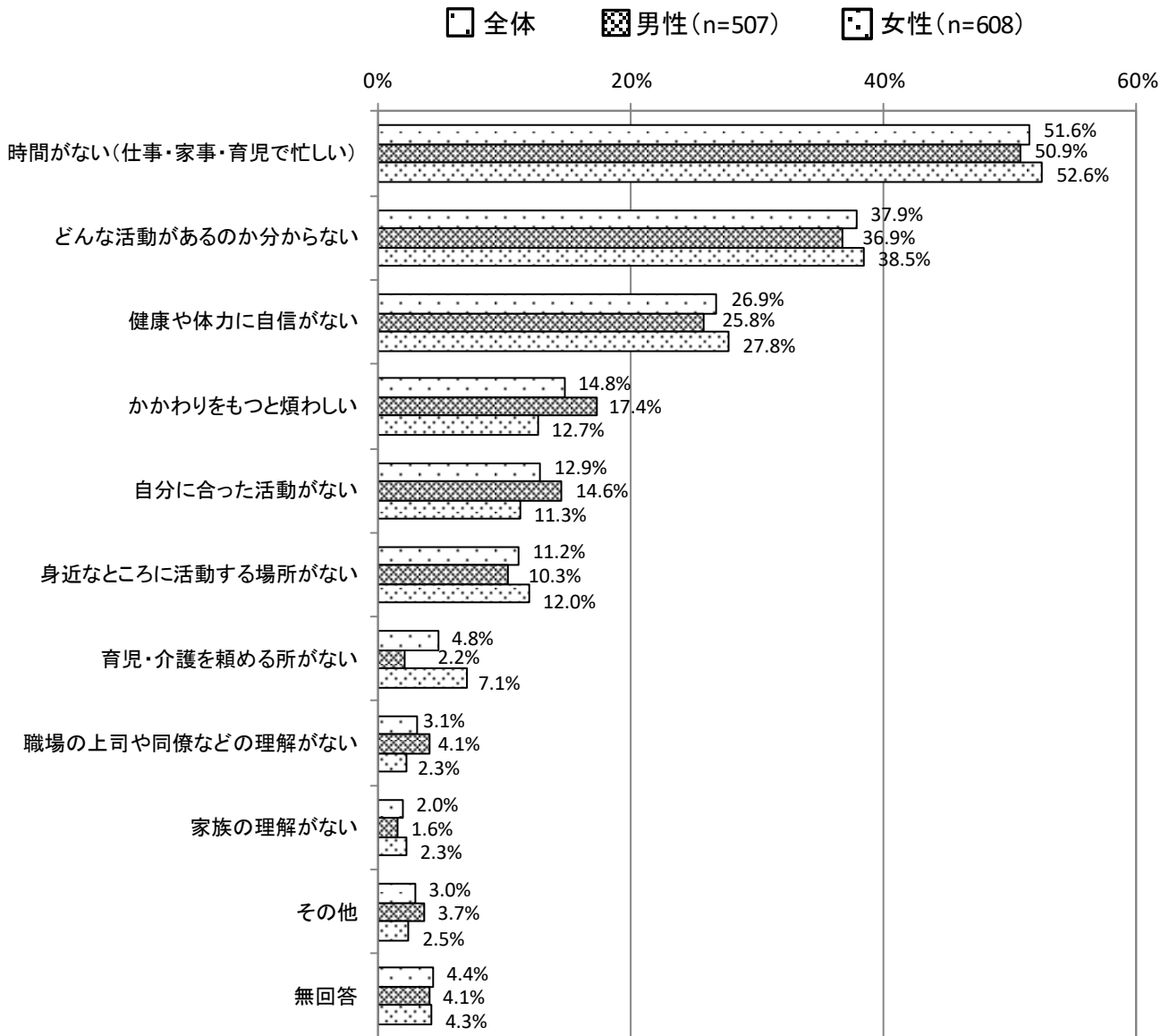


社会活動、地域活動への参加については、「現在、参加している」は「趣味・スポーツ・教養等のグループ活動」が16.9%、「今後は参加したい」は「趣味・スポーツ・教養等のグループ活動」が36.6%と最も割合が高くなっている。「参加したくない」は「消費者団体等の活動」が68.1%、「以前、参加したことがある」は「P T A・子ども会の活動」が27.8%と最も割合が高くなっている。

## 問 14 社会活動、地域活動の参加への問題

社会活動、地域活動に参加しようとするときに問題になることはどのようなことですか。  
(2つまでに○印)

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 時間がない(仕事・家事・育児で忙しい) | 2 育児・介護を頼める所がない    |
| 3 健康や体力に自信がない         | 4 家族の理解がない         |
| 5 職場の上司や同僚などの理解がない    | 6 身近なところに活動する場所がない |
| 7 自分に合った活動がない         | 8 どんな活動があるのか分からない  |
| 9 かかわりをもつと煩わしい        | 10 その他( )          |



社会活動、地域活動の参加への問題として、「時間がない(仕事・家事・育児で忙しい)」の割合が51.6%と最も高く、次いで「どんな活動があるのか分からない」(37.9%)、「健康や体力に自信がない」(26.9%)の順となっている。

性別にみると、男女とも「時間がない(仕事・家事・育児で忙しい)」の割合が最も高くなっている。「育児・介護を頼める所がない」は男性(2.2%)より女性(7.1%)が4.9ポイント上回り、「かかわりをもつと煩わしい」は女性(12.7%)より男性(17.4%)が4.7ポイント上回っている。

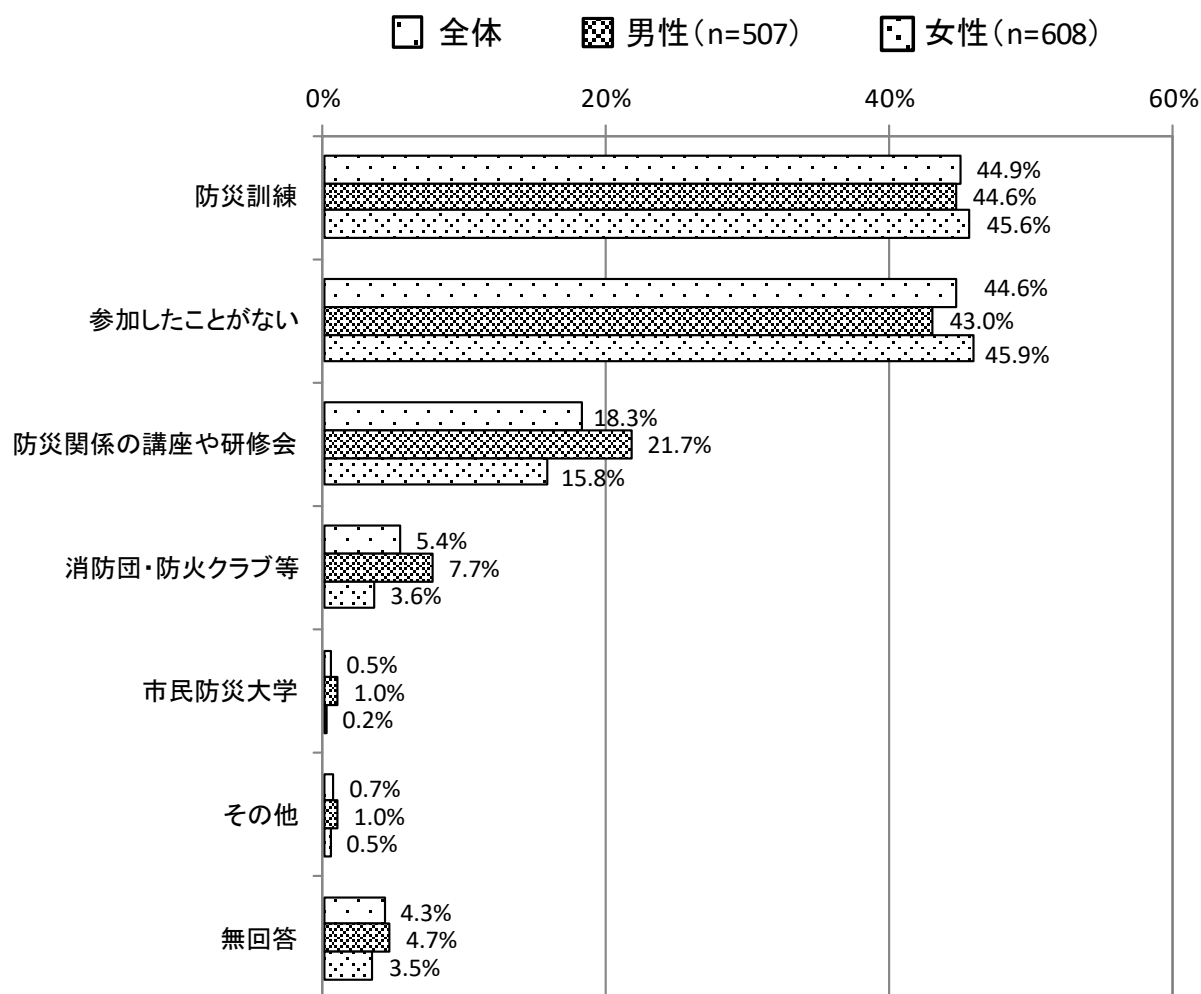
## 4 防災意識について

### 問 15 参加した防災活動

これまでに参加したことがある防災活動は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 防災訓練
- 2 防災関係の講座や研修会
- 3 消防団・防火クラブ等
- 4 市民防災大学
- 5 参加したことがない
- 6 その他 ( )



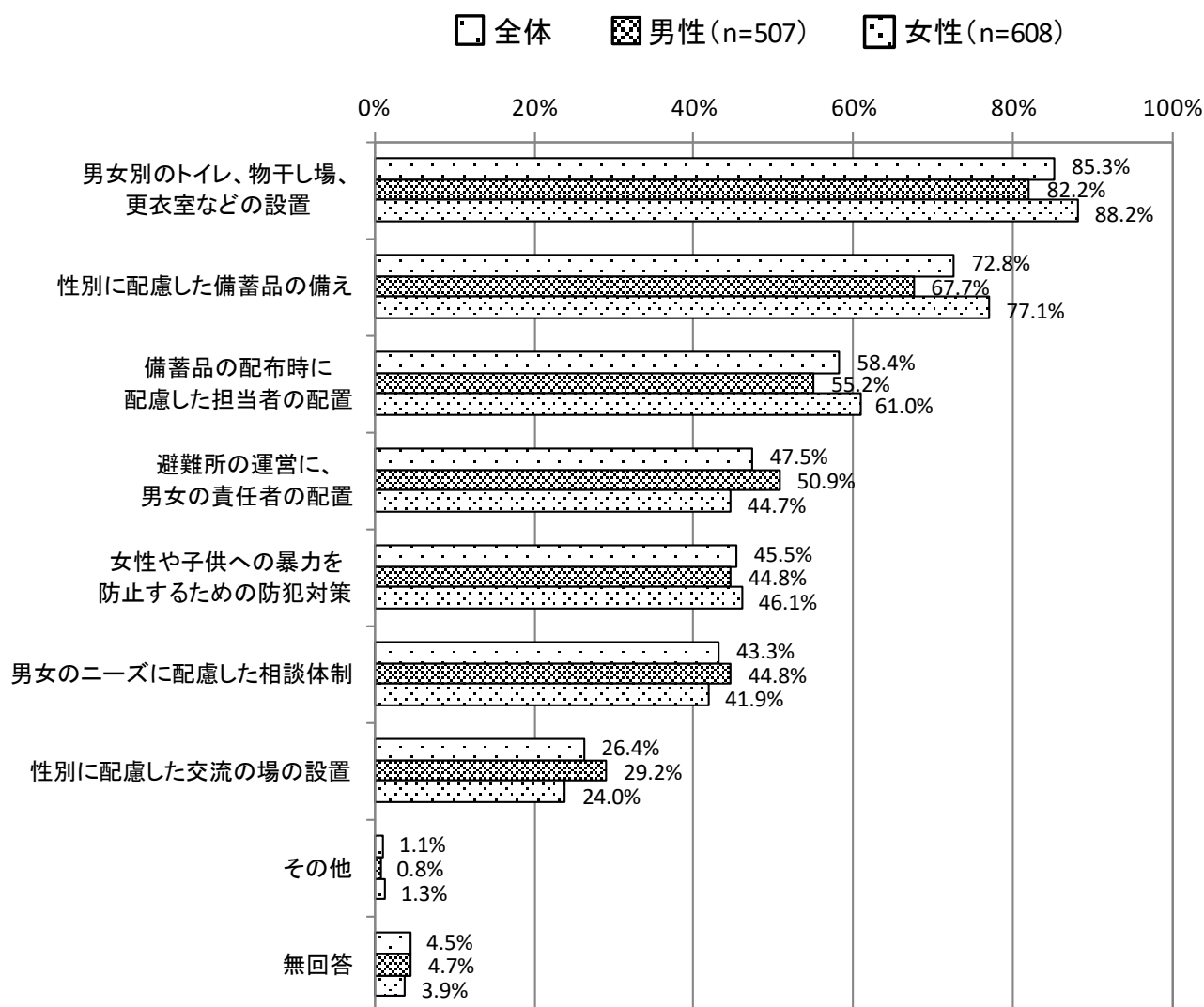
参加したことがある防災活動については、「防災訓練」の割合が44.9%と最も高く、次いで「防災関係の講座や研修会」(18.3%)の順となっている。

性別にみると、「防災訓練」は男性(44.6%)より女性(45.6%)の参加の割合が高く、「防災関係の講座や研修会」は女性(15.8%)より男性(21.7%)が高くなっている。「参加したことがない」は男性(44.6%)より女性(45.6%)が高くなっている。

## 問 16 避難所や防災・災害対策における性別の違いによる配慮

避難所や防災・災害対策において、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 避難所の運営に、男女の責任者の配置
- 2 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置
- 3 性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品等）の備え
- 4 備蓄品（下着・生理用品等）の配布時に配慮した担当者の配置
- 5 性別に配慮した交流の場の設置
- 6 男女のニーズに配慮した相談体制
- 7 女性や子供への暴力を防止するための防犯対策
- 8 その他（ ）



避難所や防災・災害対策における性別に配慮した取組として、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」の割合が 85.3%と最も高く、次いで「性別に配慮した備蓄品の備え」（72.8%）、「備蓄品の配布時に配慮した担当者の配置」（58.4%）の順となっている。

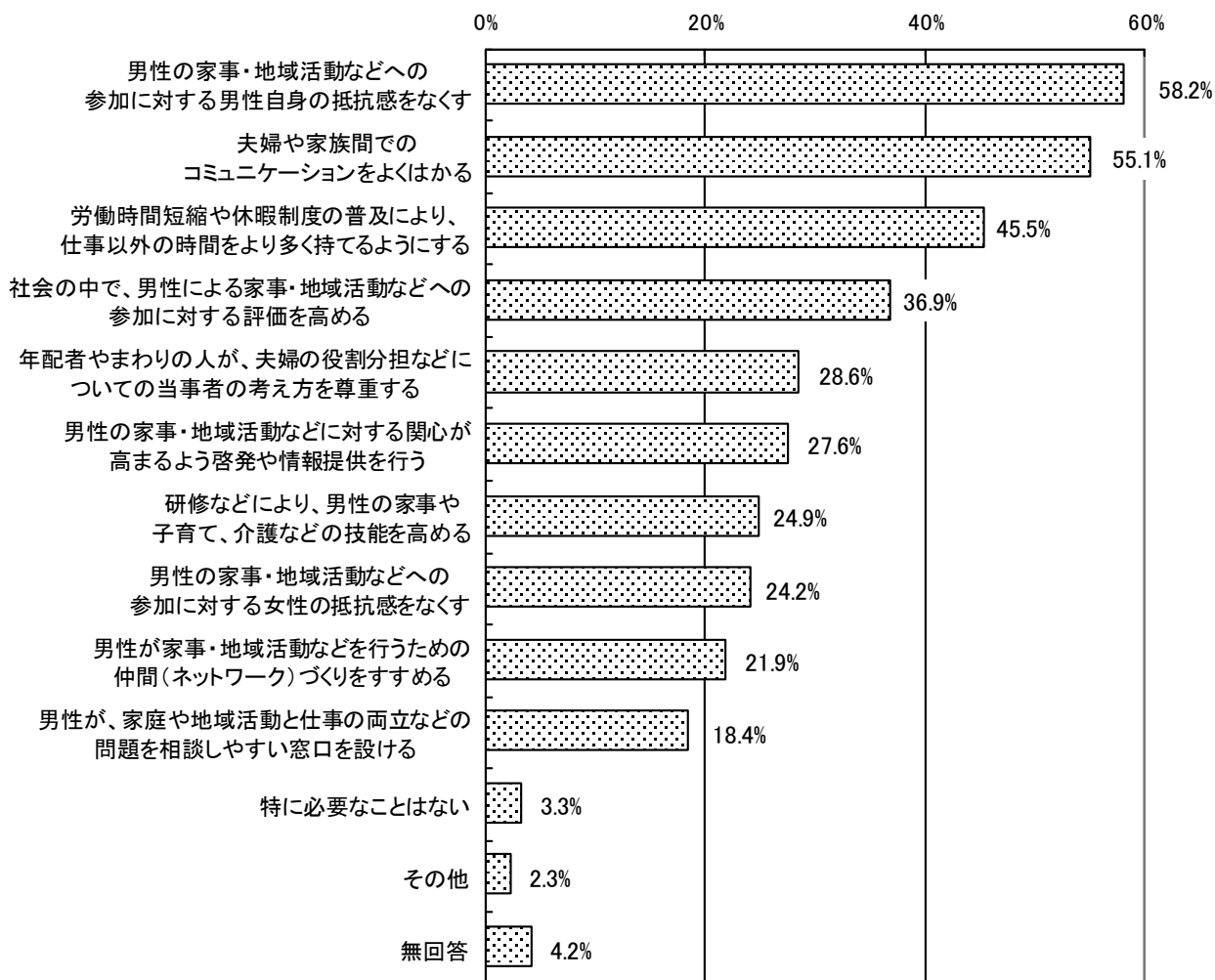
性別にみると、「避難所の運営に、男女の責任者の配置」と「男女のニーズに配慮した相談体制」、「性別に配慮した交流の場の設置」は女性より男性の割合が高く、その他の項目は男性より女性の割合が高くなっている。

## 5 男女共生の今後について

### 問 17 男性の家事等の参加について

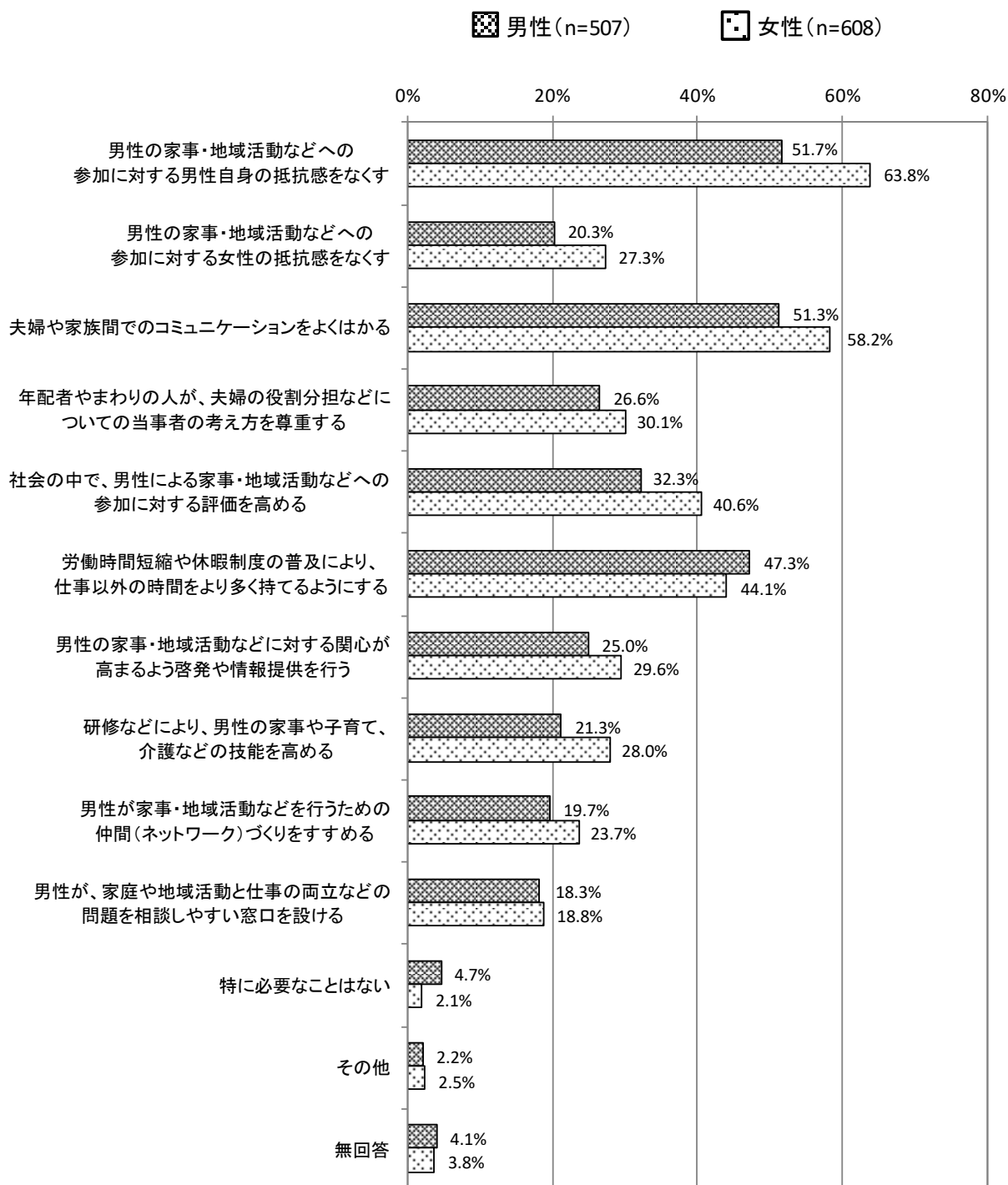
今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす
- 2 男性の家事・地域活動などへの参加に対する女性の抵抗感をなくす
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する
- 5 社会の中で、男性による家事・地域活動などへの参加に対する評価を高める
- 6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
- 7 男性の家事・地域活動などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う
- 8 研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める
- 9 男性が家事・地域活動などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
- 10 男性が、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題を相談しやすい窓口を設ける
- 11 特に必要なことはない
- 12 その他（ ）



男性の家事等の参加に必要なことは、「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」が58.2%と最も割合が高く、次いで、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」(55.1%)、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」(45.5%)の順となっている。

○性別



「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」以外の項目は、男性より女性の割合が高くなっている。

「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」と「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合は男女ともに5割を超えている。

「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合は男性（51.7%）より女性（63.8%）が12.1ポイント上回っている。

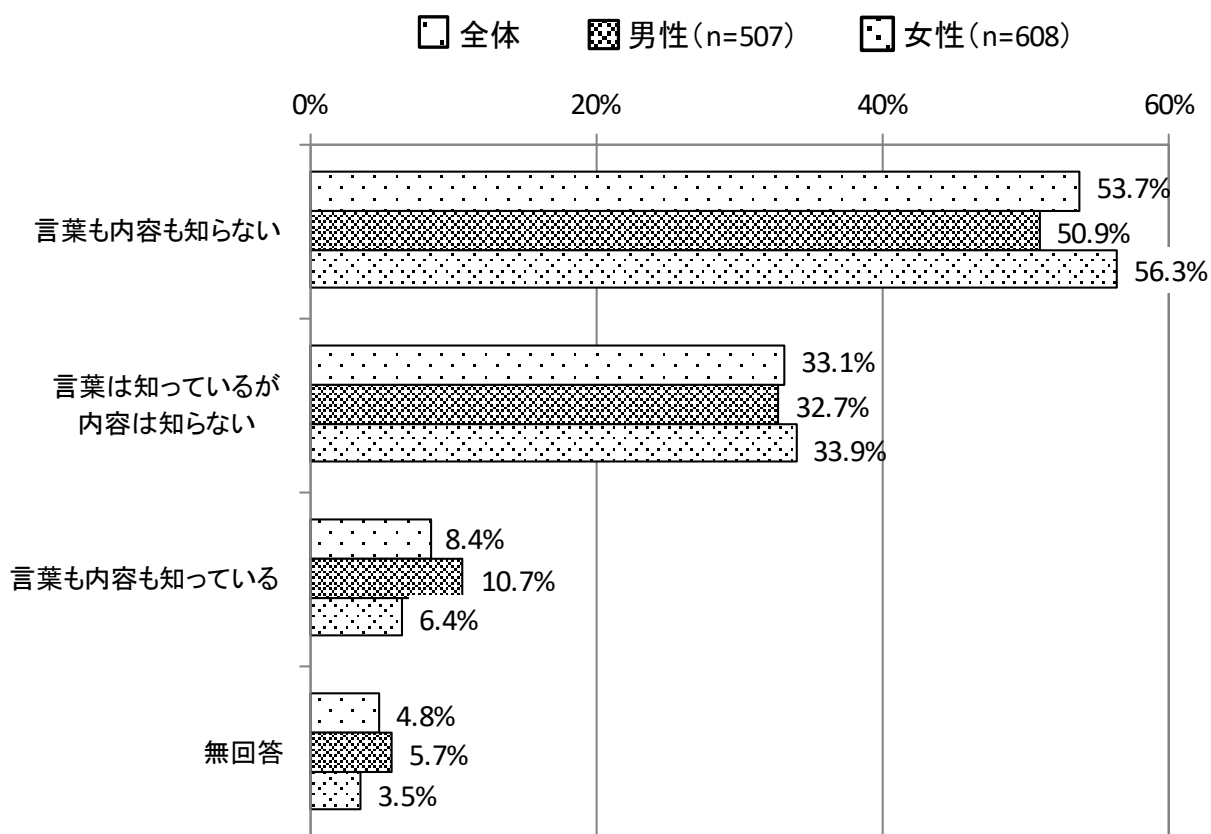
## 6 就労について

### 問 18 女性活躍推進法の認知度

女性活躍推進法について、知っていますか。

(1つだけに○印)

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は知っているが、内容は知らない
- 3 言葉も内容も知らない



女性活躍推進法について、「言葉も内容も知らない」の割合が53.7%と最も高く、次いで「言葉は知っているが内容は知らない」が33.1%となっている。

性別にみると、「言葉も内容も知らない」の割合は男女とも5割を超えている。「言葉も内容も知っている」の割合は女性(6.4%)より男性(10.7%)が高くなっている。

## 問 19 女性の職業意識

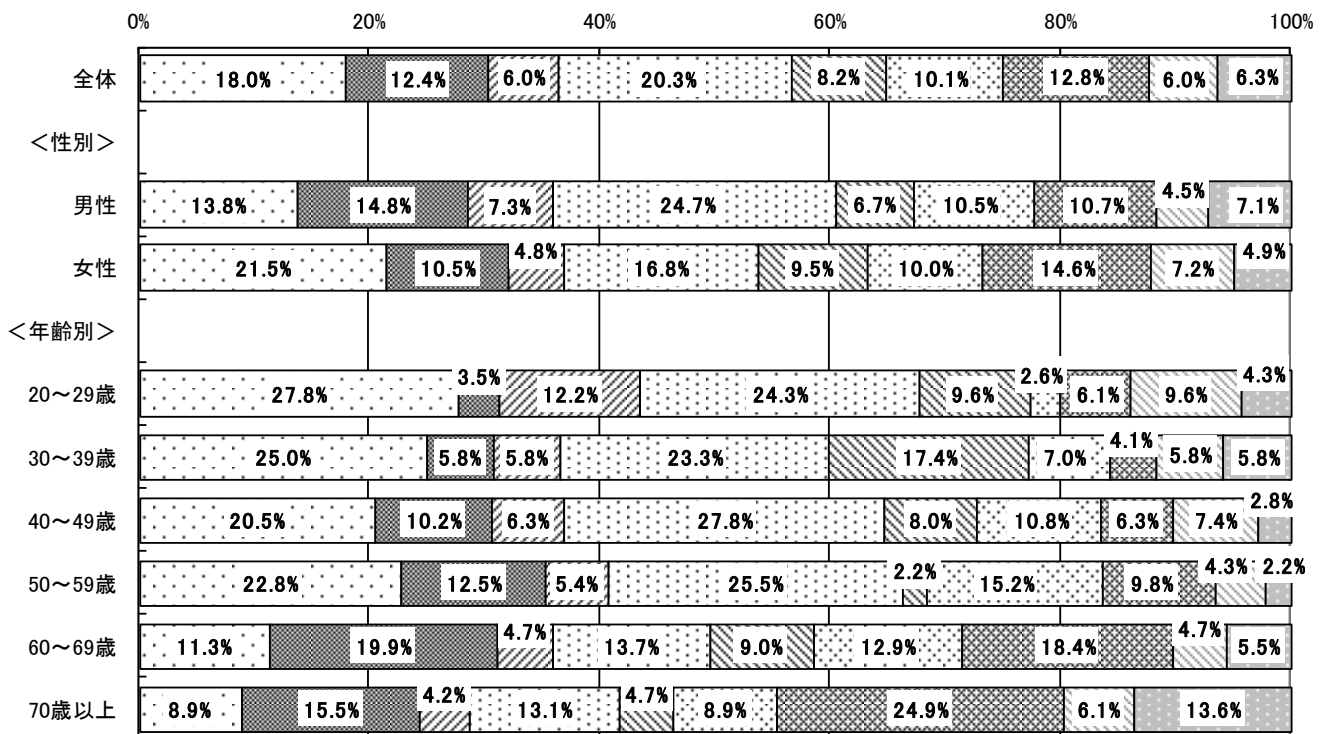
女性が職業をもつことについてどのように思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。  
（現実と理想のそれぞれについて1つだけに○印）

### (1) 現実

- 1 仕事は定年までと思い、続けている
- 2 仕事は高齢になっても続けている
- 3 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事をしている
- 4 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている
- 5 子供ができたので仕事はやめた
- 6 結婚したので仕事はやめた
- 7 仕事はしていない
- 8 その他（ ）

### (1) 現実

- 仕事は定年までと思い、続けている
- 仕事は高齢になっても続けている
- 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事をしている
- 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている
- 子供ができたので仕事はやめた
- 結婚したので仕事はやめた
- 仕事はしていない
- その他
- 無回答



女性の職業を持つことへの現実には、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」が20.3%と最も割合が高く、次いで「仕事は定年までと思い、続けている」（18.0%）、「仕事をしていない」（12.8%）の順となっている。

性別にみると、「仕事は定年までと思い、続けている」の割合は男性（13.8%）より女性（21.5%）が7.7ポイント高く、「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」の割合は女性（16.8%）より男性（24.7%）が7.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、20歳代と30歳代は「仕事は定年までと思い、続けている」の割合が最も高く、40歳代と50歳代は「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事をしている」の割合が最も高くなっている。

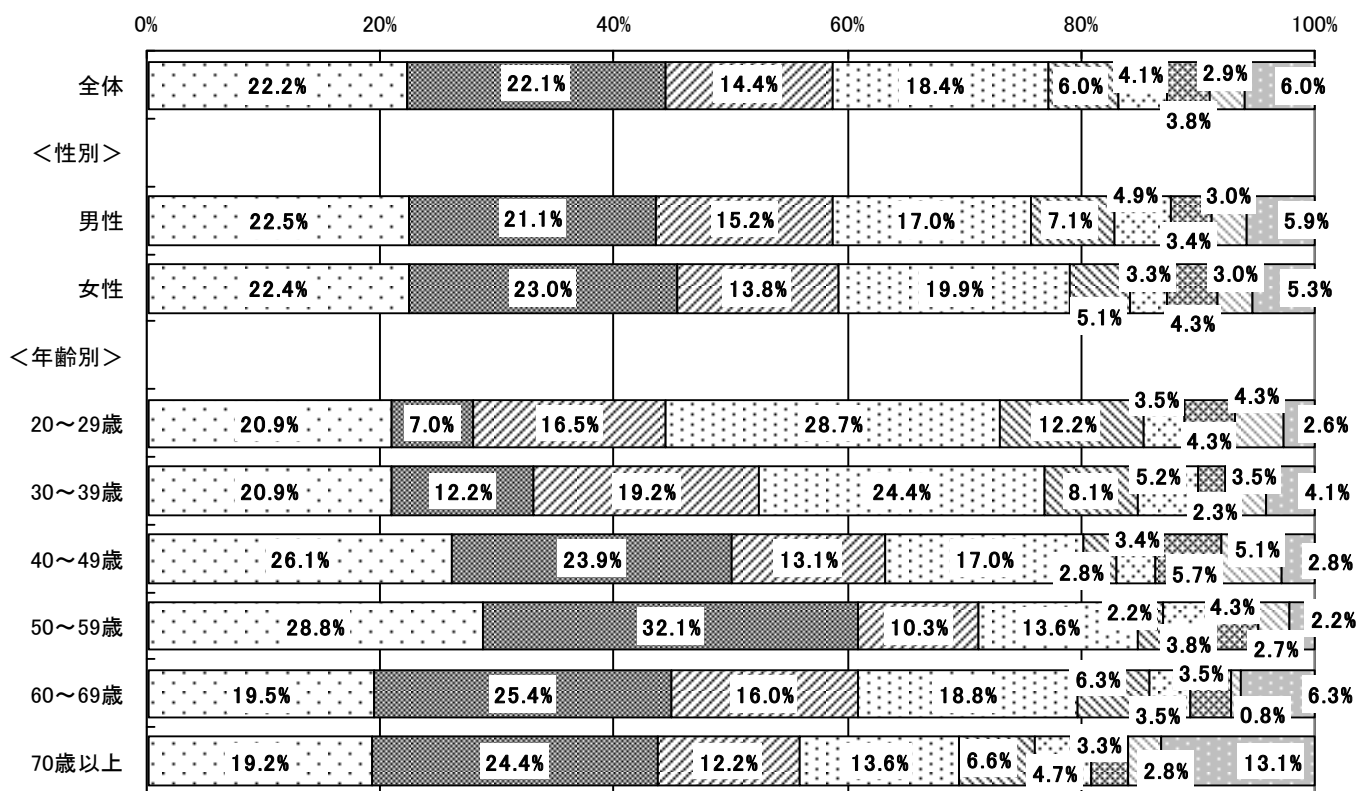


(2) 理想

- 1 仕事は定年まで続ける
- 2 仕事は高齢になっても続ける
- 3 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 4 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 5 子供ができたら仕事はやめる
- 6 結婚したら仕事はやめる
- 7 仕事はしない
- 8 その他 ( )

(2) 理想

- 仕事は定年まで続ける
- 仕事は高齢になっても続ける
- 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 子供ができたら仕事はやめる
- 結婚したら仕事はやめる
- 仕事はしない
- その他
- 無回答



女性が仕事を持つことへの理想は、「仕事は定年まで続ける」が22.2%と最も割合が高く、次いで「仕事は高齢になっても続けている」(22.1%)、「子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」(18.4%)、「子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」(14.4%)の順となっている。

性別にみると、男性は「仕事は定年まで続ける」の割合が最も高く、女性は「仕事は高齢になっても続ける」の割合が最も高くなっている。

年齢別にみると、20歳代と30歳代は「子育ての時期に一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の割合が最も高く、40歳代は「仕事は定年まで続ける」、50歳以上は「仕事は高齢になっても続ける」が最も高くなっている。

理想の回答は仕事を続けていく割合が高くなっているが、現実には、環境の変化により仕事をしていない回答の割合が高くなっている。

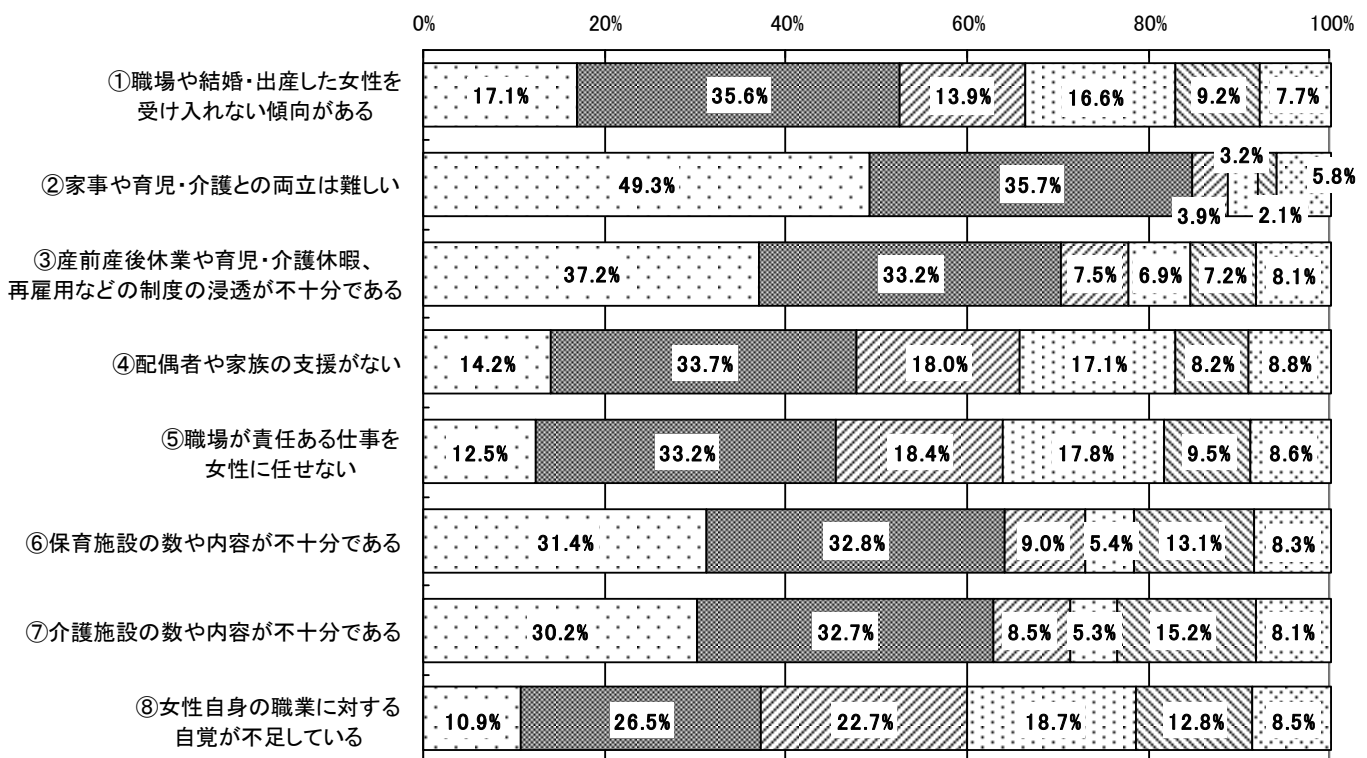
## 問 20 女性が就業を継続していくことの問題

女性が職業をもち続けていく上で、どのようなことが問題になると思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいと仮定して）についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ〇印）

- ①職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある
- ②家事や育児・介護との両立は難しい
- ③産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である
- ④配偶者や家族の支援がない
- ⑤職場が責任ある仕事を女性に任せない
- ⑥保育施設の数や内容が不十分である
- ⑦介護施設の数や内容が不十分である
- ⑧女性自身の職業に対する自覚が不足している

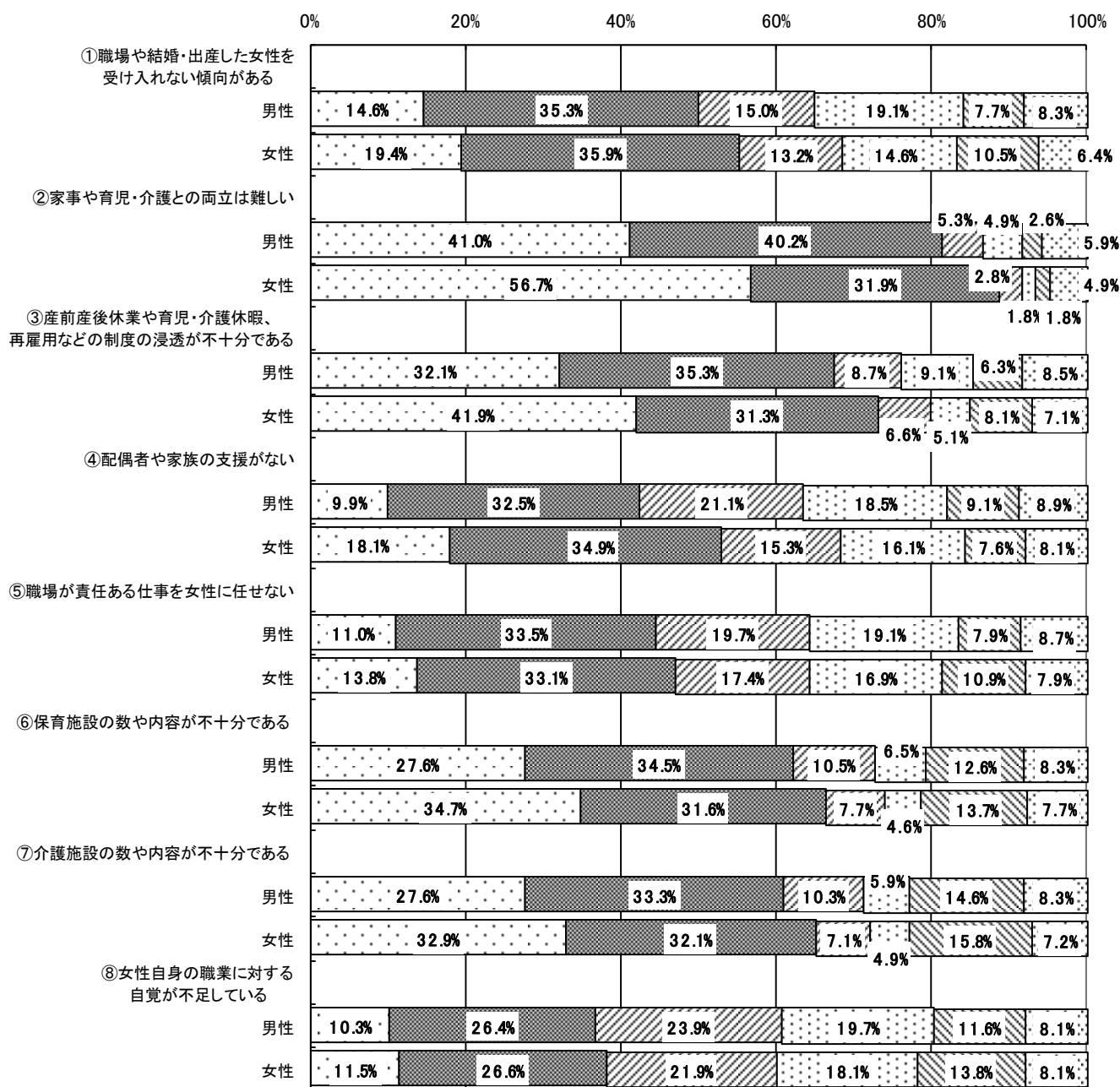
思う
  どちらかといえば思う
  どちらかといえば思わない
  思わない
  わからない
  無回答



女性の就業を継続していく上での問題は、「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合（「思う」と「どちらかと思う」の計）が85.0%と最も高く、次いで「産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である」（70.4%）、「保育施設の数や内容が不十分である」（64.2%）の順となっている。

○性別

□ 思う ■ どちらかといえば思う ▨ どちらかといえば思わない □ 思わない ▩ わからない □ 無回答



男女ともに「家事や育児・介護との両立は難しい」と思う割合が最も高く、次いで「産前産後休業や育児・介護休暇、再雇用などの制度の浸透が不十分である」の順となっている。

「配偶者や家族の支援がない」と思う割合では、男性（42.4%）より女性（53.0%）が10.6ポイント上回っている。

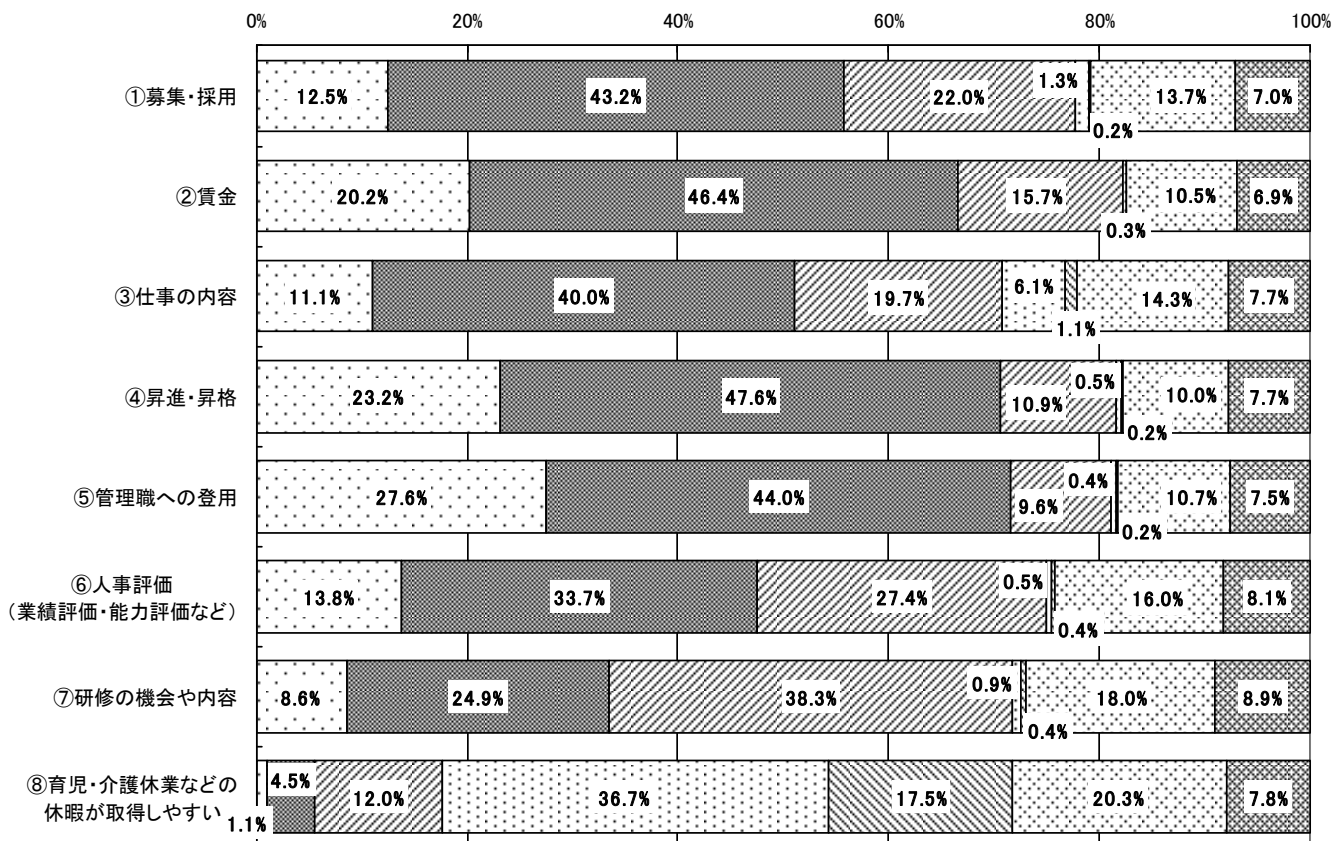
## 問 21 就労の性別による差

就労について、性別による差があると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- |           |                      |
|-----------|----------------------|
| ①募集・採用    | ②賃金                  |
| ③仕事の内容    | ④昇進・昇格               |
| ⑤管理職への登用  | ⑥人事評価（業績評価・能力評価など）   |
| ⑦研修の機会や内容 | ⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい |

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 男性の方が非常に優遇されている | <input type="checkbox"/> どちらかといえば男性の方が優遇されている |
| <input type="checkbox"/> 平等である           | <input type="checkbox"/> どちらかといえば女性の方が優遇されている |
| <input type="checkbox"/> 女性の方が非常に優遇されている | <input type="checkbox"/> わからない                |
| <input type="checkbox"/> 無回答             |   |



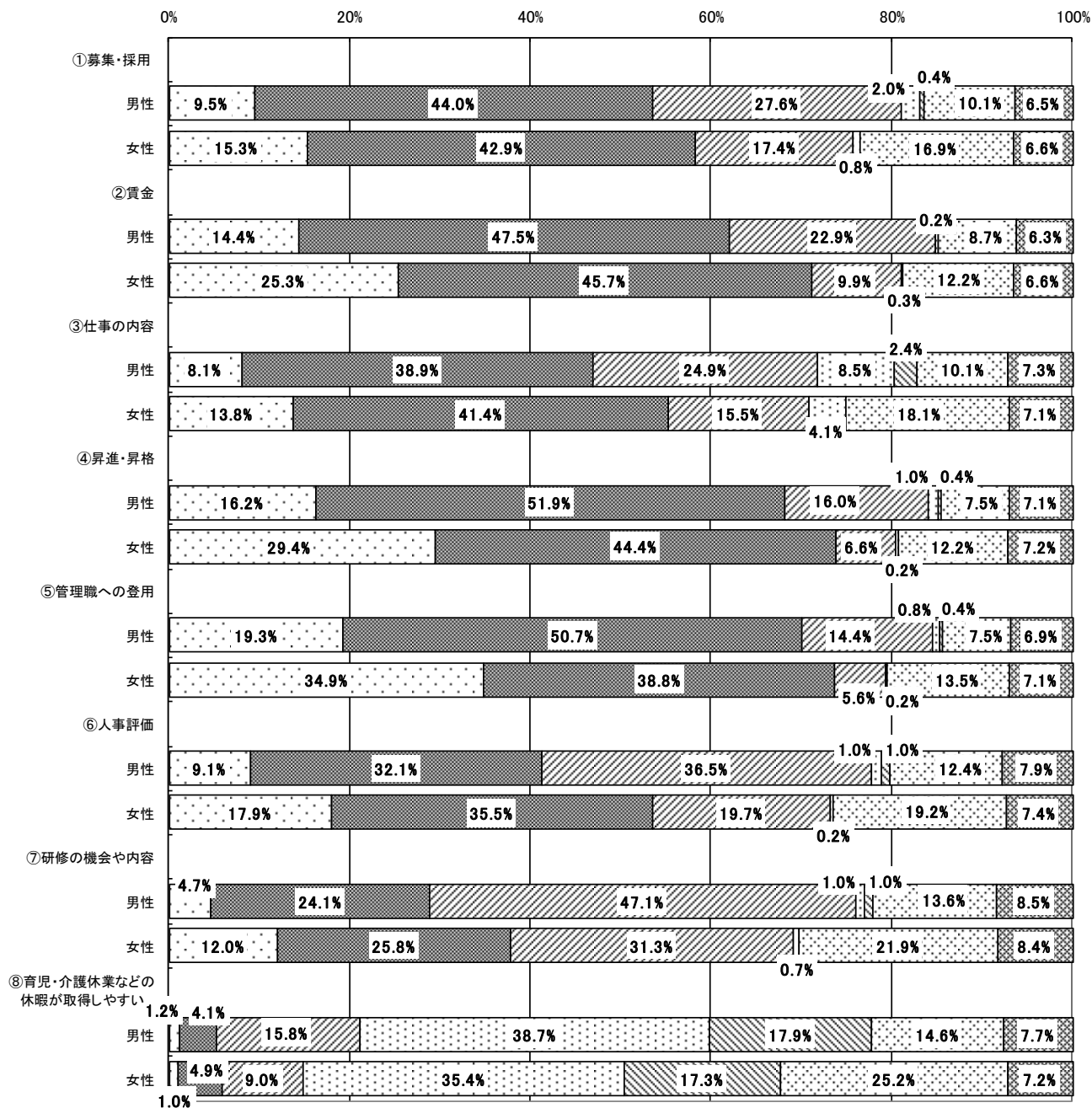
※ 0%はグラフに表示していません。

就労の性別による差について、「男性の方が優遇されている」と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計）は「管理職への登用」が71.6%と最も高く、「女性の方が優遇されている」と思う割合（「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の計）は「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」が54.2%と最も高くなっている。

「平等である」と思う割合は「研修の機会や内容」が38.3%と最も高くなっている。

## ○性別

- 男性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 女性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- わからない



※ 0%はグラフに表示していません。

男女ともに「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」は「女性の方が優遇されている」割合が高くなっている。

「平等である」と思う割合は、いずれの項目も女性より男性のほうが高くなっている。

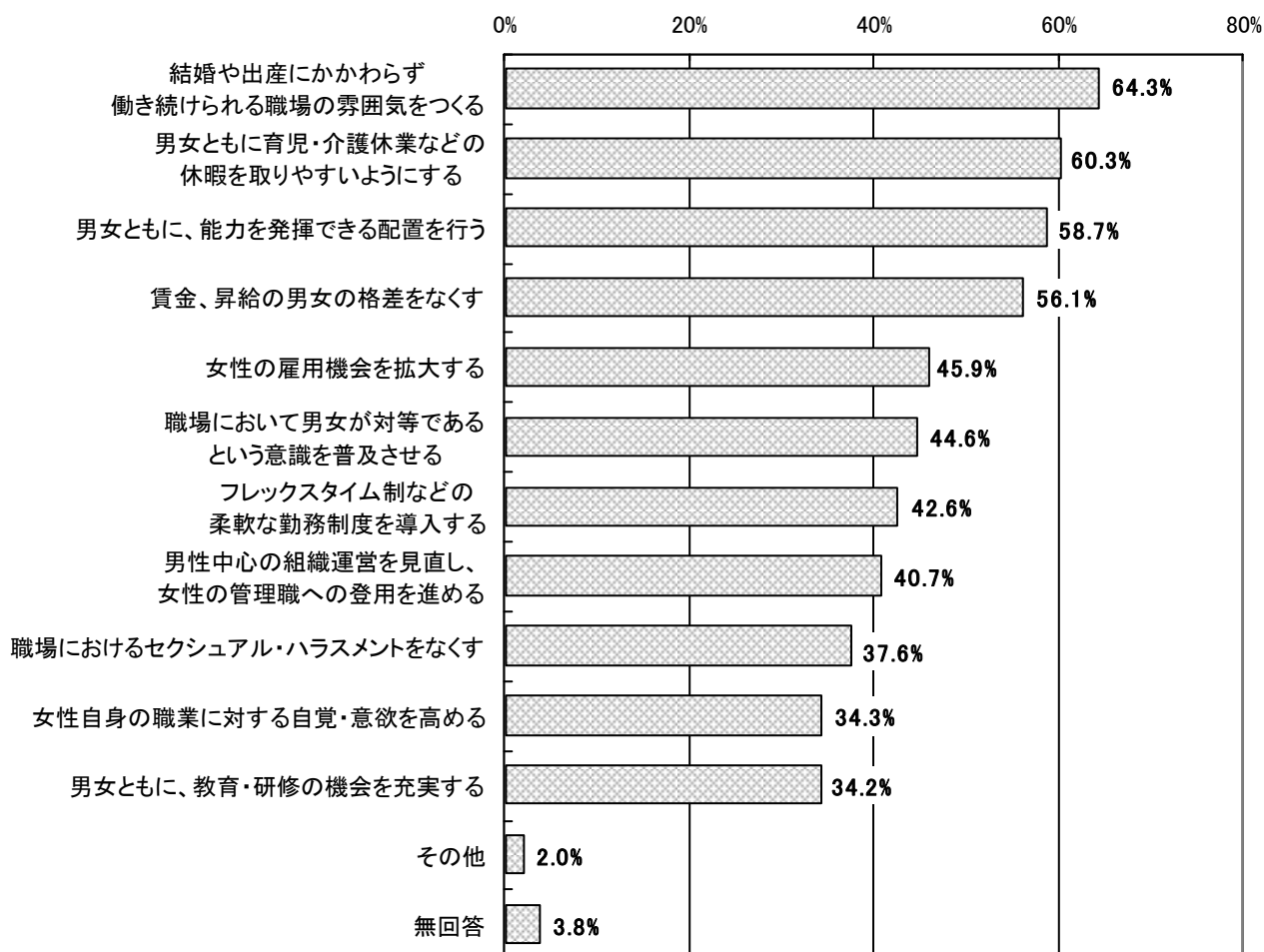
「男性の方が優遇されている」と思う割合は、いずれの項目も男性より女性のほうが高く、「人事評価」は男性（41.2%）より女性（53.4%）が12.2ポイント高くなっている。

## 問 22 男女の雇用均等に必要なこと

男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

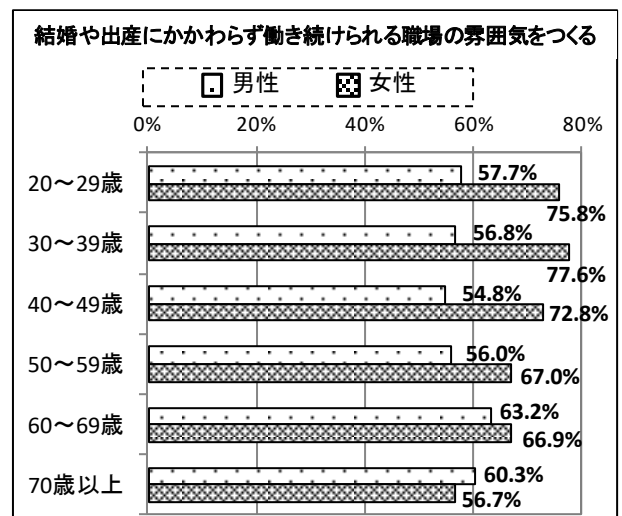
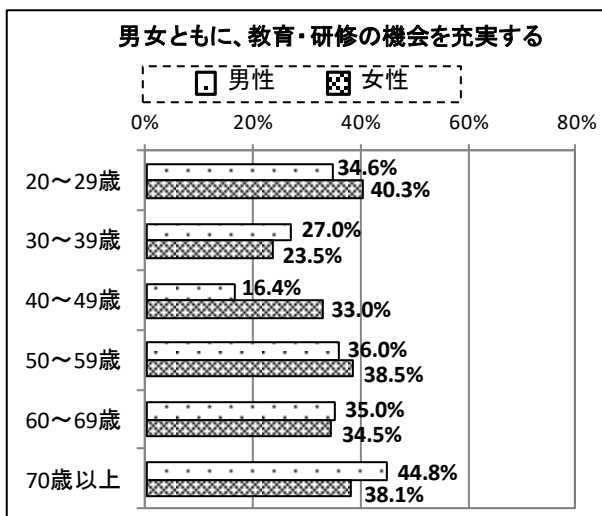
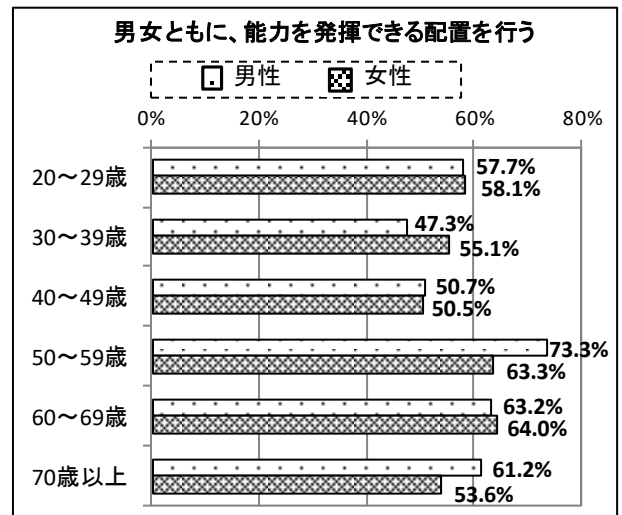
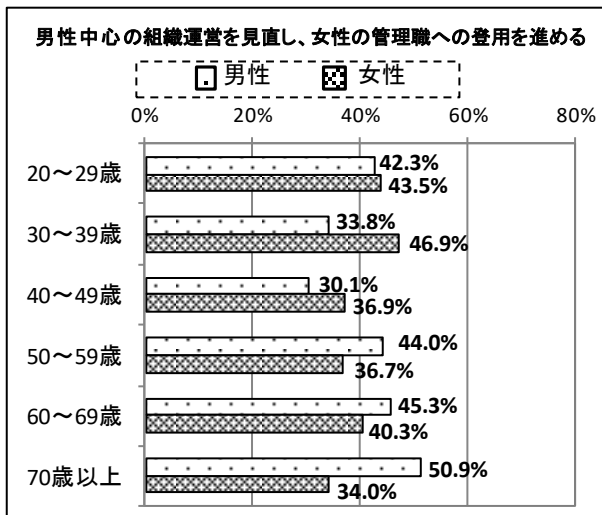
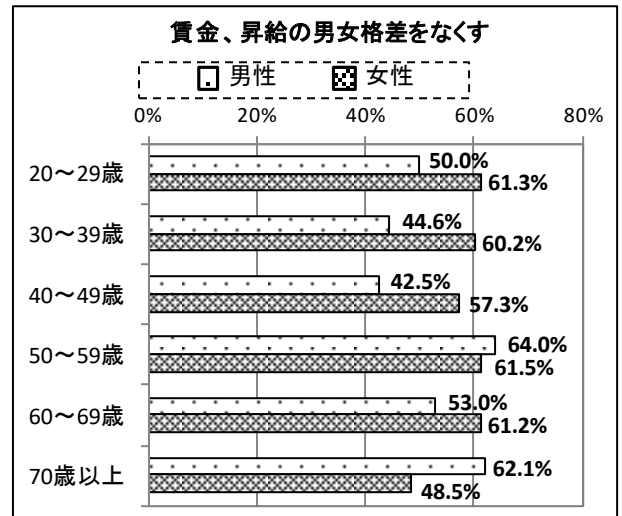
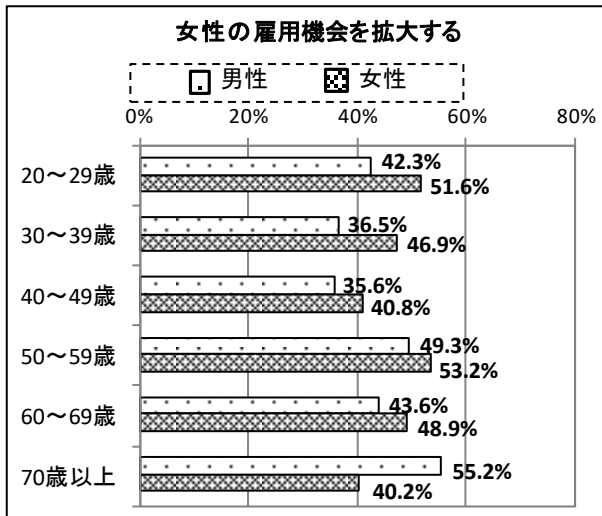
(あてはまるものすべてに○印)

- 1 女性の雇用機会を拡大する
- 2 賃金、昇給の男女の格差をなくす
- 3 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
- 4 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
- 5 男女ともに、教育・研修の機会を充実する
- 6 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる
- 7 フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度を導入する
- 8 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする
- 9 職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくす
- 10 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
- 11 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
- 12 その他 ( )

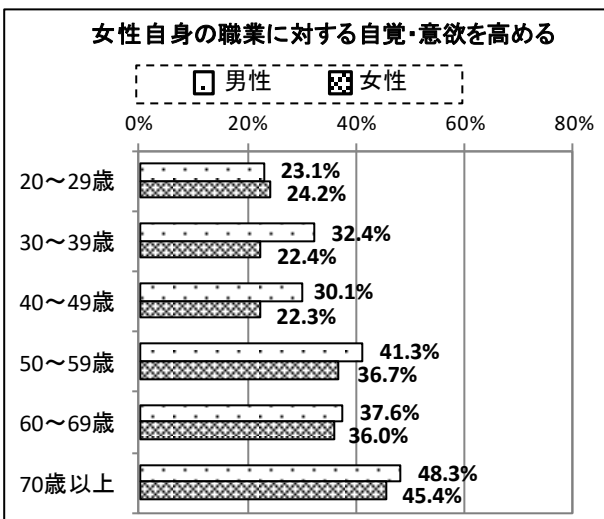
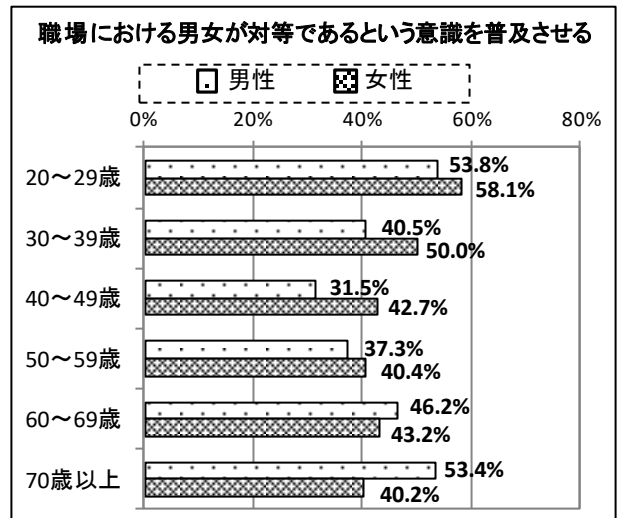
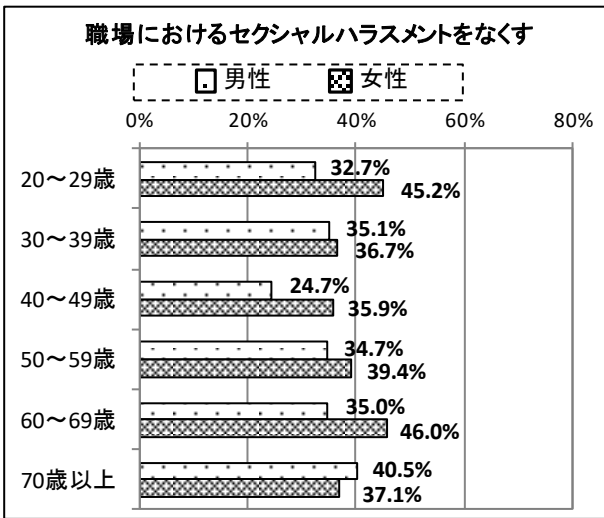
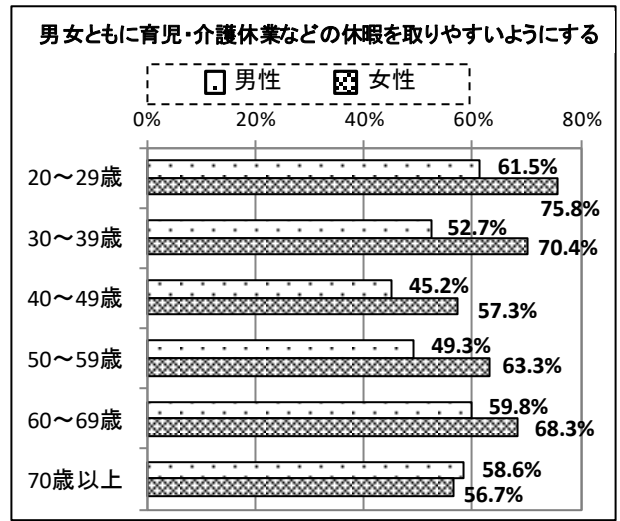
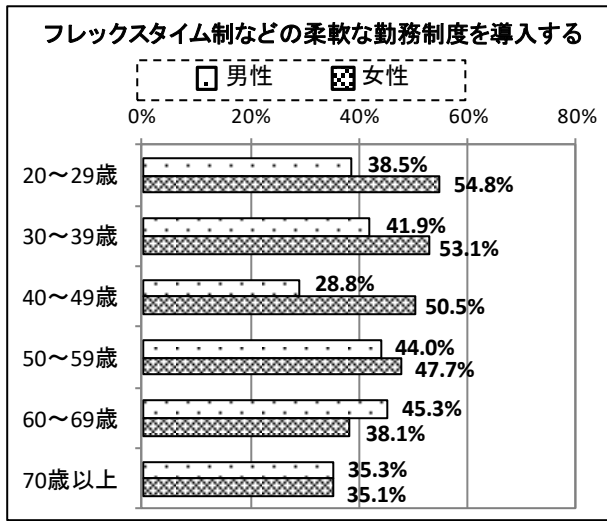


男女が対等に働くために必要なこととして、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が 64.3%と最も高く、次いで「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」(60.3%)、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」(58.7%)の順となっている。

○性別・年齢別



○性別・年齢別



男性の20歳代から40歳代と60歳代、女性の20歳代から50歳代と70歳以上で「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」の割合が最も高く、男性の20歳代と女性の20歳代と60歳代以上は、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」の割合が最も高くなっている。男性の50歳代と60歳代で「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」の割合が最も高く、男性の70歳以上は「賃金、昇給の男女の格差をなくす」の割合が最も高くなっている。



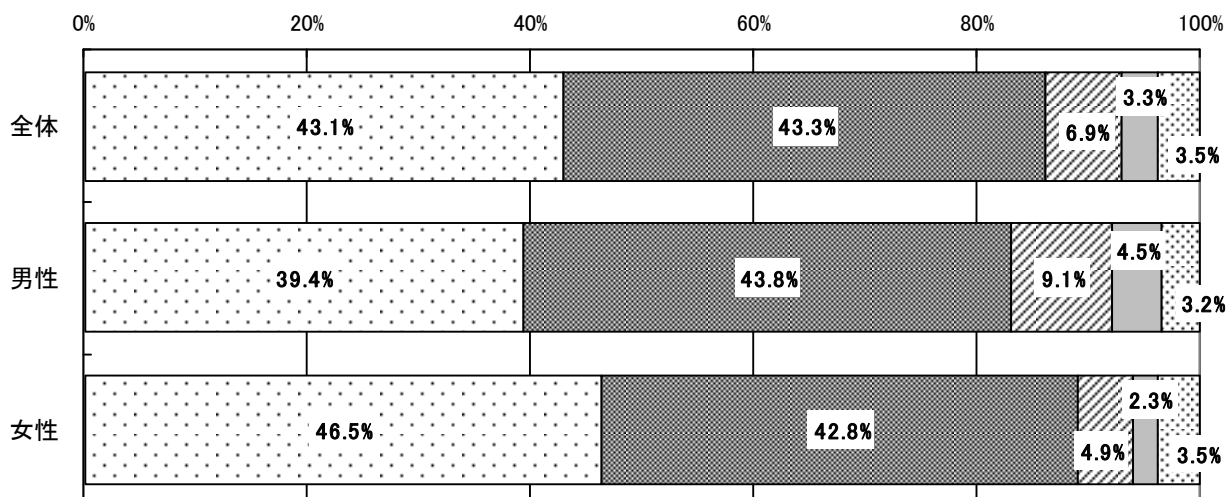
## 問 23 男性の休業や休暇の取得について

男性が、育児休業、子の看護休暇、介護休業、介護休暇を取得することについてどのように思いますか。

(1つだけ○印)

- 1 取得したほうがよい
- 2 どちらかといえば取得したほうがよい
- 3 どちらかといえば取得しないほうがよい
- 4 取得しないほうがよい

- 取得したほうがよい
- どちらかといえば取得したほうがよい
- どちらかといえば取得しないほうがよい
- 取得しないほうがよい
- 無回答

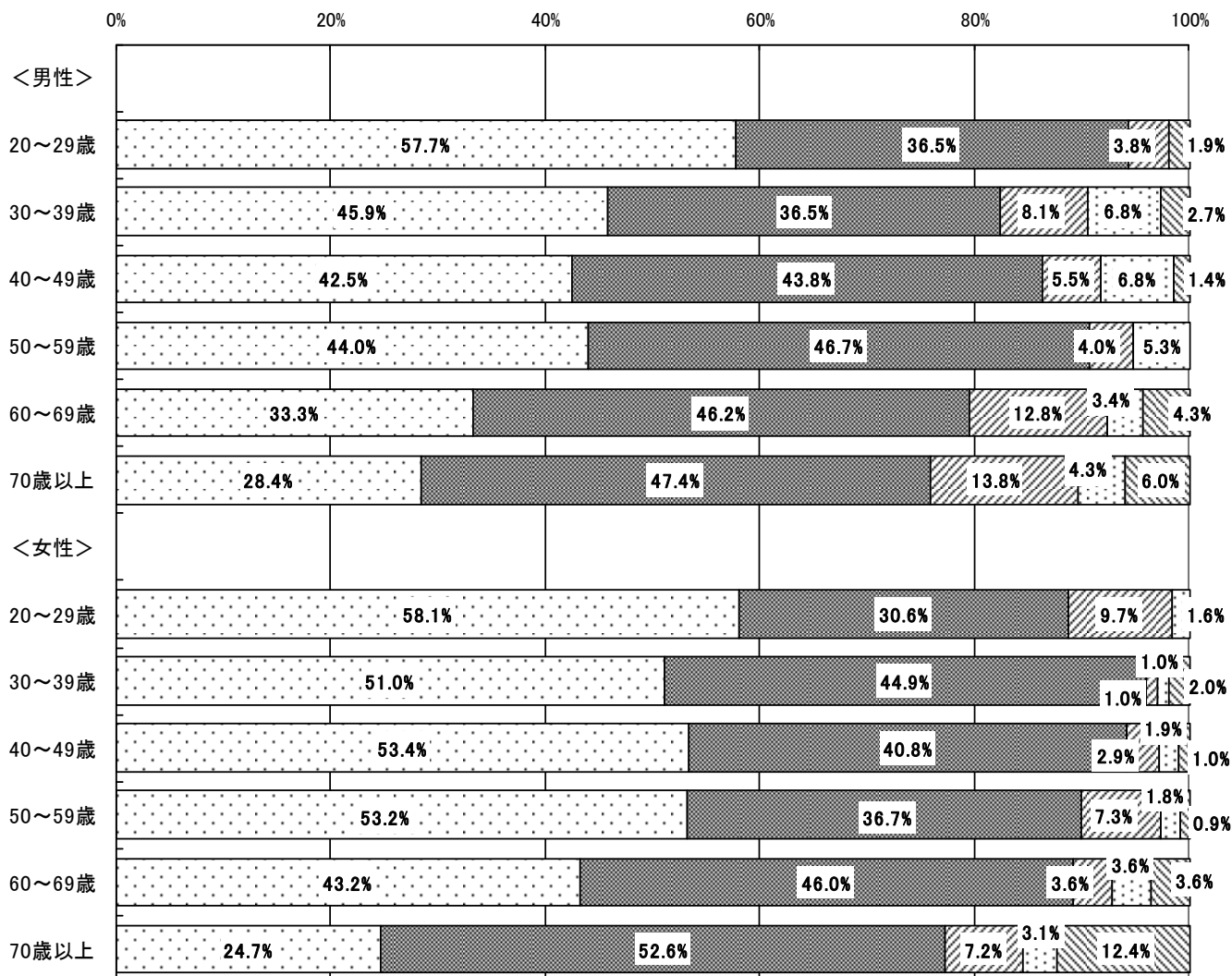


男性が休業や休暇を取得することについては、「取得したほうがよい」と思う割合（「取得したほうがよい」と「どちらかといえば取得したほうがよい」）が8割を超えている。

性別にみると、「取得したほうがよい」と思う割合は、男性（83.2%）より女性（89.3%）の割合が6.1ポイント上回っている。

○性別・年齢別

- 取得したほうがよい
- どちらかといえば取得したほうがよい
- どちらかといえば取得しないほうがよい
- 取得しないほうがよい
- 無回答



※ 0%はグラフに表示していません。

男性の20歳代と30歳代は「取得したほうがよい」の割合が最も高く、40歳代以上は「どちらかといえば取得したほうがよい」の割合が最も高くなっている。女性の20歳代から50歳代は「取得したほうがよい」の割合が最も高く、60歳代以上は「どちらかといえば取得したほうがよい」の割合が最も高くなっている。

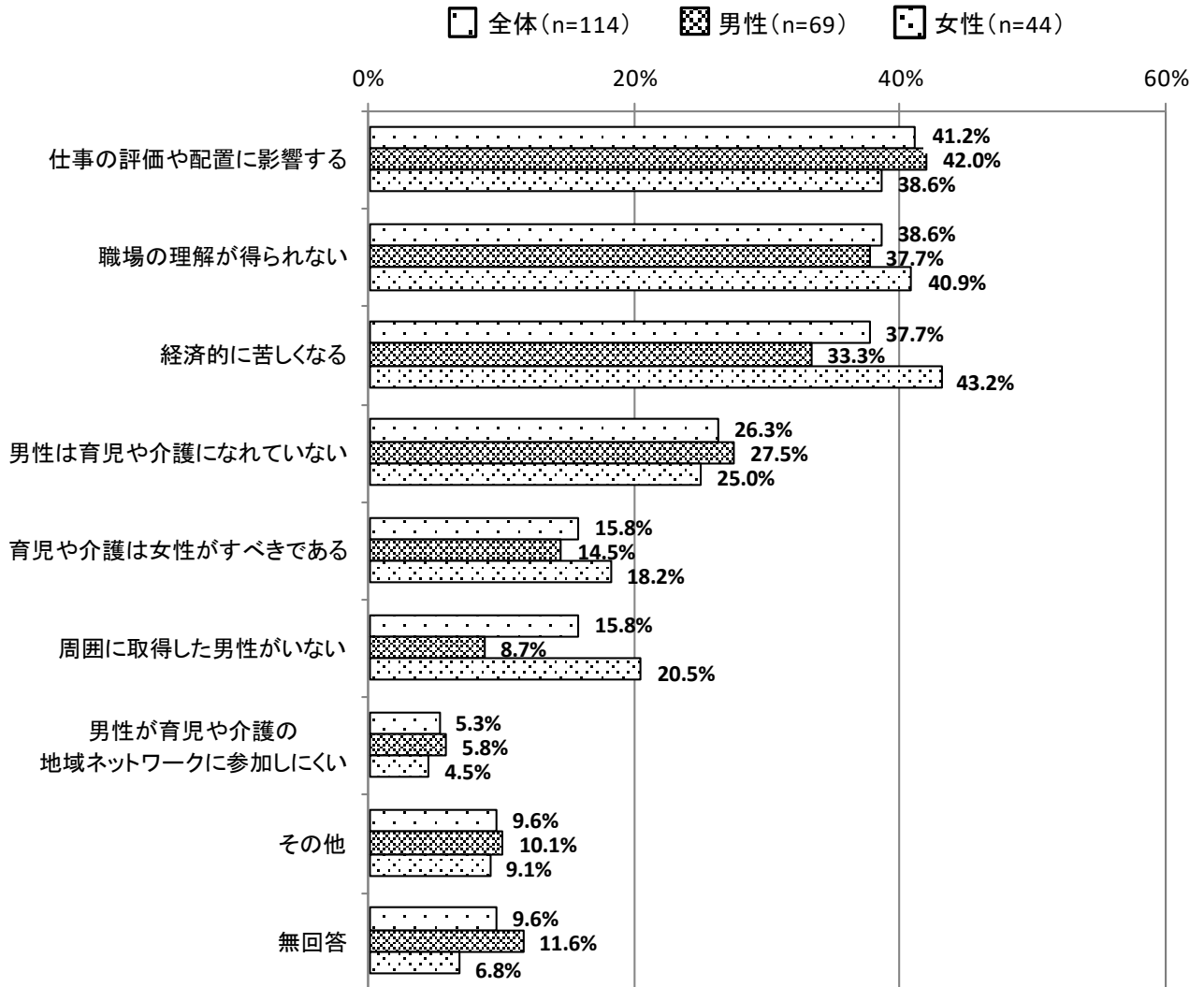
性別、年齢別にかかわらず、「取得したほうがよい」と思う割合（「取得したほうがよい」と「どちらかといえば取得したほうがよい」）は7割を超えている。

問 23-1 男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと思う理由

問 23 で「3」、または「4」と回答された方のみお答えください。

「取得しないほうがよい」と思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 経済的に苦しくなる
- 2 職場の理解が得られない
- 3 仕事の評価や配置に影響する
- 4 育児や介護は女性がすべきである
- 5 男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい
- 6 男性は育児・介護になれていない
- 7 周囲に取得した男性がいない
- 8 その他 ( )



問 23 で「どちらかといえば取得しないほうがよい」または「取得しないほうがよい」のいずれかを回答した 114 人について、理由として「仕事の評価や配置に影響する」の割合が 40.7%と最も高く、次いで「職場の理解が得られない」(38.6%)、「経済的に苦しくなる」(37.7%) の順となっている。

性別にみると、男性は「仕事の評価や配置に影響する」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「職場の理解が得られない」(37.7%) の順となっており、女性は「経済的に苦しくなる」の割合が 43.2%と最も高く、次いで「職場の理解が得られない」(40.9%) の順となっている。

## 7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

### 問 24 配偶者や交際相手からの暴力行為だと思うこと

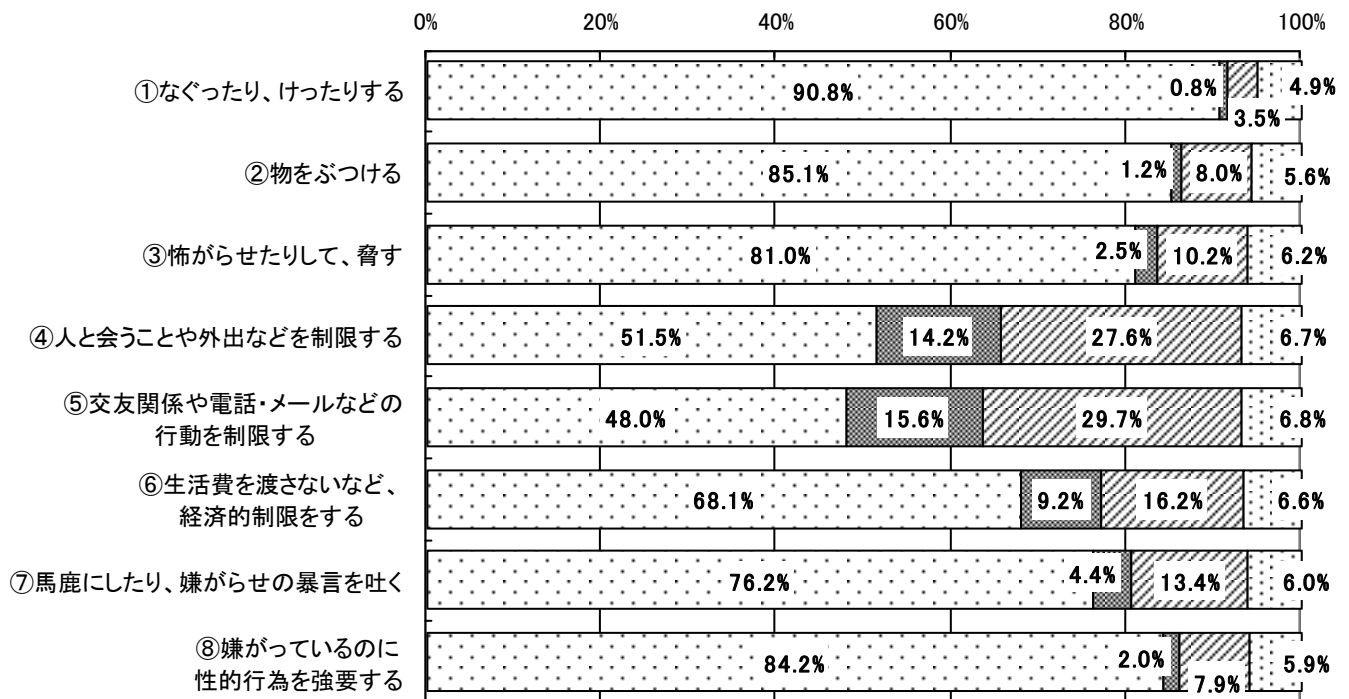
配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことはどのようなことですか。

あなたの考えに近いものをお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

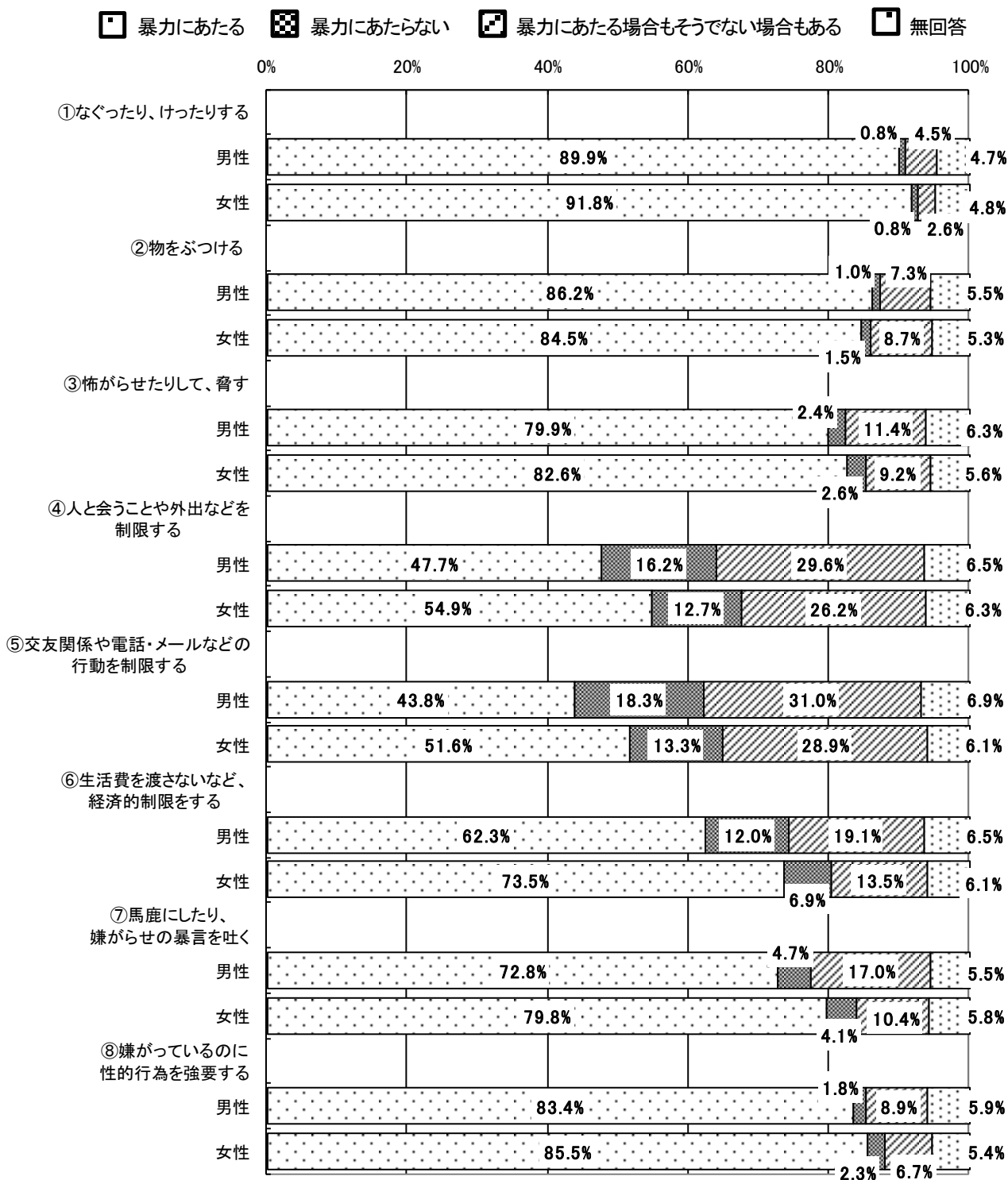
- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する

暴力にあたる   
 暴力にあたらぬ   
 暴力にあたる場合もそうでない場合もある   
 無回答



配偶者や交際相手からの暴力行為だと思うことについて、「なぐったり、けったりする」の割合が90.8%と最も高く、次いで「物をぶつける」（85.1%）、「嫌がっているのに性的行為を強要する」（84.2%）の順となっている。「暴力にあたらぬ」と「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」はともに、「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」の割合が高くなっている。

○性別



男女ともに「暴力にあたる」と思う割合は「なぐったり、けったりする」が最も高く、「暴力にあたらぬ」と思う割合は「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」が最も高くなっている。「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」と思う割合は、男女ともに「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」が最も高くなっている。

○性別・年齢別表

			暴力にあたる	暴力にあたらない	暴力にあたる場合 もそうでない場合も ある	無回答
① なぐったり、 けったりする	男性・ 年齢別	20～29歳	96.2	0.0	3.8	0.0
		30～39歳	94.8	1.4	2.7	1.4
		40～49歳	95.9	1.4	0.0	2.7
		50～59歳	97.3	0.0	2.7	0.0
		60～69歳	88.0	0.9	8.5	2.6
		70歳以上	77.6	0.9	6.0	15.5
	女性・ 年齢別	20～29歳	98.4	1.6	0.0	0.0
		30～39歳	96.9	0.0	1.0	2.0
		40～49歳	95.1	1.0	1.9	1.9
		50～59歳	91.7	0.0	6.4	1.8
		60～69歳	91.4	2.2	2.9	3.6
		70歳以上	79.4	0.0	2.1	18.6
② 物をぶつける	男性・ 年齢別	20～29歳	98.1	1.9	0.0	0.0
		30～39歳	91.9	1.4	4.1	2.7
		40～49歳	95.9	1.4	2.7	0.0
		50～59歳	90.7	0.0	9.3	0.0
		60～69歳	84.6	0.9	11.1	3.4
		70歳以上	69.8	0.9	10.3	19.0
	女性・ 年齢別	20～29歳	90.3	1.6	8.1	0.0
		30～39歳	88.8	1.0	8.2	2.0
		40～49歳	92.2	1.0	4.9	1.9
		50～59歳	89.9	1.8	5.5	2.8
		60～69歳	80.6	1.4	13.7	4.3
		70歳以上	68.0	2.1	10.3	19.6
③ 怖がらせたりして、 脅す	男性・ 年齢別	20～29歳	90.4	0.0	9.6	0.0
		30～39歳	89.2	1.4	6.8	2.7
		40～49歳	84.9	2.7	11.0	1.4
		50～59歳	89.3	2.7	8.0	0.0
		60～69歳	80.3	6.0	9.4	4.3
		70歳以上	59.5	0.0	19.8	20.7
	女性・ 年齢別	20～29歳	83.9	1.6	14.5	0.0
		30～39歳	90.8	2.0	5.1	2.0
		40～49歳	89.3	1.0	7.8	1.9
		50～59歳	88.1	1.8	7.3	2.8
		60～69歳	80.6	5.0	10.1	4.3
		70歳以上	62.9	3.1	12.4	21.6
④ 人と会うことや外出などを 制限する	男性・ 年齢別	20～29歳	59.6	7.7	32.7	0.0
		30～39歳	48.6	14.9	33.8	2.7
		40～49歳	53.4	19.2	26.0	1.4
		50～59歳	62.7	14.7	21.3	1.3
		60～69歳	41.9	22.2	30.8	5.1
		70歳以上	34.5	13.8	31.9	19.8
	女性・ 年齢別	20～29歳	53.2	14.5	32.3	0.0
		30～39歳	55.1	20.4	22.4	2.0
		40～49歳	61.2	12.6	23.3	2.9
		50～59歳	67.0	7.3	22.0	3.7
		60～69歳	56.1	10.8	28.1	5.0
		70歳以上	34.0	12.4	30.9	22.7

○性別・年齢別表

			暴力にあたる	暴力にあたらぬ	暴力にあたる場合もそうでない場合もある	無回答	
⑤ 交友関係や電話・メールなど行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	57.7	13.5	28.8	0.0	
		30～39歳	45.9	18.9	32.4	2.7	
		40～49歳	46.6	17.8	34.2	1.4	
		50～59歳	58.7	16.0	25.3	0.0	
		60～69歳	39.3	24.8	31.6	4.3	
		70歳以上	29.3	15.5	31.9	23.3	
		女性・年齢別	20～29歳	48.4	16.1	35.5	0.0
	30～39歳	51.0	19.4	27.6	2.0		
	40～49歳	59.2	12.6	25.2	2.9		
	50～59歳	56.9	13.8	25.7	3.7		
	60～69歳	54.0	10.1	30.9	5.0		
	70歳以上	37.1	10.3	30.9	21.6		
	⑥ 生活費を渡さないなど、経済的制限をする	男性・年齢別	20～29歳	75.0	5.8	19.2	0.0
			30～39歳	62.2	17.6	17.6	2.7
40～49歳			72.6	12.3	13.7	1.4	
50～59歳			64.0	10.7	25.3	0.0	
60～69歳			62.4	14.5	18.8	4.3	
70歳以上			49.1	9.5	19.8	21.6	
女性・年齢別			20～29歳	82.3	1.6	16.1	0.0
30～39歳		80.6	6.1	11.2	2.0		
40～49歳		75.7	7.8	14.6	1.9		
50～59歳		74.3	10.1	11.0	4.6		
60～69歳		72.7	9.4	12.9	5.0		
70歳以上		58.8	3.1	16.5	21.6		
⑦ 馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く		男性・年齢別	20～29歳	86.5	5.8	7.7	0.0
			30～39歳	77.0	6.8	14.9	1.4
	40～49歳		75.3	5.5	17.8	1.4	
	50～59歳		78.7	1.3	20.0	0.0	
	60～69歳		80.3	5.1	11.1	3.4	
	70歳以上		50.9	4.3	25.9	19.0	
	女性・年齢別		20～29歳	87.1	4.8	8.1	0.0
	30～39歳	85.7	5.1	7.1	2.0		
	40～49歳	81.6	2.9	12.6	2.9		
	50～59歳	80.7	4.6	11.0	3.7		
	60～69歳	82.0	4.3	9.4	4.3		
	70歳以上	62.9	3.1	13.4	20.6		
	⑧ 嫌がっているのに性的行為を強要する	男性・年齢別	20～29歳	96.2	0.0	3.8	0.0
			30～39歳	87.8	2.7	6.8	2.7
40～49歳			90.4	1.4	6.8	1.4	
50～59歳			92.0	1.3	6.7	0.0	
60～69歳			81.2	3.4	12.0	3.4	
70歳以上			67.2	0.9	12.1	19.8	
女性・年齢別			20～29歳	93.5	3.2	3.2	0.0
30～39歳		91.8	0.0	6.1	2.0		
40～49歳		93.2	1.9	2.9	1.9		
50～59歳		89.0	2.8	5.5	2.8		
60～69歳		84.9	2.2	7.9	5.0		
70歳以上		62.9	4.1	13.4	19.6		

「暴力にあたる」と思う割合は、「物をぶつける」の回答では各年齢層とも女性より男性の割合が高く、「生活費を渡さないなど、経済的制限をする」と「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」の回答では各年齢層とも男性より女性の割合が高くなっている。

「暴力にあたらぬ」と思う割合は、「生活費を渡さないなど、経済的制限をする」の回答では各年齢層とも女性より男性の割合が高くなっている。

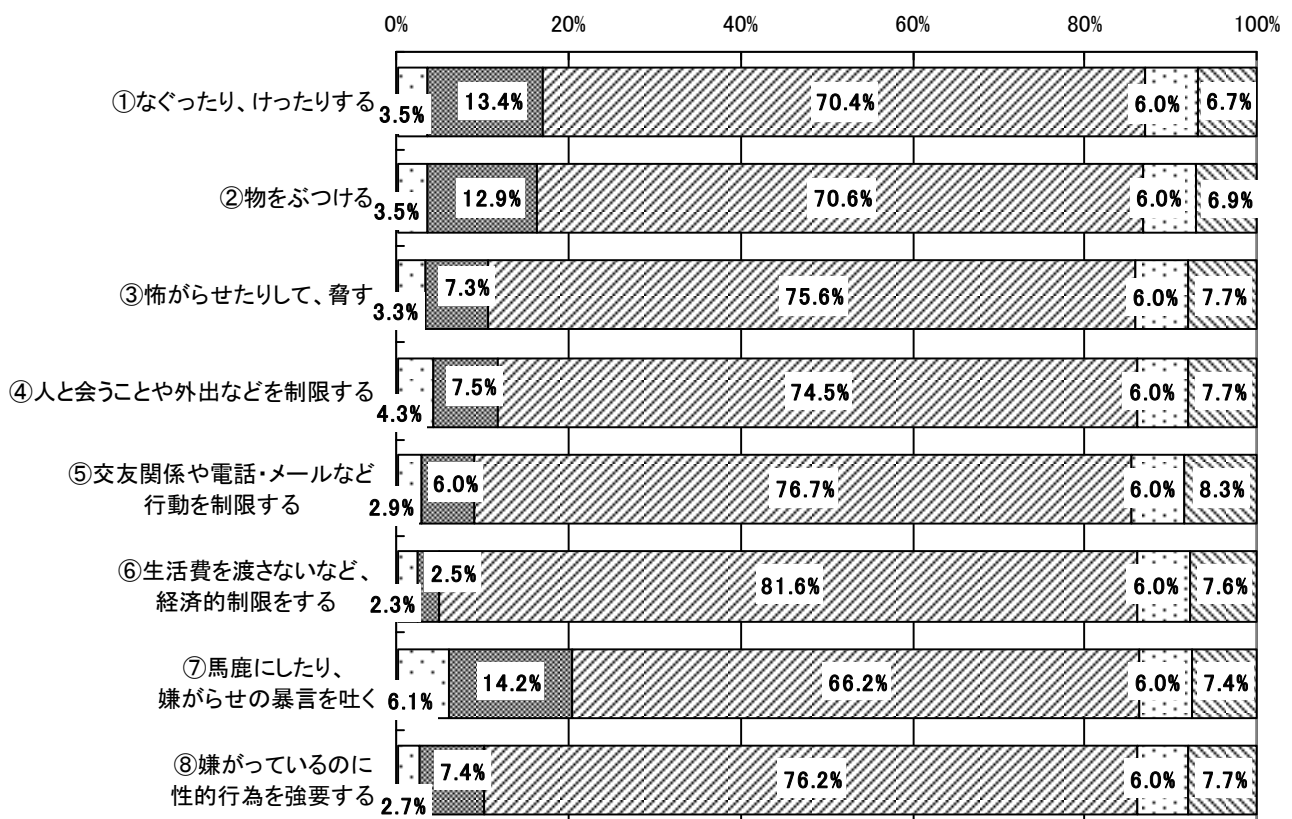
## 問 25 配偶者や交際相手から受けた暴力行為

これまでに配偶者や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- ①なぐったり、けったりする
- ②物をぶつける
- ③怖がらせたりして、脅す
- ④人と会うことや外出などを制限する
- ⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する
- ⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする
- ⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く
- ⑧嫌がっているのに性的行為を強要する

何度もあった
  1・2度あった
  まったくない
  今までに配偶者や交際相手はいない
  無回答

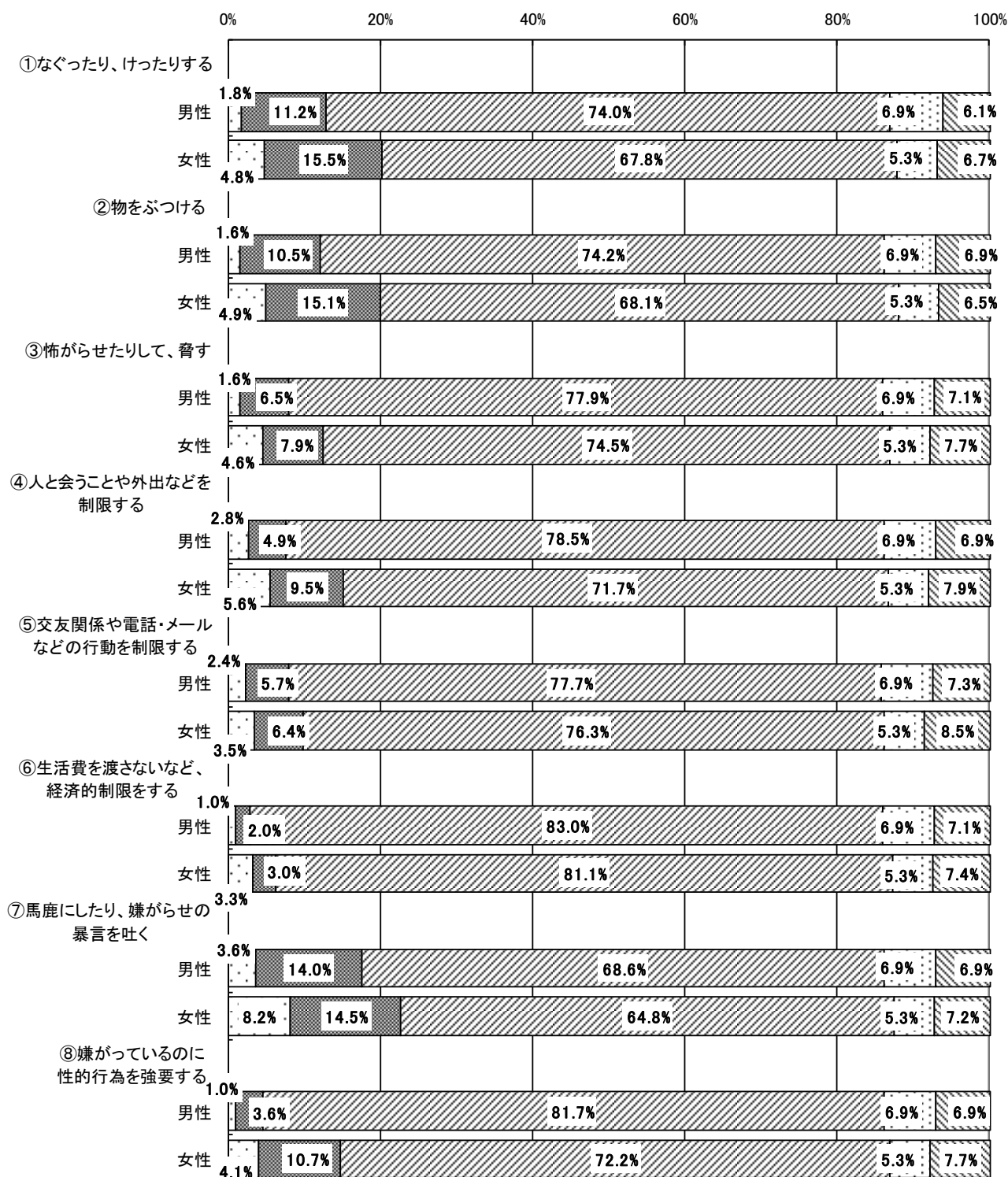


配偶者や交際相手から受けた暴力について、「暴力行為があった」割合（「何度もあった」と「1・2度あった」の計）は「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が20.3%と最も高く、次いで「なぐったり、けったりする」（16.9%）、「物をぶつける」（16.4%）の順となっている。



○性別

■ 何度もあった ■ 1・2度あった ■ まったくない ■ 今までに配偶者や交際相手はいない ■ 無回答



男女ともに「暴力行為があった」割合は、「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が最も高くなっている。

いずれの項目も「暴力行為があった」割合は、男性より女性が高くなっている。

○性別・年齢別表

			何度もあった	1・2度あった	まったくない	今までに配偶者 や交際相手は いない	無回答
① なぐったり、 けったりする	男性・ 年齢別	20～29歳	0.0	3.8	76.9	17.3	1.9
		30～39歳	2.7	16.2	59.5	17.6	4.1
		40～49歳	2.7	9.6	79.5	5.5	2.7
		50～59歳	1.3	13.3	80.0	4.0	1.3
		60～69歳	0.9	12.8	79.5	2.6	4.3
		70歳以上	2.6	9.5	69.0	2.6	16.4
	女性・ 年齢別	20～29歳	1.6	6.5	69.4	21.0	1.6
		30～39歳	1.0	21.4	63.3	9.2	5.1
		40～49歳	4.9	14.6	75.7	2.9	1.9
		50～59歳	4.6	18.3	73.4	0.9	2.8
		60～69歳	6.5	17.3	65.5	3.6	7.2
		70歳以上	8.2	10.3	59.8	1.0	20.6
② 物をぶつける	男性・ 年齢別	20～29歳	0.0	3.8	76.9	17.3	1.9
		30～39歳	1.4	8.1	68.9	17.6	4.1
		40～49歳	2.7	8.2	80.8	5.5	2.7
		50～59歳	1.3	10.7	82.7	4.0	1.3
		60～69歳	0.0	17.1	75.2	2.6	5.1
		70歳以上	3.4	9.5	65.5	2.6	19.0
	女性・ 年齢別	20～29歳	1.6	6.5	69.4	21.0	1.6
		30～39歳	2.0	17.3	66.3	9.2	5.1
		40～49歳	5.8	12.8	76.7	2.9	1.9
		50～59歳	7.3	13.8	75.2	0.9	2.8
		60～69歳	5.0	17.3	66.2	3.6	7.9
		70歳以上	6.2	19.6	54.6	1.0	18.6
③ 怖がらせたりして、 脅す	男性・ 年齢別	20～29歳	0.0	5.8	73.1	17.3	3.8
		30～39歳	1.4	8.1	68.9	17.6	4.1
		40～49歳	4.1	6.8	80.8	5.5	2.7
		50～59歳	0.0	5.3	89.3	4.0	1.3
		60～69歳	0.9	8.5	83.8	2.6	4.3
		70歳以上	2.6	4.3	70.7	2.6	19.8
	女性・ 年齢別	20～29歳	0.0	6.5	71.0	21.0	1.6
		30～39歳	5.1	12.2	68.4	9.2	5.1
		40～49歳	3.9	11.7	78.6	2.9	2.9
		50～59歳	8.3	3.7	84.4	0.9	2.8
		60～69歳	5.0	5.8	76.3	3.6	9.4
		70歳以上	3.1	8.2	64.9	1.0	22.7
④ 人と会うことや外出などを 制限する	男性・ 年齢別	20～29歳	1.9	3.8	75.0	17.3	1.9
		30～39歳	2.7	4.1	71.6	17.6	4.1
		40～49歳	2.7	11.0	78.1	5.5	2.7
		50～59歳	4.0	6.7	84.0	4.0	1.3
		60～69歳	2.6	4.3	86.3	2.6	4.3
		70歳以上	2.6	1.7	73.3	2.6	19.8
	女性・ 年齢別	20～29歳	4.8	4.8	67.7	21.0	1.6
		30～39歳	9.2	14.3	61.2	9.2	6.1
		40～49歳	5.8	8.7	78.6	2.9	3.9
		50～59歳	3.7	8.3	84.4	0.9	2.8
		60～69歳	7.2	12.2	67.6	3.6	9.4
		70歳以上	2.1	6.2	69.1	1.0	21.6

○性別・年齢別表

			何度もあった	1・2度あった	まったくない	今までに配偶者 や交際相手は いない	無回答
⑤ 交友関係や電話・メールなど 行動を制限する	男性・年齢別	20～29歳	3.8	9.6	67.3	17.3	1.9
		30～39歳	1.4	5.4	71.6	17.6	4.1
		40～49歳	2.7	9.6	79.5	5.5	2.7
		50～59歳	2.7	5.3	86.7	4.0	1.3
		60～69歳	1.7	5.1	85.5	2.6	5.1
		70歳以上	2.6	2.6	71.6	2.6	20.7
	女性・年齢別	20～29歳	4.8	11.3	61.3	21.0	1.6
		30～39歳	8.2	10.2	67.3	9.2	5.1
		40～49歳	2.9	7.8	82.5	2.9	3.9
		50～59歳	2.8	3.7	89.9	0.9	2.8
		60～69歳	2.2	5.0	78.4	3.6	10.8
		70歳以上	1.0	3.1	70.1	1.0	24.7
	⑥ 生活費を渡さないなど、経済的制限をする	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	80.8	17.3
30～39歳			0.0	0.0	78.4	17.6	4.1
40～49歳			1.4	4.1	86.3	5.5	2.7
50～59歳			1.3	1.3	90.7	4.0	2.7
60～69歳			0.0	3.4	89.7	2.6	4.3
70歳以上			2.6	1.7	73.3	2.6	19.8
女性・年齢別		20～29歳	1.6	0.0	75.8	21.0	1.6
		30～39歳	1.0	2.0	82.7	9.2	5.1
		40～49歳	6.8	1.9	86.4	2.9	1.9
		50～59歳	4.6	3.7	87.2	0.9	3.7
		60～69歳	2.9	2.9	82.0	3.6	8.6
		70歳以上	2.1	6.2	69.1	1.0	21.6
⑦ 馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く		男性・年齢別	20～29歳	0.0	9.6	71.2	17.3
	30～39歳		8.1	12.2	58.1	17.6	4.1
	40～49歳		8.2	16.4	68.5	5.5	1.4
	50～59歳		1.3	14.7	78.7	4.0	1.3
	60～69歳		1.7	17.1	74.4	2.6	4.3
	70歳以上		2.6	12.1	62.1	2.6	20.7
	女性・年齢別	20～29歳	1.6	8.1	67.7	21.0	1.6
		30～39歳	7.1	12.2	66.3	9.2	5.1
		40～49歳	10.7	15.5	68.0	2.9	2.9
		50～59歳	11.9	12.8	70.6	0.9	3.7
		60～69歳	9.4	15.1	64.0	3.6	7.9
		70歳以上	5.2	20.6	52.6	1.0	20.6
	⑧ 嫌がっているのに性的行為を強要する	男性・年齢別	20～29歳	0.0	0.0	80.8	17.3
30～39歳			1.4	0.0	77.0	17.6	4.1
40～49歳			2.7	5.5	83.6	5.5	2.7
50～59歳			0.0	2.7	92.0	4.0	1.3
60～69歳			0.0	5.1	88.0	2.6	4.3
70歳以上			1.7	5.2	70.7	2.6	19.8
女性・年齢別		20～29歳	1.6	1.6	74.2	21.0	1.6
		30～39歳	5.1	11.2	69.4	9.2	5.1
		40～49歳	4.9	9.7	78.6	2.9	3.9
		50～59歳	4.6	8.3	82.6	0.9	3.7
		60～69歳	5.0	13.7	68.3	3.6	9.4
		70歳以上	2.1	15.5	60.8	1.0	20.6

「暴力行為があった」割合は、男女とも 40 歳代が「馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く」が最も高くなっている。

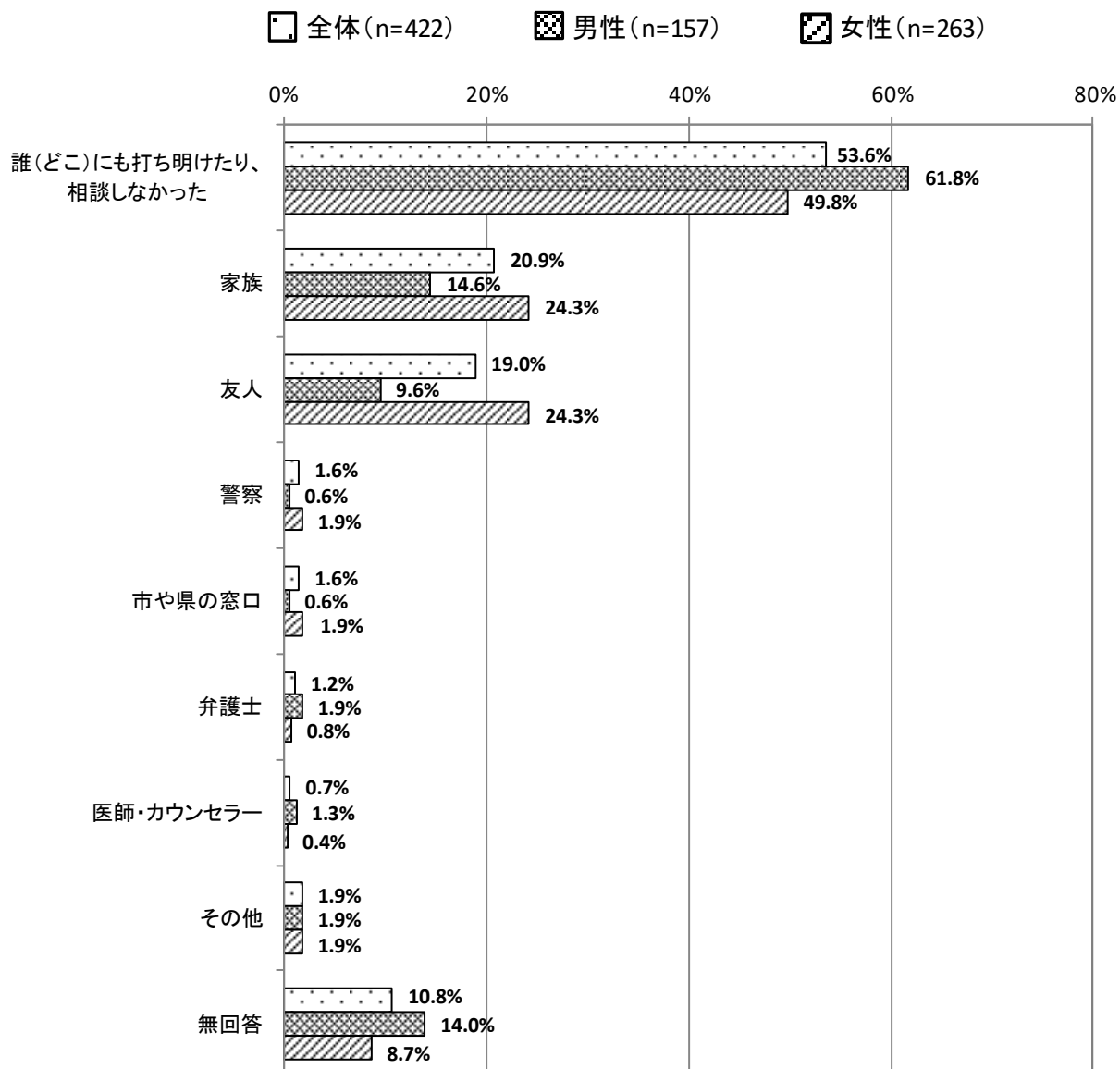
## 問 25-1 DVを受けたときの相談について

問 25 で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみお答えください。

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

- |                         |             |          |
|-------------------------|-------------|----------|
| 1 家族                    | 2 友人        | 3 警察     |
| 4 弁護士                   | 5 医師・カウンセラー | 6 市や県の窓口 |
| 7 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった |             |          |
| 8 その他( )                |             |          |



問 25 で「何度もあった」、「1・2度あった」と回答した 422 人について、「誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」の割合が 53.6%と最も高く、次いで「家族」(20.9%)、「友人」(19.0%)の順となっている。

性別にみると、「誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」は女性(49.8%)より男性(61.8%)の割合が 12.0 ポイント高くなっている。

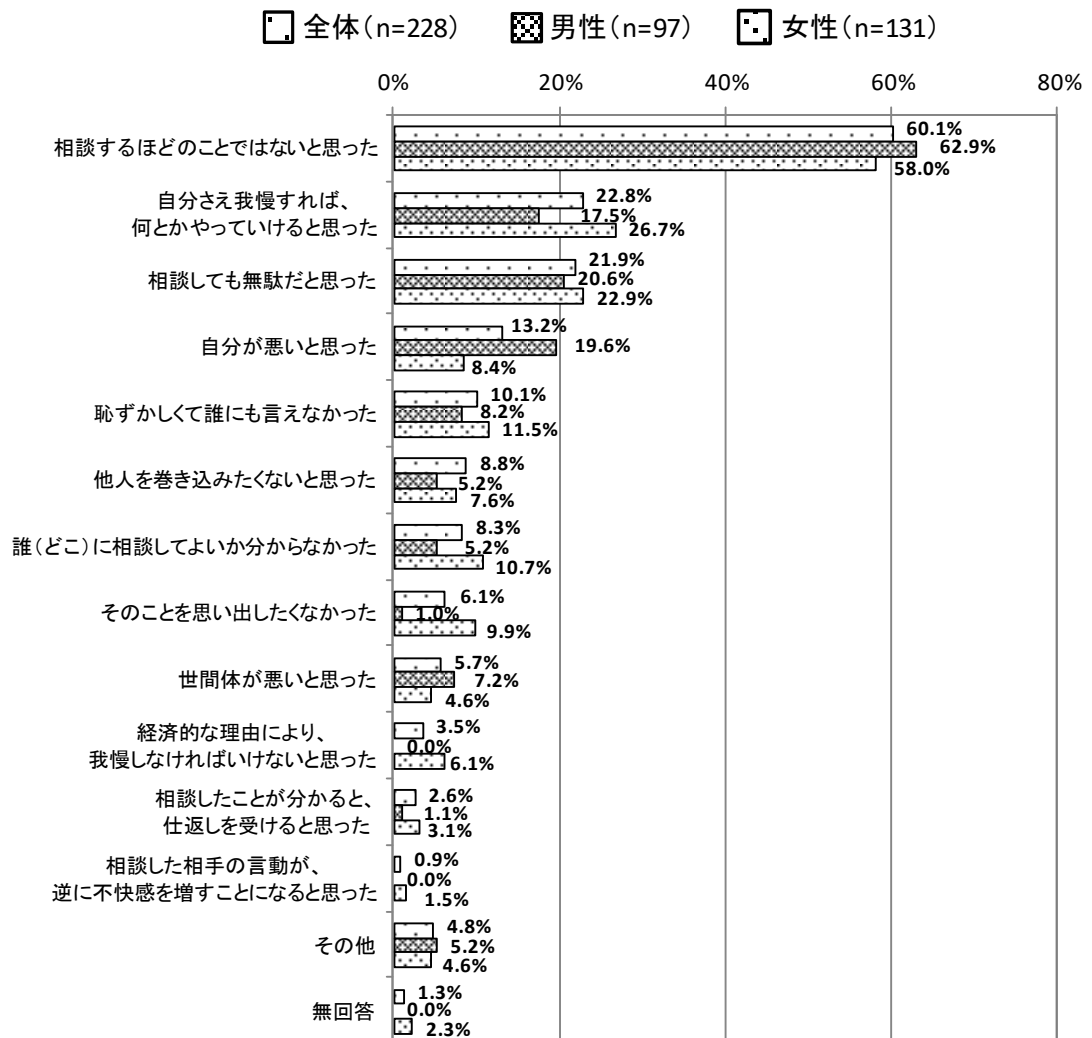
問 25-2 DVを受けて相談できなかった理由

問 25-1 で「7 誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答された方のみ  
お答えください。

あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。

（あてはまるものすべてに○印）

- 1 誰（どこ）に相談してよいか分からなかった
- 2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3 相談しても無駄だと思った
- 4 相談したことが分かって、仕返しを受けると思った
- 5 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った
- 6 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った
- 7 自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った
- 8 世間体が悪いと思った
- 9 他人を巻き込みたくなかったと思った
- 10 自分が悪いと思った
- 11 そのことを思い出したくなかった
- 12 相談するほどのことではないと思った
- 13 その他（ ）

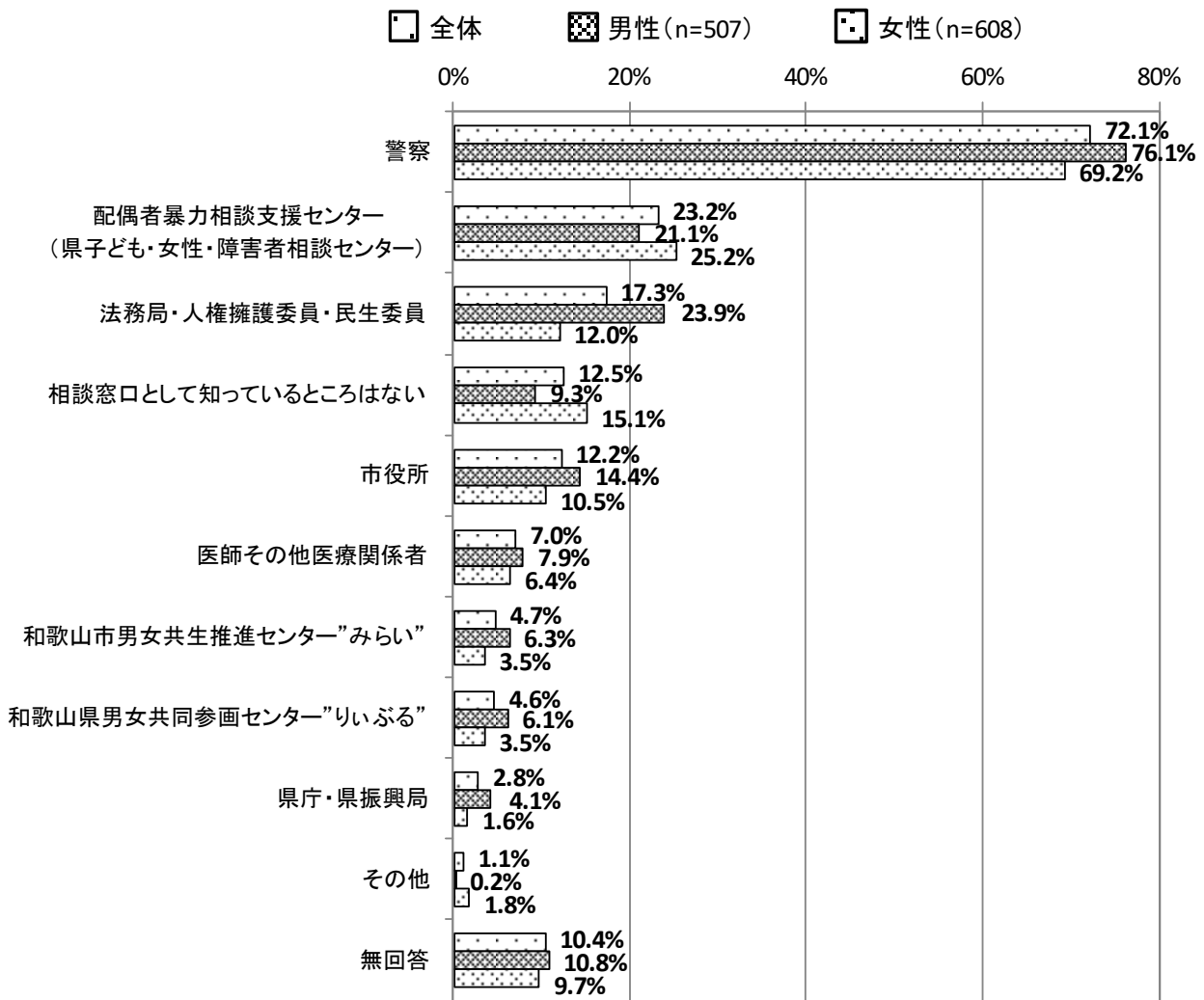


問 25-1 で「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答した 228 人について、理由として「相談するほどのことではないと思った」の割合が 60.1%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」（22.8%）の順となっている。性別にみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思った」の割合が最も高くなっている。男性は、「自分が悪いと思った」が 19.6%と女性（8.4%）よりも 11.2 ポイント上回っている。女性は、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思った」が 26.7%と男性（17.5%）よりも 9.2 ポイント上回っている。

問 26 相談窓口の認知度

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時に相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○印)

1 警察  
2 法務局・人権擁護委員・民生児童委員  
3 配偶者暴力相談支援センター（県子ども・女性・障害者相談センター）  
4 和歌山市男女共生推進センター“みらい”  
5 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”  
6 県庁・県振興局  
7 市役所  
8 医師その他医療関係者  
9 相談窓口として知っているところはない  
10 その他（ ）



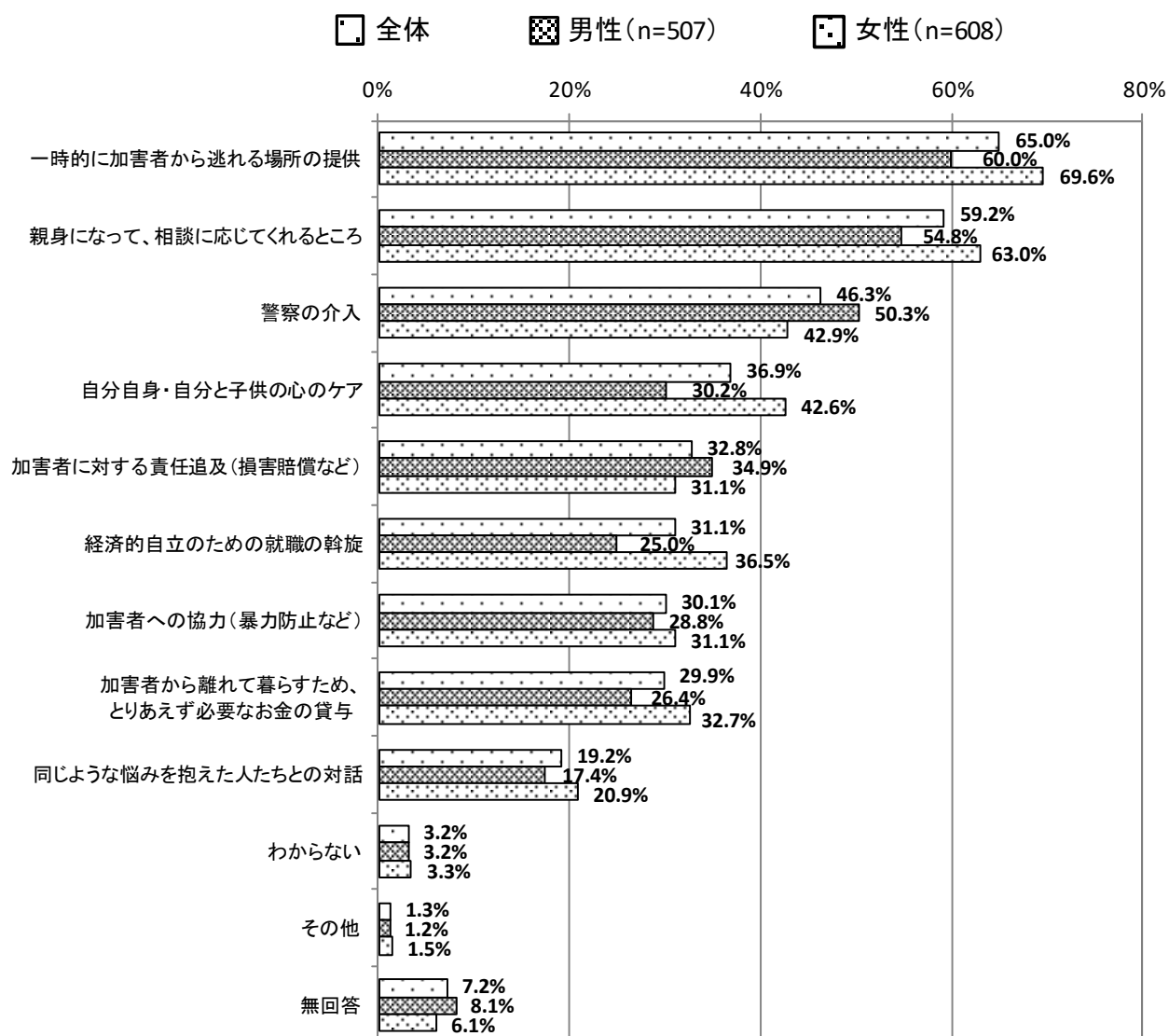
相談窓口としての認知度は、「警察」の割合が72.1%と最も高く、次いで「配偶者暴力相談支援センター」(23.2%)、「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」(17.3%)の順となり、「相談窓口として知っているところはない」は12.5%である。

性別にみると、女性は「配偶者暴力相談支援センター」が男性より認知度が高く、その他の項目は男性が女性よりも認知度が高い。

## 問 27 DV被害からの救済

配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時にどのような助けが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 一時的に加害者から逃れる場所の提供
- 2 警察の介入
- 3 親身になって、相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与
- 6 自分自身・自分と子供の心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちとの対話
- 8 加害者に対する責任追及（損害賠償など）
- 9 加害者への教育（暴力防止など）
- 10 わからない
- 11 その他（ ）



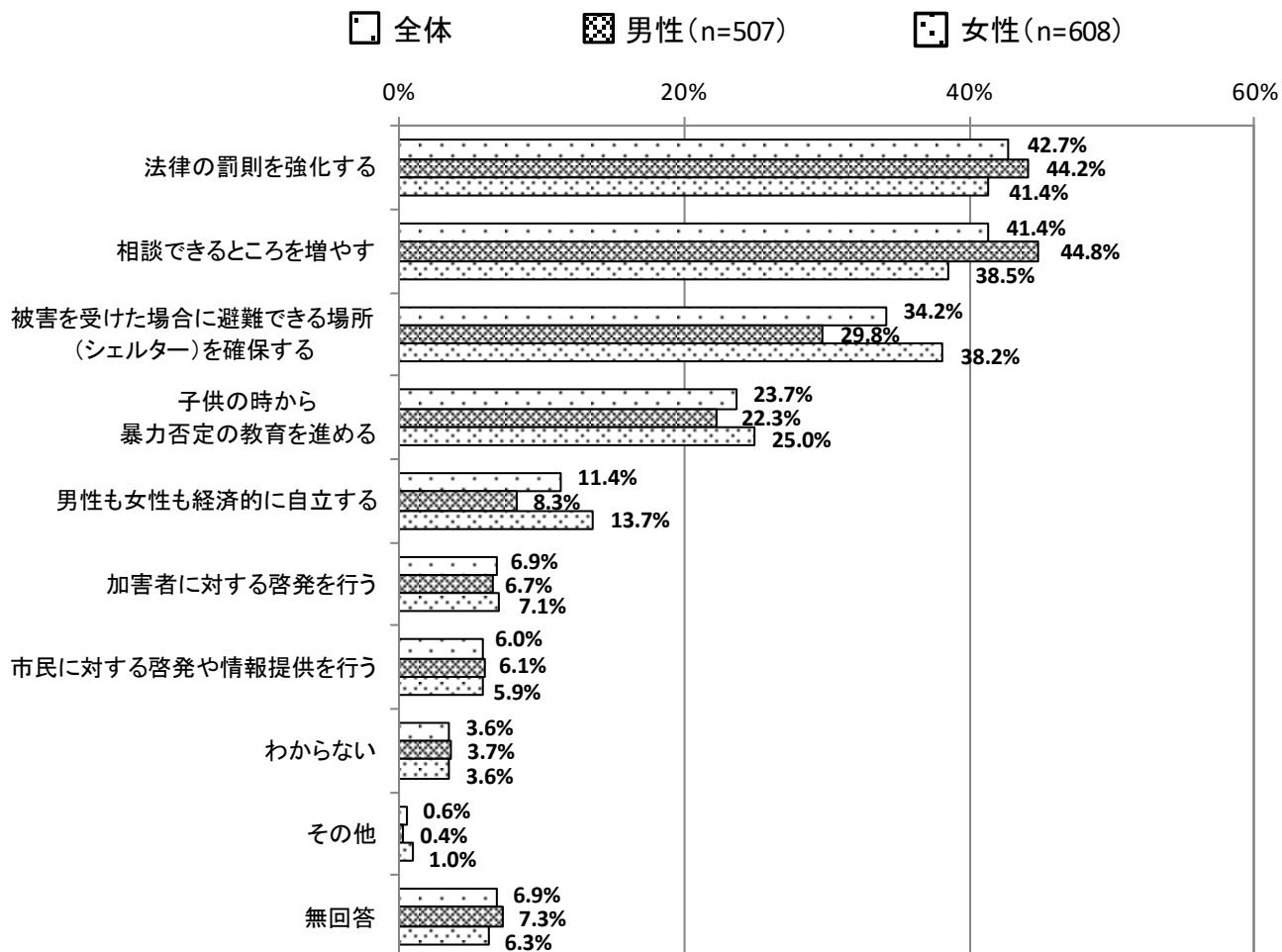
相手から暴力を受けたときの必要な助けについて、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」の割合が65.0%と最も高く、次いで、「親身になって、相談に応じてくれるところ」(59.2%)、「警察の介入」(46.3%)の順となっている。

性別にみると、「警察の介入」と「加害者に対する責任追及」の割合は女性より男性が高くなっている。

## 問28 DV防止のための取組

配偶者や交際相手との間の暴力を防ぐために、もっと取組を進める必要があると思うことは何ですか。(2つまでに○印)

- |                                |                     |
|--------------------------------|---------------------|
| 1 法律の罰則を強化する                   | 2 相談できるところを増やす      |
| 3 市民に対する啓発や情報提供を行う             | 4 加害者に対する啓発を行う      |
| 5 被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する |                     |
| 6 男性も女性も経済的に自立する               | 7 子供の時から暴力否定の教育を進める |
| 8 わからない                        | 9 その他( )            |



暴力を防ぐために必要な取組について、「法律の罰則を強化する」の割合が42.7%と最も高く、次いで「相談できるところを増やす」(41.4%)、「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」(34.2%)の順となっている。

性別にみると、女性は「法律や罰則を強化する」の割合が41.4%と最も高く、男性は「相談できるところを増やす」が44.8%と最も高くなっている。



## 8 男女共生社会について

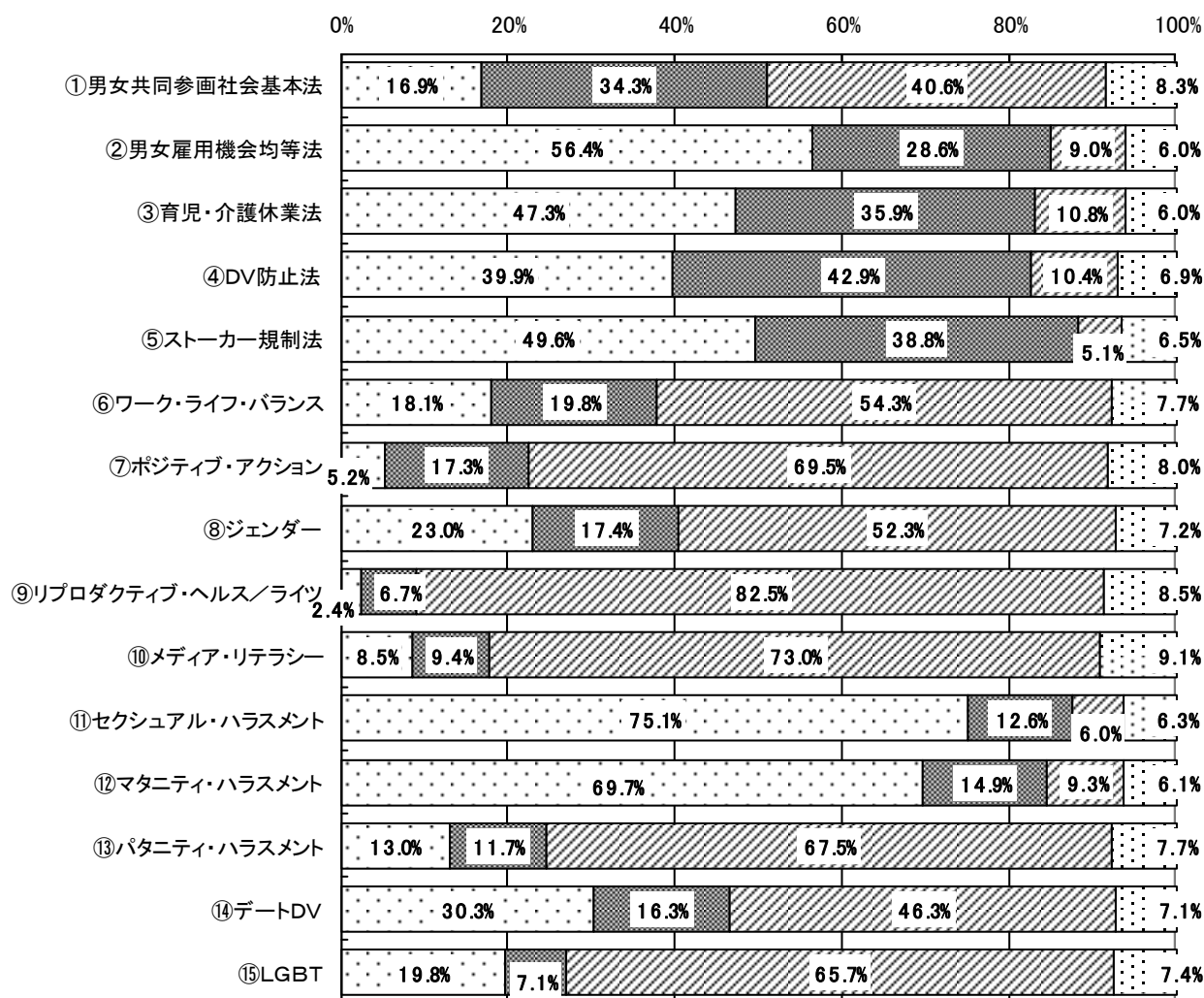
### 問 29 男女共生に関する認知度

あなたは、男女共生に関する言葉を知っていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

- |                   |               |               |
|-------------------|---------------|---------------|
| ①男女共同参画社会基本法      | ②男女雇用機会均等法    | ③育児・介護休業法     |
| ④DV防止法            | ⑤ストーカー規制法     | ⑥ワーク・ライフ・バランス |
| ⑦ポジティブ・アクション      | ⑧ジェンダー        |               |
| ⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ | ⑩メディア・リテラシー   |               |
| ⑪セクシュアル・ハラスメント    | ⑫マタニティ・ハラスメント |               |
| ⑬パタニティ・ハラスメント     | ⑭デートDV        | ⑮LGBT         |

言葉も内容も知っている
  言葉は知っているが内容は知らない
  言葉も内容も知らない
  無回答

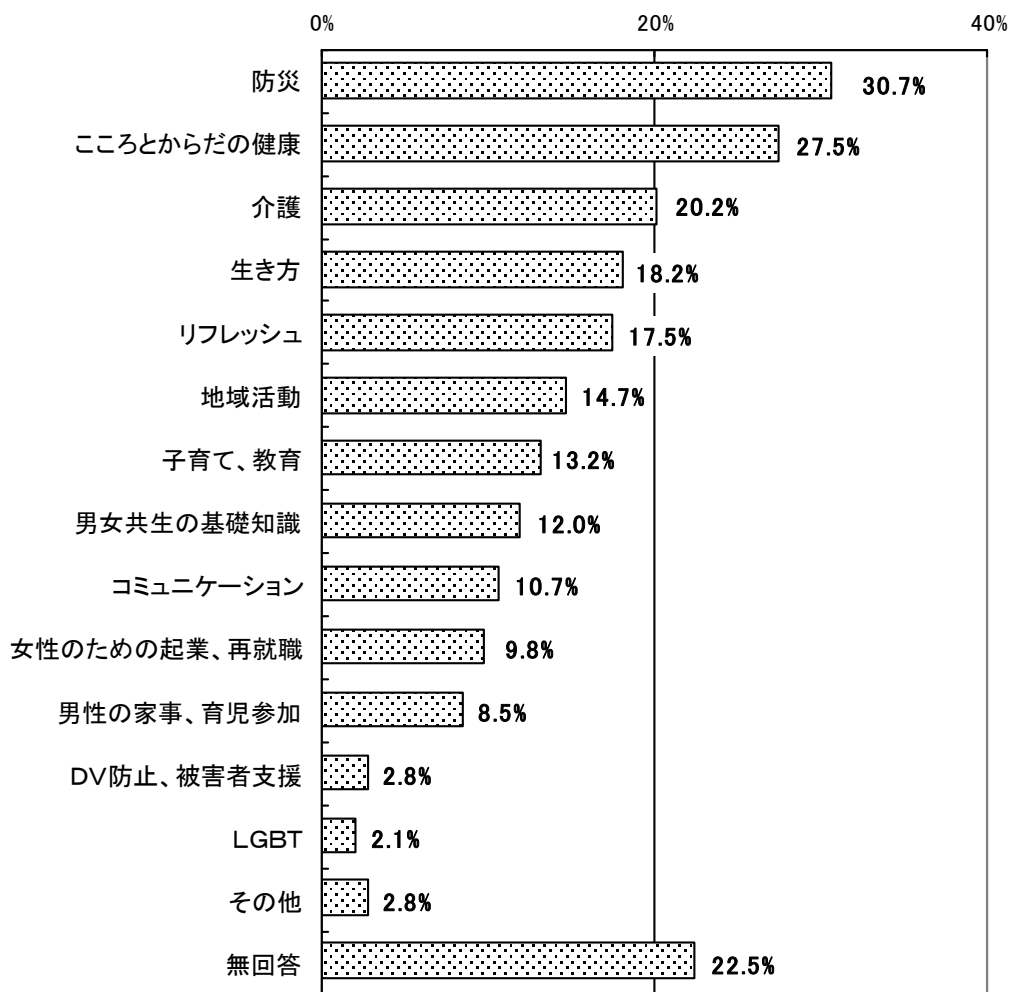


男女共生に関する言葉の認知度（「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが内容は知らない」の計）は、「ストーカー規制法」の割合が88.4%と最も高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」（87.7%）、「男女雇用機会均等法」（85.0%）の順となっている。

問 30 男女共生社会に関する講座への興味

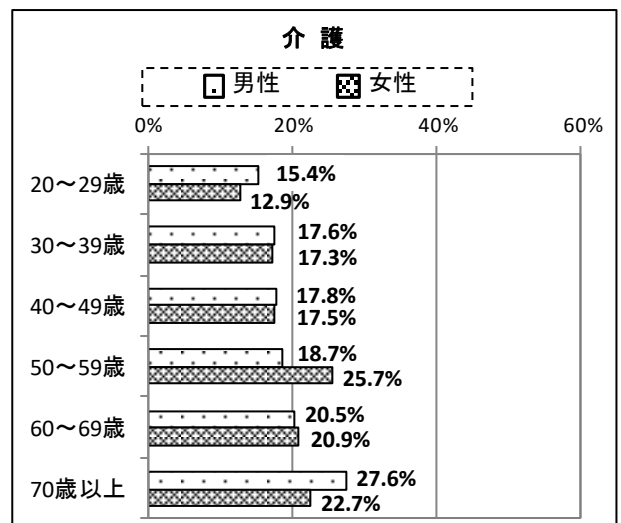
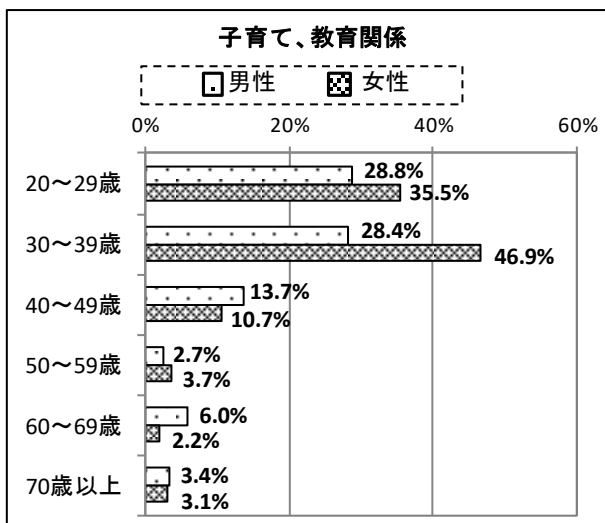
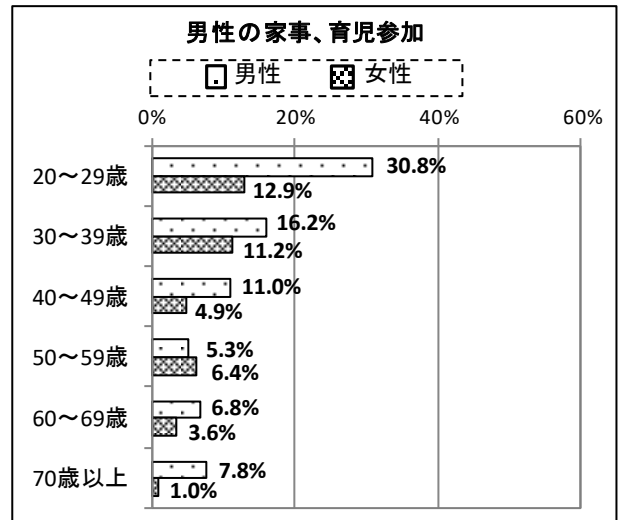
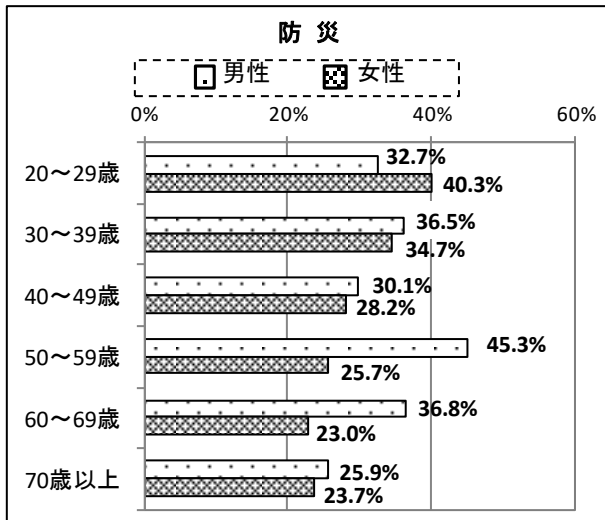
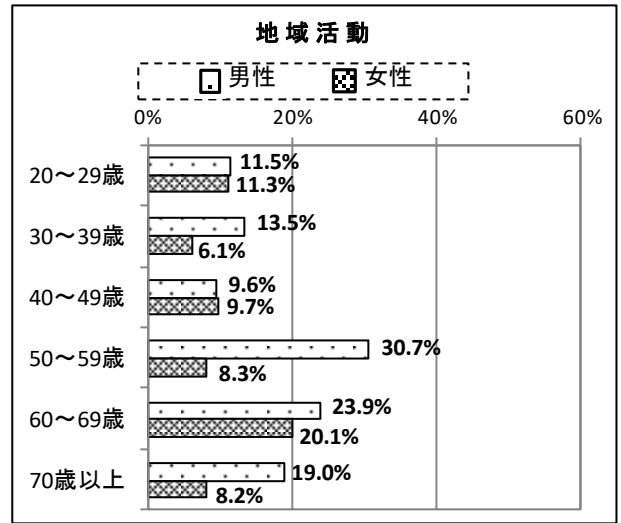
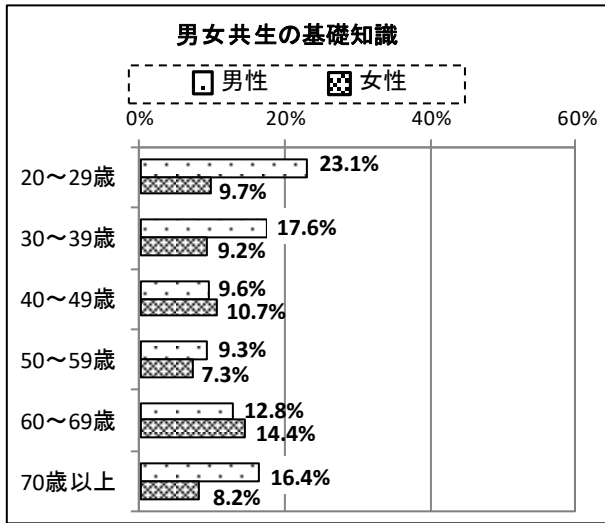
本市では、男女共生社会に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1 男女共生の基礎知識    | 2 地域活動        |
| 3 防災           | 4 男性の家事、育児参加  |
| 5 子育て、教育関係     | 6 介護          |
| 7 女性のための起業、再就職 | 8 ころとからだの健康   |
| 9 リフレッシュ       | 10 DV防止、被害者支援 |
| 11 コミュニケーション   | 12 生き方        |
| 13 LGBT        | 14 その他 ( )    |

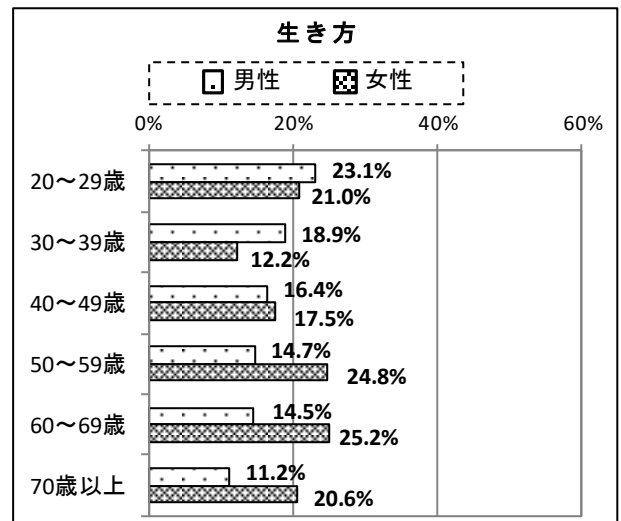
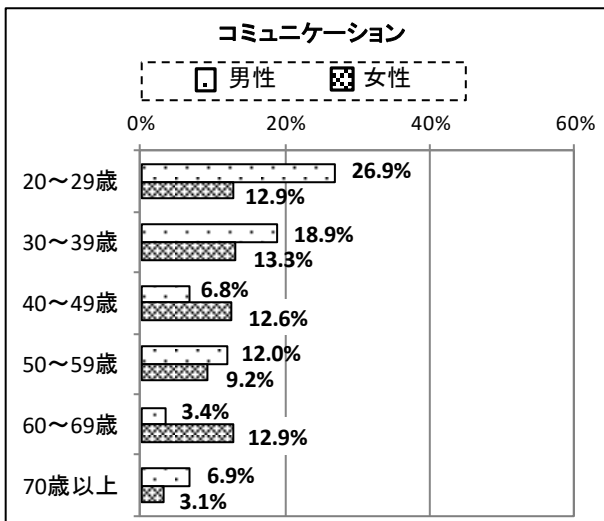
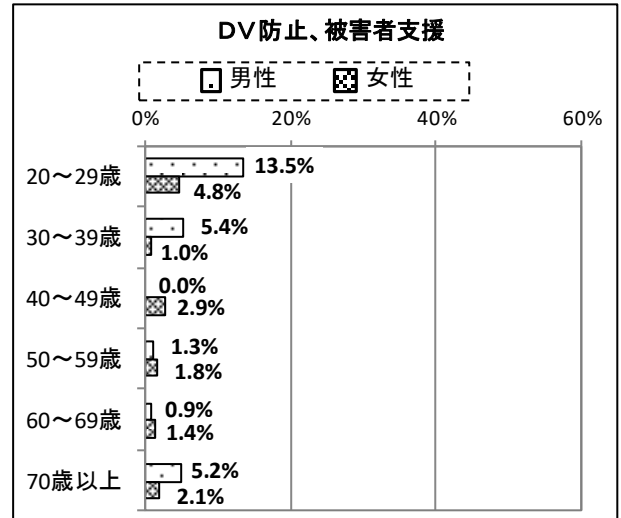
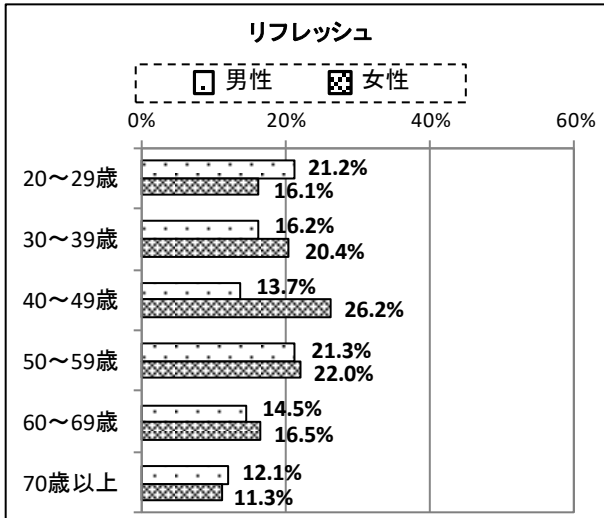
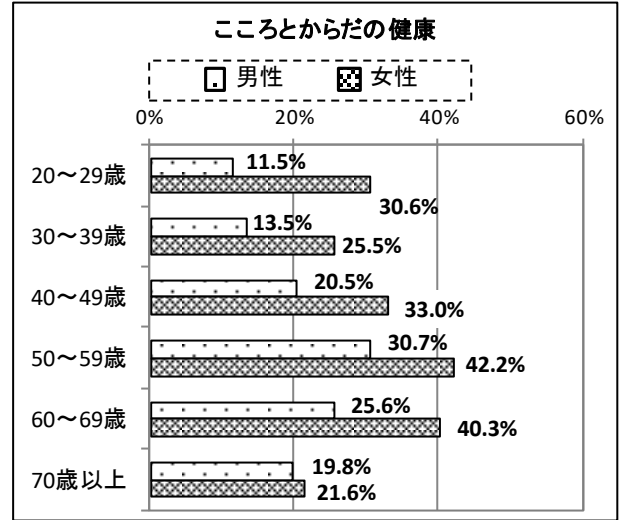
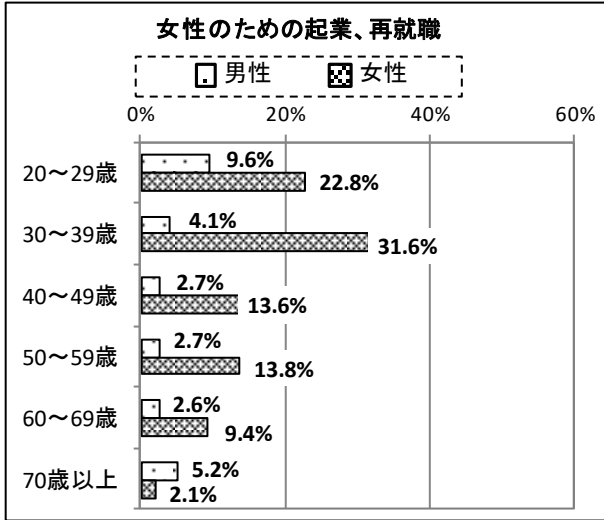


市で行う男女共生社会に関する講座のうち興味があるテーマについて、「防災」の割合が30.7%と最も高く、次いで「ころとからだの健康」(27.5%)、「介護」(20.2%)となっている。

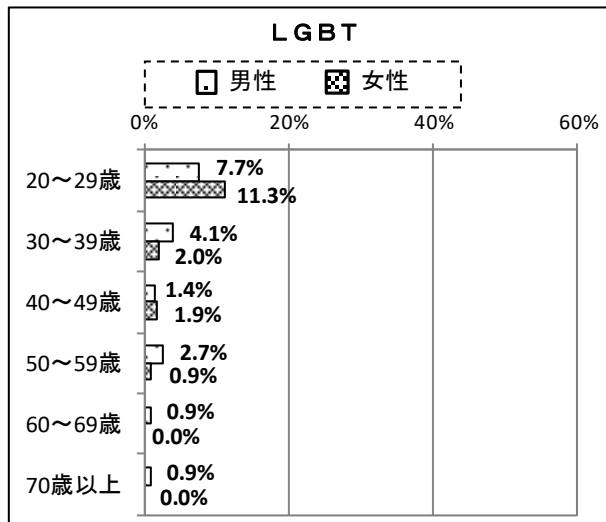
○性別・年齢別



○性別・年齢別



○性別・年齢別



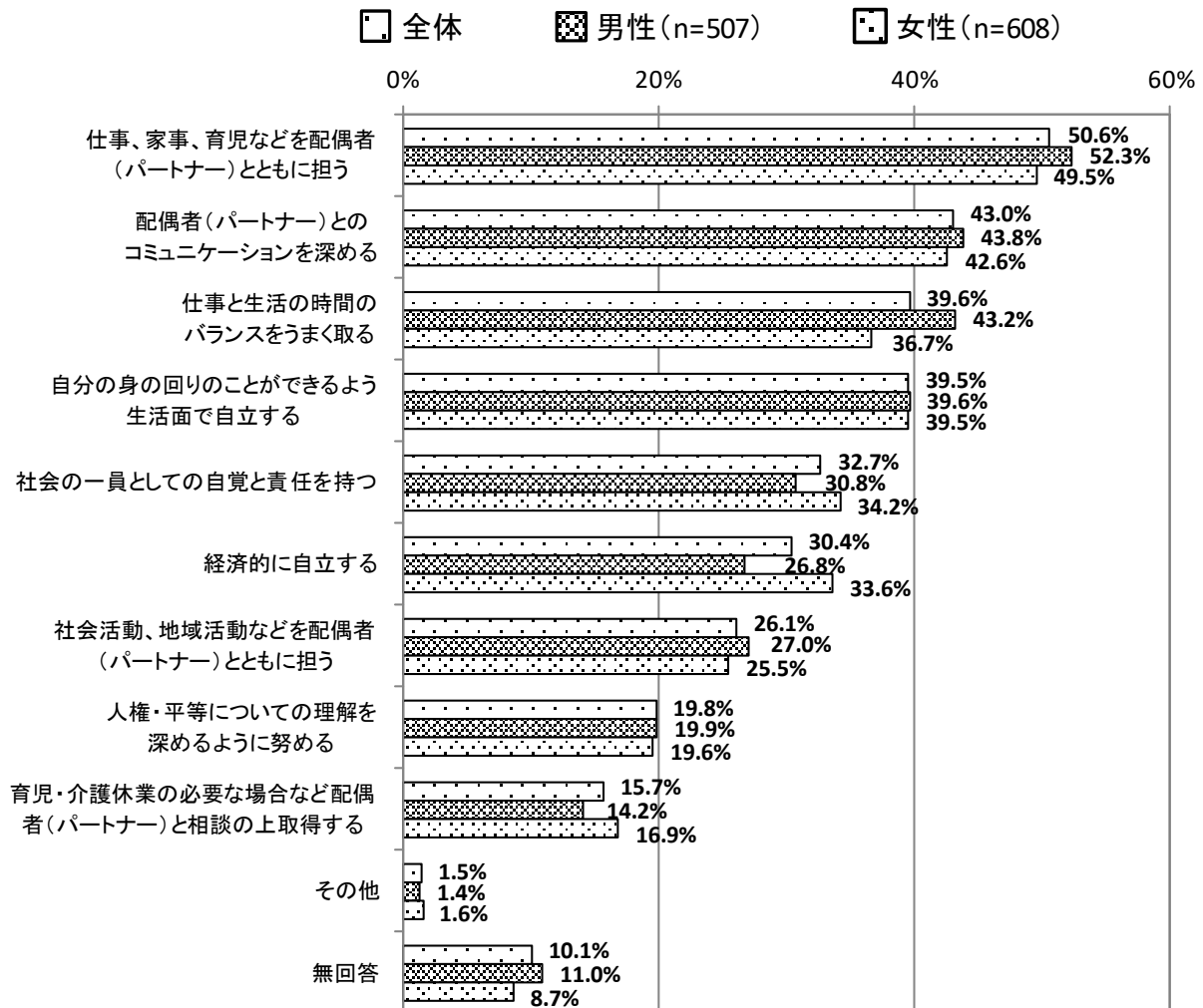
男性の20歳代から60歳代は「防災」、70歳以上は「介護」の割合が最も高くなっている。

女性の20歳代と70歳以上は「防災」、30歳代は「子育て、教育関係」、40歳代から60歳代は「こころとからだの健康」の割合が最も高くなっている。「こころとからだの健康」の回答は、各年齢層とも男性より女性の割合が高くなっている。

### 問 31 男女共生を推進するための個人の取組

男女共生を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

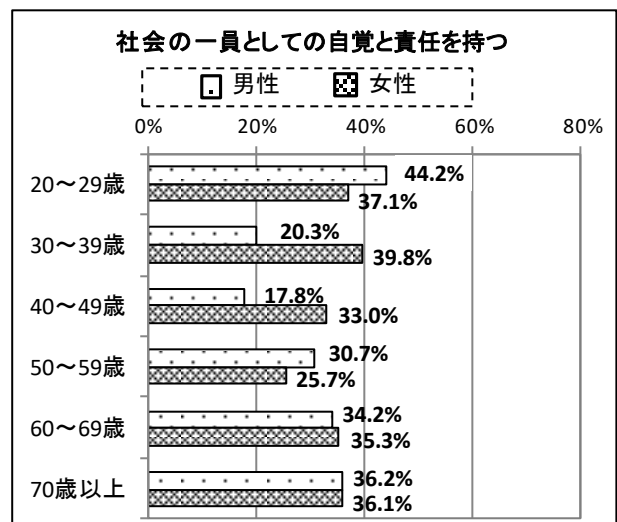
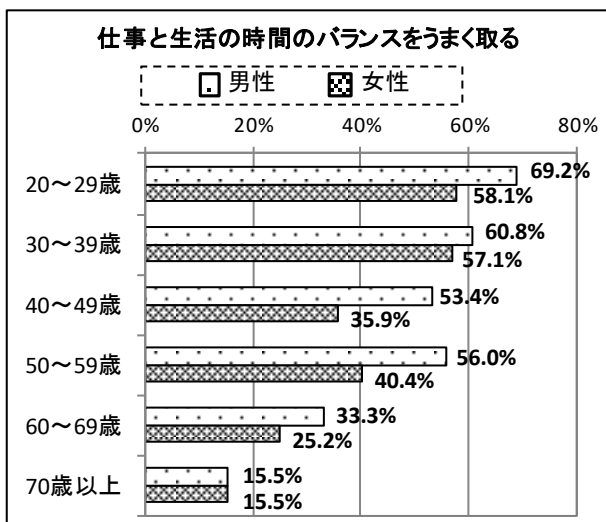
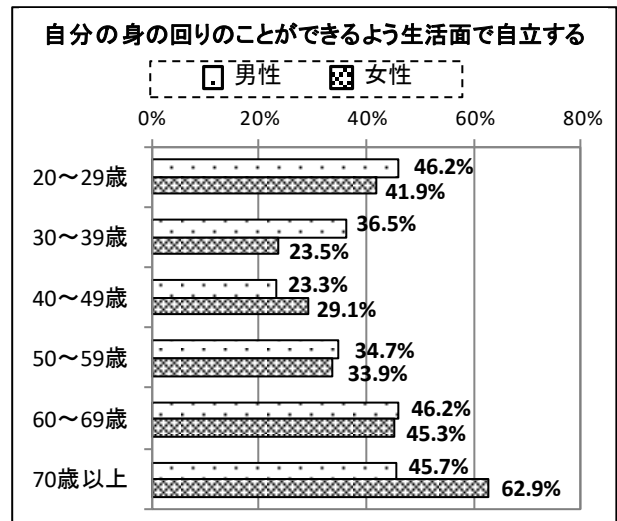
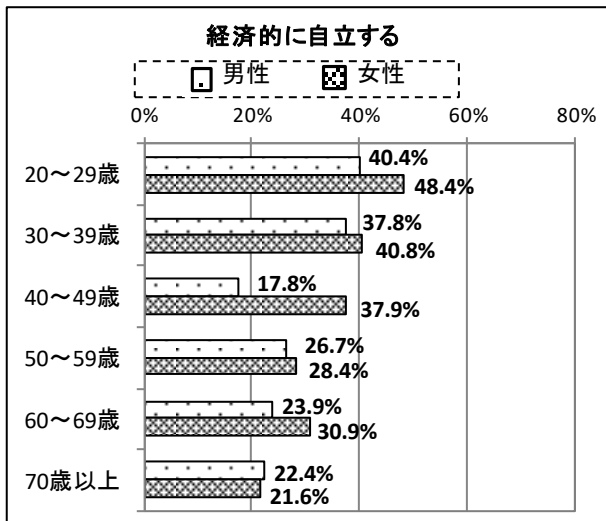
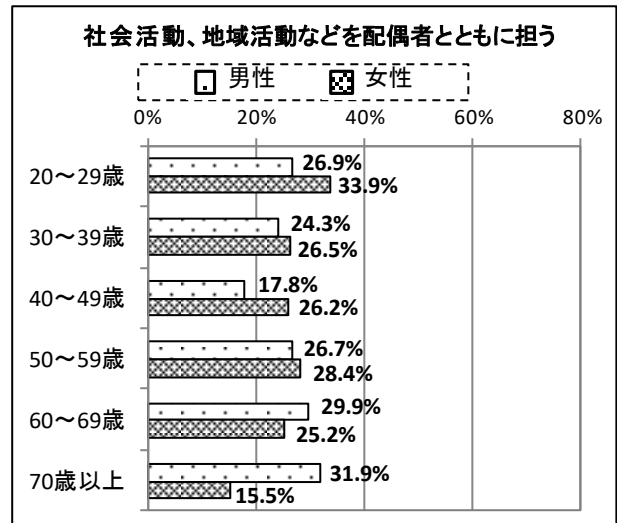
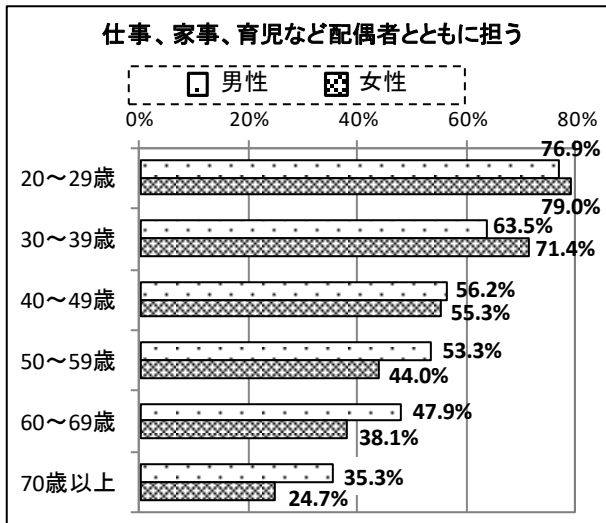
- 1 仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う
- 2 社会活動、地域活動などを配偶者（パートナー）とともに担う
- 3 経済的に自立する
- 4 自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
- 5 仕事と生活の時間のバランスをうまく取る
- 6 社会の一員としての自覚と責任を持つ
- 7 育児・介護休業の必要な場合など配偶者（パートナー）と相談の上取得する
- 8 人権・平等についての理解を深めるように努める
- 9 配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める
- 10 その他（ ）



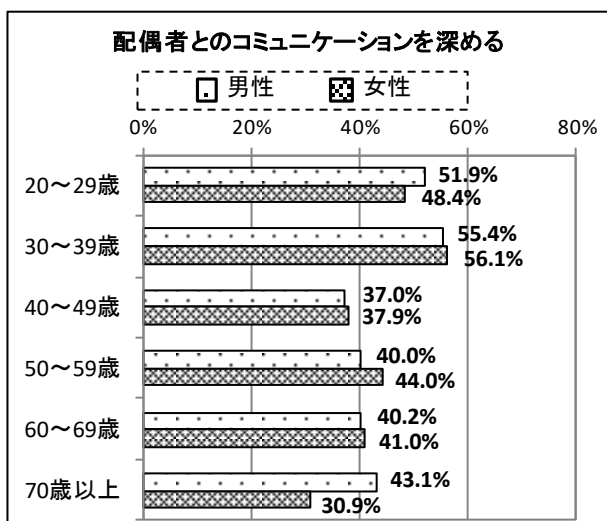
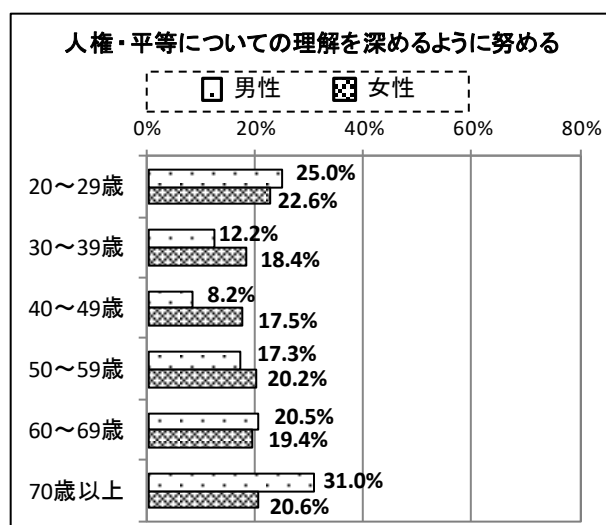
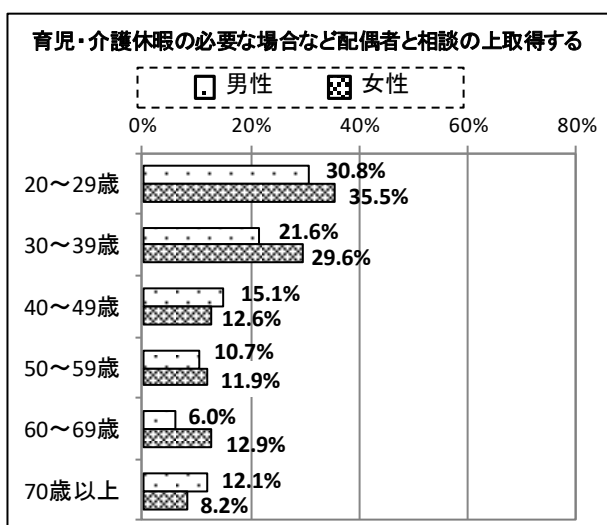
男女共生を推進するための個人の取組として、「仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める」（43.0%）、「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」（39.5%）の順となっている。

性別にみると、「経済的に自立する」の割合は男性（26.8%）より女性（33.6%）が 6.8 ポイント上回っている。

○性別・年齢別



○性別・年齢別



性別・年齢別にみると、男性の20歳代から40歳代と60歳代、女性の20歳代から50歳代は「仕事、家事、育児など配偶者とともに担う」の割合が最も高く、男性の70歳以上と女性の60歳代以上は「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」の割合が最も高くなっている。男性の50歳代は「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」の割合が最も高くなっている。女性の40歳代は「配偶者とのコミュニケーションを深める」の割合も44.0%と高くなっている。

「経済的に自立する」の回答は、70歳以上以外は男性より女性の割合が高く、「仕事と生活の時間のバランスをうまく取る」の回答は、70歳以上以外は女性より男性の割合が高くなっている。



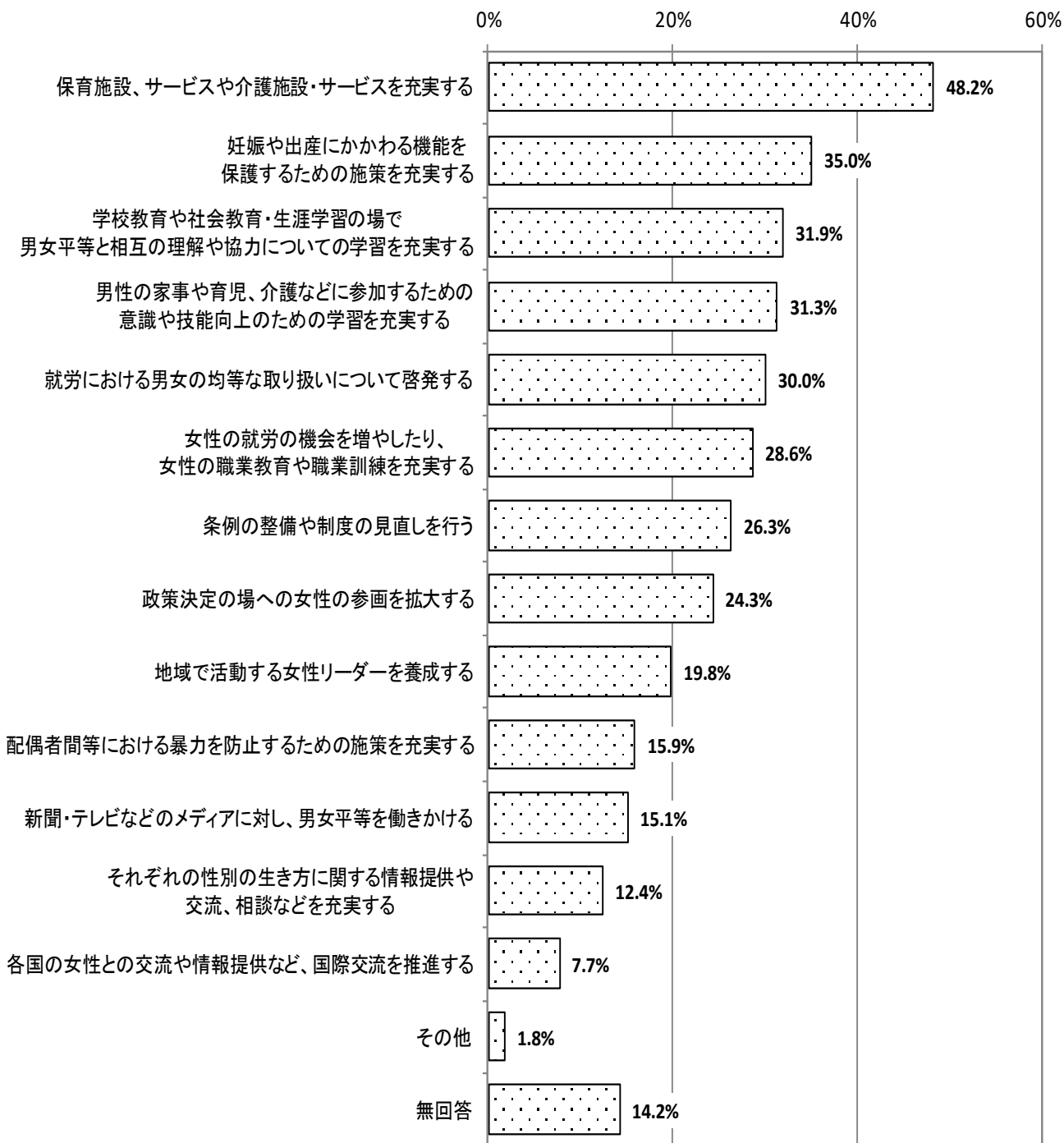
### 問 32 男女共生社会を推進するための重点的な取組

男女共生社会を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

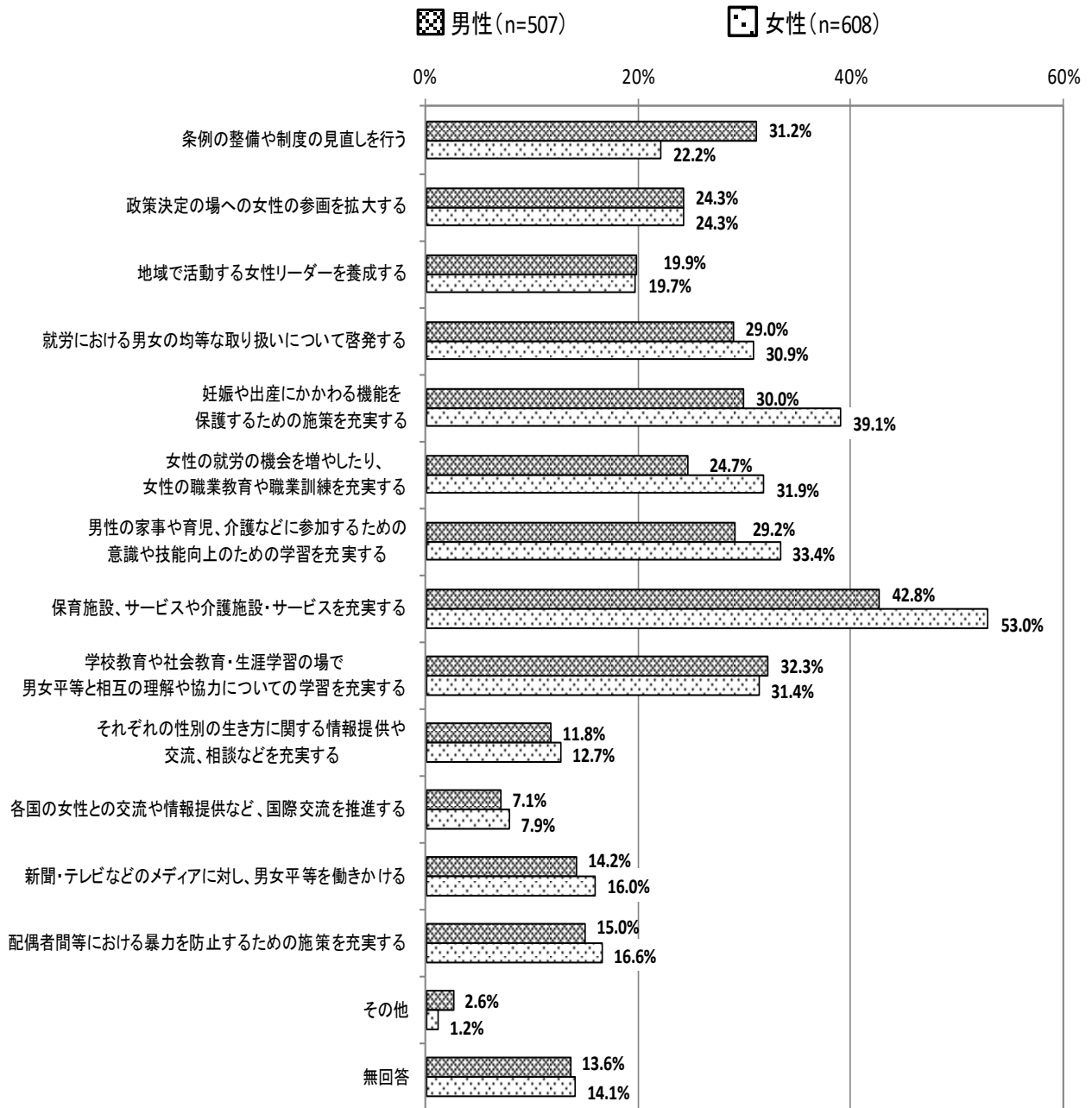
- 1 条例の整備や制度の面で見直しを行う
- 2 政策決定の場への女性の参画を拡大する
- 3 地域で活動する女性リーダーを養成する
- 4 就労における男女の均等な取扱いについて啓発する
- 5 妊娠や出産にかかわる機能を保護するための施策を充実する
- 6 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
- 7 男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する
- 8 保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する
- 9 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
- 10 それぞれの性別の生き方に関する情報提供や交流、相談などを充実する
- 11 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
- 12 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女平等を働きかける
- 13 配偶者間等における暴力を防止するための施策を充実する
- 14 その他 ( )

男女共生社会を推進するための重点的な取組として、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」の割合が 48.2%と最も高く、次いで「妊娠や出産にかかわる機能を保護するための施策を充実する」(35.0%)、「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」(31.9%)の順となっている。

性別にみると、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」の割合は、男性(42.8%)より女性(53.0%)が10.2ポイント上回っている。「条例の整備や制度の面で見直しを行う」は女性(22.2%)より男性(31.2%)が9.0ポイント上回っている。



○性別



## 9 男女共生社会をさらに推進していくためのご意見（自由意見）

「男女共生社会をさらに推進していくため」の意見を、以下のとおり男女共生社会の施策方針に分類した。

- 1 男女共生社会に向けた施策
- 2 政策・方針決定過程への女性の参画
- 3 男女共生の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革
- 4 男性、子供にとっての男女共同参画
- 5 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
- 6 就労における女性の活躍推進
- 7 男女の仕事と生活の調和
- 8 様々な状況により生活上の困難に直面する男女への支援
- 9 生涯を通じた女性の健康支援
- 10 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実
- 11 アンケートについて

### 1 男女共生社会に向けた施策

○保育施設の増加や延長保育、早朝保育などサービスの充実など子育てに関することや介護に関する事など福祉事業をしっかりとしてほしいと思います。

[類似意見 4 件]

○条例の整備など具体的な法整備や制度の見直しなどこまやかな行政サービスの充実に努め、男女共生を推進していくために工夫をもっとすべきだと思います。

[類似意見 7 件、主に男性からのご意見]

○男女共生に関する講座や制度などを、駅にポスターを貼ったり、携帯やスマートフォンで発信したり、コンビニを活用したりするなど情報提供の方法を工夫していく必要があると思います。

[類似意見 4 件]

○今まで以上に市から参加型の企画や交流の場を増やし、積極的に市民が参加できる体制が整うように推進してください。

[類似意見 4 件、主に男性からのご意見]

### 2 政策・方針決定過程への女性の参画

○男女の議員数の比率、社会及び官庁の管理職登用など官・民をあげて強力に取り組む必要があると思います。

[70 歳以上、女性からのご意見]

○市役所や県庁など官公庁での役職の男女比が和歌山の現状だと思います。男女共生社会を推進していくには、その中心となる所が模範となる必要があります。

[類似意見 3 件、主に女性からのご意見]

### 3 男女共生の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革

○世代によっては、性別の役割に対する固定観念など男女共生についての意識に違いがあるので、男女平等の意識をしっかりと持ち、意識の改革が必要であると思います。

[類似意見 16 件]

○それぞれ個人個人で事情が違うので、いくら制度を整えても、個人の意識の問題だと思います。

[類似意見 5 件、主に男性からのご意見]

○技量を還元できる社会制度のもとで、ゆとりを持って仕事や家庭、個々の活動に参加でき、また地域などで男女が互いの意見を取り入れたり、コミュニケーションの場を設けたりすることが必要だと思います。

[類似意見 11 件]

○男女共生社会の意義を認知させ、若い人にもわかりやすい説明、制度の理解など幅広く啓発を行い、意識改革を図ることが必要だと思います。

[類似意見 3 件、男性からのご意見]

○男女が互いに相手を尊重することが大切だと思います。

[類似意見 11 件]

○男性・女性がそれぞれ自覚を持ち、各個人が意識を変えていくことが大事だと思います。

[類似意見 6 件]

○社会では啓発や法整備は行われているのに慣習は変わらないままで、職場においてはパワハラというものも見てきました。慣習を変えられるような法律・制度や男女ともに意識の向上が必要だと思います。

[類似意見 7 件、主に女性からのご意見]

○LGBTの理解は必要であると思います。

[20 歳代、男性からのご意見]

### 4 男性、子供にとっての男女共同参画

○男性も家事・育児・介護に参加するのが当たり前の社会が理想です。そのためには、家庭の事情に応じて、柔軟な勤務時間の導入などの職場環境の改善や男性の意識改革が必要だと思います。

[類似意見 4 件、女性からのご意見]

## 5 雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保

○男女が協力できる社会の実現を目指し、男性の育児休暇取得も含め休暇制度を取得できるよう積極的に働きかけるべきだと思います。

[類似意見 4 件、主に女性からのご意見]

○働く場所も少なく、若者が市外に出て行っている。まず、市内で働く場所を確保し、定年後も高齢になっても働く場所を提供できるようにしていくことが必要だと思います。

[類似意見 8 件]

○結婚や出産すると、社会に復帰するのが難しいと思います。子育てしながらもフルタイムで女性が働けるようにすれば、家庭も潤って、また仕事のできる良い人材が多く育つと思います。

[類似意見 2 件、女性からのご意見]

○就労における案内や必要とされている職種などの情報提供が必要だと思います。

[類似意見 2 件、男性からのご意見]

○社会が男性優先的ではなく、男女関係なく能力に応じて昇進・昇格できるようになればと思います。

[類似意見 3 件]

## 6 就労における女性の活躍推進

○子育てをしながら働けるよう、安心して子供を預けられる施設を充実させてほしいと強く願います。

[類似意見 3 件]

○法や制度を見直し、また女性が働きやすい社会となれば、女性の社会進出や活躍が進むと考えます。

[類似意見 6 件、主に女性からのご意見]

## 7 男女の仕事と生活の調和

○労働時間短縮など仕事と生活の時間を調整し、男女とも家事・育児・介護などをできるようにする。

[類似意見 3 件]

○夫婦共働きを継続できるように、また男性も家事や育児に参加できよう制度を設定してほしい。

[類似意見 5 件]

○男性にも育児・介護休業を取りやすく、また有給を取得しやすい環境が必要だと思います。

[類似意見 3 件]

○男女ともに、毎日の生活を大切に生きること。そして、心にゆとりを持って生活することが大事だと思います。

[類似意見 3 件、男性からのご意見]

## 8 様々な状況により生活上の困難に直面する男女への支援

○男女の平等より先に、社会に適応できずにいる無職を何とかしたほうがいい。社会的スキルや生活能力を高め、自立できるようにし、また生活の安定により初めて男女平等となると思います。

[類似意見 3 件]

## 9 生涯を通じた女性の健康支援

○女性の身体の仕組み上、女性は無理のできない期間がどうしてもあるので理解が自然にできるようになればと思います。

[40 歳代、女性からのご意見]

## 10 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実

○男女共生を意識していくような教育や外国の情報も取り入れながら学習するなど教育の場を充実させることが大事だと思います。

[類似意見 5 件]

○家庭や学校教育の場などで、子供の頃からの教育・学習が必要だと思います。

[類似意見 8 件]

## 11 アンケートについて

○アンケートの質問や内容が難しい。現状を把握して内容を考えたほうがいいと思います。

[類似意見 12 件]

○アンケートについて、年齢を考慮した設問にしていくほうがいいと思います。

[類似意見 3 件]

○男女共生社会の推進に目を向けられていることが嬉しく思います。

[類似意見 4 件、女性からのご意見]

## IV 調査結果の概要

---

### 1 男女平等について

---

男女の地位の平等については、女性は「男性が優遇されている」と思う割合が男性よりも高いが、男性は「平等である」と思う割合が「学校教育の場」以外は女性よりも高く、女性より男性の平等意識が高い傾向にある。

男女の性別役割分担意識として、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、男女とも賛成の割合より反対の割合が上回っている。社会的に離婚をするより男性よりも女性の方が不利であるとする割合が高い。「女性の仕事と家事・育児をすべきである」と思う割合（50.3%）より「男女とも仕事と家事・育児・介護などを両立すべきである」と思う割合（80.1%）が上回り、男性は「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の反対の割合は高く、「男女ともに仕事と家事等への両立すべき」にも賛成の割合が高くなっており、男性の家事等への参加意識がみられる。

ワーク・ライフ・バランスについては、現実には「仕事」を優先しているが、理想としては「仕事と家庭生活と個人の生活」を優先の割合が高くなっている。現実の「仕事と家庭」を優先している男女の割合はほぼ変わらない。また、男性のワーク・ライフ・バランスを図るために必要なこととして「家族と過ごす時間を大切にする」の割合が最も高いことから、男女ともに家庭を中心とした生活を意識していると思われる。

子供の育て方について、「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」の考え方は賛成の割合が高いものの、男女ともに「男の子も女の子も経済的自立や家事・育児をできるように育てる」の考え方は賛成の割合が高くなっている。「性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい」の考え方にも賛成の割合が高い。男女ともに性別役割分担は平等にできるように育てる考え方に賛成する割合が高い。

#### 《まとめ》

男性は女性より「男女平等である」と思っている人が多いが、女性は男性より「男性の方が優遇されている」と思っている人が多く、男女の意識に差があることがうかがえる。

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方は、男女とも反対の割合が高いが、男性は女性が仕事を持つことは賛成するが、家事・育児もするべきと思っている割合が高い。このことから、固定的性別役割分担意識については、男女とも賛成より反対が増加しているが、さまざまな分野において「男性が優遇されている」と思っている人が多いため、今後とも固定的性別役割分担意識を解消していくことが必要と思われる。

男女ともに、現実では「仕事を優先」しているが、理想としては「仕事と家庭生活と個人の生活をともに優先」したいと思っている人が多く、理想に反して現実との差が生じている。男女ともにワーク・ライフ・バランスを図っていくためには、意識の啓発などの取組が必要である。

また、子供の育て方については、性別にこだわらず、経済的自立や家事育児をできるように育てていく意向が高くなっていると考えられる。

---

### 2 高齢期について

---

高齢期の過ごし方としては、「趣味の活動やスポーツ、旅行」の割合が最も高い。また、「働くこと」と「孫など家族との団らん」、「夫婦・カップルでの団らん」も高く、4割を超えている。「働くこと」と「夫婦・カップルでの団らん」は女性より男性が高く、その他の項目は男性より女性が高い。



### 《まとめ》

「趣味の活動やスポーツ、旅行」など外向的に過ごすことの意識が高く、高齢期をいきいきと送るために、高齢期を迎えるまでに地域活動や社会活動に参加するなど、地域でのコミュニティづくりをすることも重要となっている。

---

## 3 地域活動について

---

ボランティア・NPOなどの社会活動、自治会・PTAなどの地域活動への参加については、「参加したことがある」割合（「現在、参加している」と「以前、参加したことがある」の計）は「自治会・町内会の活動」（40.0%）と「PTA・子ども会の活動」（33.0%）が高い。「今後は参加したい」割合は、「趣味・スポーツ・教養等のグループ活動」や「自然環境活動に関する活動」、「ボランティア活動」が高い。現在は、地域活動への参加は高く、今後は趣味やスポーツなどによるグループ活動やボランティアなどの社会活動への参加を希望している割合が高い。

参加するときの問題として、「時間がない（仕事・家事・育児で忙しい）」が最も高い。また、「どんな活動があるのか分からない」の割合も高い。

### 《まとめ》

趣味・スポーツ・教育等のグループ活動やボランティア活動などの社会活動への参加の意識が高く、地域での交流ができるような活動に参加できるよう活動内容の周知や参加への理解が必要と考えられる。

社会活動や地域活動に参加できない理由は、男女とも仕事・家事・育児で忙しく時間がない割合が5割を超えている。そのことから、男女ともに社会活動や地域活動に参加できるようワーク・ライフ・バランスの推進が課題となっている。

---

## 4 防災意識について

---

参加した防災活動は「防災訓練」が最も高い。「防災訓練」は男性より女性の割合が高いが、「防災関係の講座や研修会」、「消防団・防火クラブ等」、「市民防災大学」は女性より男性の割合が高い。

避難所や防災・災害対策においての性別に配慮した取組に必要なこととして、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」と「性別に配慮した備蓄品の備え」の割合が高い。

### 《まとめ》

南海トラフ地震など甚大な災害が想定されているため、防災活動や避難所の運営面などへの女性の参加が必要とされている中、防災訓練の参加は高いものの、参加したことがない割合も高い。災害対策においても男女とも防災意識を高めていくことが必要である。また、防災・災害対策や避難所の運営面においては、性別に配慮した備蓄品など設備面の充実を図ることが必要とされている。

---

## 5 男女共生の今後について

---

今後、男性が家事等に積極的に参加していくために必要なこととしては、「男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす」と「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の意識が高く、男性より女性の割合が高くなっている。

## 《まとめ》

「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」の意識が高く、男女とも仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進を図り、男性の家事・育児・地域活動等への参加ができるよう意識改革が必要となっている。

---

## 6 就労について

---

女性活躍推進法の認知度については、「言葉も内容も知らない」が最も高く、5割を超えている。「言葉も内容も知っている」割合は全体としては1割も満たない。法について周知していくことが必要と考えられる。

女性が職業をもつことへの理想は「仕事は定年まで続ける」が最も高く、現実には「子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続けている」が最も高い。理想としては、仕事を続ける割合（「仕事は定年まで続ける」と「仕事は高齢になっても続ける」と「子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける」と「子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける」の計）が77.1%となっているが、現実としては、仕事をしていない割合（「子供ができたなら仕事はやめた」と「結婚したら仕事はやめた」と「仕事はしていない」の計）が31.1%となっている。

女性の職業をもち続けていく上での問題として、「家事や育児・介護との両立は難しい」、「産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である」と思う割合は男女ともに高い。また、「保育施設・介護施設の数や内容が不十分」と思う割合も男女とも6割を超えている。女性が職業をもち続けていくには、休業などの制度の浸透や施設面での充実が必要であると考えられる。

就労について性別による差があると思うことについては、「女性が優遇されている」割合は「育児・介護休業などの休暇が取得しやすい」のみで、その他の項目は「男性が優遇されている」割合が高い。性別にみると、いずれの項目も「平等である」と思う割合が女性より男性が高く、「男性が優遇されている」と思う割合は男性より女性が高い。

男女が対等に働くために必要なことは、「結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる」、「男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする」、「男女ともに、能力を發揮できる配置を行う」の割合が高い。

男性の休業や休暇の取得については、「取得するほうがよい」と思う割合が男女ともに8割を超えており、男性より女性の割合が高い。

男性が休業や休暇を取得しないほうがよいと回答した理由としては、「仕事の評価や配置に影響する」と「職場の理解が得られない」の割合が高い。性別にみると、男性は「仕事の評価や配置に影響する」の割合が最も高く、女性は「経済的に苦しくなる」の割合が最も高い。

## 《まとめ》

女性の職業生活における活躍の推進に関する「女性活躍推進法」が成立したが、言葉も内容も知らない割合が高く、法に関する周知をしていくことが必要である。女性が仕事を続けていきたいと思う割合は高いが、結婚や出産等により、男性に比べ離職率が高くなっている。女性が仕事をもち続けていくためには、男女とも能力を發揮できる職場配置や結婚や出産等に関わらず仕事を続けられるよう職場環境の改善が必要であり、また男性が育児や介護による休業・休暇を取得しやすくなるよう職場の理解が課題となっている。

---

## 7 DV（ドメスティック・バイオレンス）について

---

配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うことについて、「暴力にあたる」との回答は「なぐったり、けったりする」や「物をぶつける」など身体的な暴力行為では8割を超えているが、「人と会うことや外出などを制限する」や「交友関係や電話・メールなど行動を制限する」などの社会的な暴力行為では5割前後となっている。

配偶者や交際相手から受けた暴力行為について、「暴力行為があった」割合は男性より女性が高い。また、暴力行為があったと答えた回答者の相談先は、「家族」、「友人」の割合が高くなっているが、「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」の割合は5割を超えている。「誰（どこ）にも打ち明けたり、相談しなかった」理由としては、「相談するほどのことではないと思った」が最も高い。

配偶者や交際相手から暴力を受けたときの相談窓口の認知度としては、「警察」が最も高く、7割を超えている。その他の窓口の認知度は3割以下となっており、「相談窓口として知っているところはない」は1割を超えている。性別にみると、「法務局・人権擁護委員・民生委員」は男女の認知度の差が大きい。

配偶者や交際相手から暴力を受けたときの必要な助けは、「一時的に加害者から逃れる場所の提供」と「親身になって、相談に応じてくれるところ」の割合が高く、女性とともに6割を超えている。

配偶者や交際相手との間の暴力を防止するために進める必要がある取組としては、「法律の罰則を強化する」の割合が高い。女性は「相談できるところを増やす」や「被害を受けた場合に避難できる場所を確保する」の割合も38%以上と高く、暴力を受けたときの必要な助けの回答と求められているものが同じ傾向となっている。

### 《まとめ》

配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思うこととして、身体的な行為は「暴力にあたる」との認識が高いが、社会的な行為については認識が低くなっており、社会的な行為を含めDVに関する認識を高めるための取組が必要である。

DVを受けた時に相談できる窓口として、警察以外の窓口の周知が必要となっている。

また、DVを受けた時の支援として、避難場所の確保や相談窓口の充実が求められていることから、関係機関との連携の強化が重要となっている。

---

## 8 男女共生社会について

---

男女共生に関する言葉の認知度として、「言葉も内容も知っている」割合は「セクシュアル・ハラスメント」と「マタニティ・ハラスメント」が高く、法律に関わる言葉は「ストーカー規制法」や「男女雇用機会均等法」が高い。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」や「メディア・リテラシー」は「言葉も内容も知らない」割合が高い。

男女共生社会に関する講座で興味のあるテーマとして、「防災」と「こころとからだの健康」の割合が高い。「防災」は男性の20歳代から60歳代、女性の20歳代と70歳以上が高く、「こころとからだの健康」は女性の40歳代から60歳代が高い。

男女共生を推進するために個人として取り組めることについては、「仕事、家事、育児など配偶者（パートナー）とともに担う」が最も高く、40歳代以下では男女とも5割を超えている。70歳以上は男女とも「自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する」の割合が高い。

男女共生社会を推進するために力を入れていくべきこととして、「保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する」や「妊娠や出産にかかわる機能を保護するため施策を充実する」の割合が高く、男女ともに就労を継続していくために必要なことが求められている。また、「就労における男女の均等な取り扱いについて啓発する」や「男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する」、「学校や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力を学ぶ機会を充実する」は男女ともに 3 割の回答がある。

#### 《まとめ》

男女共生に関する言葉について、言葉とともに内容についても周知していく必要がある。

男女共生社会を推進するための取組としては、男性の家事・育児・介護への参画の推進や男女平等意識の啓発、子育て、健康、教育、女性の就労など多岐にわたるため、庁内の関連各課や関係機関と連携し、施策の展開を図っていくことが重要となっている。

## V 語句の解説

### 問 18 女性活躍推進法について (P33)

女性活躍推進法とは・・・

女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が平成28年4月1日に施行されました。

これにより、国・地方公共団体、労働者301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが新たに義務づけられています。

### 問 23 男性の休業や休暇の取得について (P43)

育児休業制度：育児のために一定期間休業できる制度

子の看護休暇制度：病気等の子供の看護のために年5日程度の休暇を取得することができる制度

介護休業制度：介護のための一定期間休業できる制度

介護休暇制度：短期の介護のための年5日程度の休暇を取得することができる制度

### 問 24～28 DV（ドメスティック・バイオレンス）について (P46～58)

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

配偶者等の親しい間でふるわれる暴力のことをいいます。「なぐる」、「ける」といったような身体的暴力だけではなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「生活費を渡さない」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

また、配偶者等の間におけるDVは子供にも大きな影響を与えます。

平成26年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、配偶者からの「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」などの被害を受けた経験について、被害経験が「あった」との回答の割合は、女性が23.7%、男性は16.6%の結果となっています。

### 問 29 男女共生に関する認知度 (P59)

#### ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和、一人ひとりがやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

#### ポジティブ・アクション

雇用の場における事実上の男女格差の解消を目指して、女性の能力発揮を促進し、その活用をはかる積極的な取組のこと。

#### ジェンダー

「女らしさ、男らしさ」といった社会的・文化的側面から見た性別のこと。

#### リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

性と生殖において、人間が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保することをめざそうという概念のこと。

### メディア・リテラシー

メディアの内容を読み解き・活用し、メディアを使って表現する能力のこと。

### セクシュアル・ハラスメント

職場または教育現場において、相手の望まない性的な言動または性差別的な意識に基づく行動によって、相手方に不利益を与えたり、不快感を与えて、就学就労や教育研究環境を悪化させること。

### マタニティ・ハラスメント

働く女性が妊娠・出産・育児などを理由に解雇や雇い止めで不利益を被ったり、妊娠・出産・育児などに関して職場で精神的・肉体的な嫌がらせなど不当な扱いを受けること。

### パタニティ・ハラスメント

男性が育児休業や育児のための時短勤務制などを利用しようとすることを妨げたり、嫌がらせ行為をすること。

### デートDV

主に恋人間でおこるDVのこと。

### LGBT

レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（自分の思っている性と身体が一致しない人）の頭文字で性的少数者のこと。

### 性暴力

同意がなく、対等でない、また強要された、本人の意思に反する性的な行為のこと。

## VI 調査票

●あなたご自身についておたずねします

※以下の問いにあてはまるものを1つだけ○印

問1 性別について

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 年齢

- |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| 1 20～29歳 | 2 30～39歳 | 3 40～49歳 | 4 50～59歳 |
| 5 60～69歳 | 6 70歳以上  |          |          |

問3 現在の職業、勤務形態について

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| 1 会社員（正社員）                | 2 自営業      |
| 3 農林水産業                   | 4 公務員（正職員） |
| 5 パート・アルバイト、派遣等の非正規社員（職員） |            |
| 6 専業主婦・主夫                 | 7 学生       |
| 8 無職                      | 9 その他（ ）   |

問4 結婚について

- |   |
|---|
| 1 結婚している又は※パートナーがいる ※パートナー：事実婚の状態と共に暮らしている方 |
| 2 配偶者・パートナーと離・死別した                          |
| 3 結婚していない                                   |

問4-1 問4で「1」と回答された方のみお答えください。2人とも働いていますか。

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 共働きである           | 2 自分のみ働いている  |
| 3 配偶者・パートナーのみ働いている | 4 どちらも働いていない |

問5 現在の家族構成について

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 単身（ひとり暮らし） | 2 1世代（夫婦だけ）  |
| 3 2世代（親と子）   | 4 3世代（親と子と孫） |
| 5 その他（ ）     |              |

●男女共生についておたずねします

問6 次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6	
②職場では	1	2	3	4	5	6	
③学校教育の場では	1	2	3	4	5	6	
④自治会などの地域活動の場では	1	2	3	4	5	6	
⑤政治の場や制度の上では	1	2	3	4	5	6	
⑥社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6	

問7 「結婚」や「家庭」についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	思う	思う	どちらかといえば	思わない	思わない	わからない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5	
②結婚は個人の自由であるから、結婚しても、しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5	
③社会的に、離婚すると女性の方が不利である	1	2	3	4	5	
④社会的に、離婚すると男性の方が不利である	1	2	3	4	5	
⑤女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児をすべきである	1	2	3	4	5	
⑥男女とも仕事と家事、育児、介護などを両立すべきである	1	2	3	4	5	



問8 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の最も優先したいこと、最も優先していることはどれですか。

（現実と理想について、あてはまる数字に1つだけ○印）

	現実	理想
①「仕事」を優先	1	1
②「家庭生活」を優先	2	2
③「個人の生活」を優先	3	3
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	4	4
⑤「仕事」と「個人の生活」をともに優先	5	5
⑥「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	6	6
⑦「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先	7	7
⑧わからない	8	8

問9 男性が、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動・学習・趣味・付き合い等）」の調和を図るためにはどのようなことが必要と思いますか。

（2つまで○印）

1 残業を減らす
2 休暇をしっかりと取る
3 家族と過ごす時間を大切にする
4 自己啓発を進める
5 自分の趣味の時間を取る
6 地域活動、ボランティア活動に参加する
7 必要と思わない
8 その他（ <span style="float: right;">)</span>

問10 家事についてどのようなことをしていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	る い つ も す	く す る	わ り と よ	す る	と き ど き	し な い	ほ と ん ど	し な い	ま っ た く
①食事の支度	1	2	3	4	5				
②食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5				
③食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5				
④洗濯物を干す	1	2	3	4	5				
⑤洗濯物の取り入れや収納	1	2	3	4	5				
⑥部屋の掃除	1	2	3	4	5				
⑦トイレの掃除	1	2	3	4	5				
⑧風呂洗い	1	2	3	4	5				
⑨庭の掃除	1	2	3	4	5				
⑩ごみ出し	1	2	3	4	5				
⑪育児や子供のしつけ	1	2	3	4	5				
⑫高齢者や障害者の介護・看護	1	2	3	4	5				

問11 子供の育て方についてどのように考えていますか。

(各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印)

	思 う	思 う	ど ち ら か と い え ば	思 わ な い	ど ち ら か と い え ば	思 わ な い	わ か ら な い
①女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2	3	4	5		
②女の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5		
③女の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5		
④男の子は経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5		
⑤男の子は家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5		
⑥性別にこだわらず個性を伸ばす方がよい	1	2	3	4	5		
⑦子供が小さいうちは母親が子育てに専念した方がよい	1	2	3	4	5		
⑧親が仕事をするために、子育て支援サービス(保育所・ベビーシッターなど)を活用してもよい	1	2	3	4	5		
⑨子供の世話の大部分は父親にもできる	1	2	3	4	5		

問 1 2 高齢期をいきいきと送るためにやってみたいことはありますか。（高齢者の方は、現在  
行っていること）

（あてはまるものすべてに○印）

1	働くこと
2	学習や教養を高めるための活動
3	趣味の活動やスポーツ、旅行
4	世代間交流（若い世代との交流）
5	ボランティア活動
6	地域の老人クラブ活動
7	自治会・町内会の活動
8	孫など家族との団らん
9	夫婦・カップルでの団らん
10	その他（ <span style="float:right">）</span>

問 1 3 社会活動、地域活動への参加についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に 1 つだけ○印）

	している 現在、参加	したい 今後は参加	ない 参加したく	ある したことが 以前、参加
① 県・市の審議会・委員会の委員	1	2	3	4
② 自治会・町内会の活動	1	2	3	4
③ P T A ・子ども会の活動	1	2	3	4
④ 青年団体・女性団体・高齢者団体等の活動	1	2	3	4
⑤ 消費者団体等の活動	1	2	3	4
⑥ 趣味・スポーツ・教育等のグループ活動	1	2	3	4
⑦ 国際交流に関する活動	1	2	3	4
⑧ 自然環境保護に関する活動	1	2	3	4
⑨ まちづくり等の市民活動	1	2	3	4
⑩ 社会福祉に関する活動	1	2	3	4
⑪ ボランティア活動	1	2	3	4

問 1 4 社会活動、地域活動に参加しようとするときに問題になることはどのようなことですか。

( 2つまで ○印 )

1	時間がない(仕事・家事・育児で忙しい)
2	育児・介護を頼める所がない
3	健康や体力に自信がない
4	家族の理解がない
5	職場の上司や同僚などの理解がない
6	身近なところに活動する場所がない
7	自分に合った活動がない
8	どんな活動があるのか分からない
9	かかわりをもつと煩わしい
10	その他 ( )

問 1 5 これまでに参加したことがある防災活動は何ですか。

( あてはまるものすべてに○印 )

1	防災訓練
2	防災関係の講座や研修会
3	消防団・防火クラブ等
4	市民防災大学
5	参加したことがない
6	その他 ( )

問 1 6 避難所や防災・災害対策において、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

( あてはまるものすべてに○印 )

1	避難所の運営に、男女の責任者の配置
2	男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置
3	性別に配慮した備蓄品(下着・生理用品等)の備え
4	備蓄品(下着・生理用品等)の配布時に配慮した担当者の配置
5	性別に配慮した交流の場の設置
6	男女のニーズに配慮した相談体制
7	女性や子供への暴力を防止するための防犯対策
8	その他 ( )

### **防災について・・・**

近年、防災に対する意識が非常に高くなっています。

しかし、大規模災害では、行政の力（公助）は十分に機能しないことが考えられます。そのため、自分の安全のための力（自助）や周りの人と助け合う力（共助）を発揮することが重要になってきます。

過去の震災時では、避難所において、女性の声が届かず、女性が不便を感じる場面が多くありました。

問 1 7 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

**（あてはまるものすべてに ○印）**

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>1 男性の家事・地域活動などへの参加に対する男性自身の抵抗感をなくす</li><li>2 男性の家事・地域活動などへの参加に対する女性の抵抗感をなくす</li><li>3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる</li><li>4 年配者やまわりの方が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重する</li><li>5 社会の中で、男性による家事・地域活動などへの参加に対する評価を高める</li><li>6 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする</li><li>7 男性の家事・地域活動などに対する関心が高まるよう啓発や情報提供を行う</li><li>8 研修などにより、男性の家事や子育て、介護などの技能を高める</li><li>9 男性が家事・地域活動などを行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる</li><li>1 0 男性が、家庭や地域活動と仕事の両立などの問題を相談しやすい窓口を設ける</li><li>1 1 特に必要なことはない</li><li>1 2 その他（<span style="float: right;">）</span></li></ul> |
|---|

## ●女性の活躍についておたずねします

問18 女性活躍推進法について、知っていますか。

(1つだけ ○印)

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は知っているが、内容は知らない
- 3 言葉も内容も知らない

### 「女性活躍推進法」とは・・・

女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が平成27年8月に制定されました。

これにより、国・地方公共団体、労働者301人以上の企業は、女性の活躍推進に向けた行動計画の策定などが新たに義務づけられています。

問19 女性が職業をもつことについてどのように思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。（現実と理想のそれぞれ1つだけ ○印）

### (1) 現実

- 1 仕事は定年までと思い、続けている
- 2 仕事は高齢になっても続けている
- 3 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続けている
- 4 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続けている
- 5 子供ができたので仕事はやめた
- 6 結婚したので仕事はやめた
- 7 仕事はしていない
- 8 その他 ( )

### (2) 理想

- 1 仕事は定年まで続ける
- 2 仕事は高齢になっても続ける
- 3 子育ての時期は一時的にやめて、その後はフルタイムで仕事を続ける
- 4 子育ての時期は一時的にやめて、その後はパートタイムで仕事を続ける
- 5 子供ができたら仕事はやめる
- 6 結婚したら仕事はやめる
- 7 仕事はしない
- 8 その他 ( )

問20 女性が職業をもち続けていく上で、どのようなことが問題になると思いますか。女性の方は、ご自身について、男性の方は、あなたのパートナー（いない場合はいると仮定して）についてお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

	思う	思う どちらかといえば	思わない どちらかといえば	思わない	わからない
①職場が結婚・出産した女性を受け入れない傾向がある	1	2	3	4	5
②家事や育児・介護との両立は難しい	1	2	3	4	5
③産前産後休業や育児・介護休業、再雇用などの制度の浸透が不十分である	1	2	3	4	5
④配偶者や家族の支援がない	1	2	3	4	5
⑤職場が責任ある仕事を女性に任せない	1	2	3	4	5
⑥保育施設の数や内容が不十分である	1	2	3	4	5
⑦介護施設の数や内容が不十分である	1	2	3	4	5
⑧女性自身の職業に対する自覚が不足している	1	2	3	4	5

問21 就労について、性別による差があると思いますか。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①募集・採用	1	2	3	4	5	6
②賃金	1	2	3	4	5	6
③仕事の内容	1	2	3	4	5	6
④昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
⑤管理職への登用	1	2	3	4	5	6
⑥人事評価（業績評価・能力評価など）	1	2	3	4	5	6
⑦研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6
⑧育児・介護休業などの休暇が取得しやすい	1	2	3	4	5	6

問22 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 女性の雇用機会を拡大する
- 2 賃金、昇給の男女の格差をなくす
- 3 男性中心の組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める
- 4 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う
- 5 男女ともに、教育・研修の機会を充実する
- 6 結婚や出産にかかわらず働き続けられる職場の雰囲気をつくる
- 7 フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度を導入する
- 8 男女ともに育児・介護休業などの休暇を取りやすいようにする
- 9 職場におけるセクシュアル・ハラスメントをなくす
- 10 職場において男女が対等であるという意識を普及させる
- 11 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める
- 12 その他 ( )

問23 男性が、育児休業、子の看護休暇、介護休業、介護休暇を取得することについてどのように思いますか。(1つだけ○印)

- 1 取得したほうがよい
- 2 どちらかといえば取得したほうがよい
- 3 どちらかといえば取得しないほうがよい
- 4 取得しないほうがよい

育児休業制度：育児のため一定期間休業できる制度

子の看護休暇制度：病気等の子供の看護のために年5日程度の休暇を取得することができる制度

介護休業制度：介護のための一定期間休業できる制度

介護休暇制度：短期の介護のため年5日程度の休暇を取得することができる制度

問23-1 問23で「3」、または「4」と回答された方のみお答えください。

「取得しないほうがよい」と思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 経済的に苦しくなる
- 2 職場の理解が得られない
- 3 仕事の評価や配置に影響する
- 4 育児や介護は女性がすべきである
- 5 男性が育児や介護の地域ネットワークに参加しにくい
- 6 男性は育児や介護になれていない
- 7 周囲に取得した男性がいない
- 8 その他 ( )



●DV（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします

問24 配偶者や交際相手からの行為で暴力だと思ふことはどのようなことですか。

あなたの考えに近いものをお答えください。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

	暴力にあたる	ない 暴力にあたら	る ない場合もあ	暴力にあたる 場合もそうで
①なぐったり、けったりする	1	2	3	
②物をぶつける	1	2	3	
③怖がらせたりして、脅す	1	2	3	
④人と会うことや外出などを制限する	1	2	3	
⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する	1	2	3	
⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする	1	2	3	
⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く	1	2	3	
⑧嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	

問25 これまでに配偶者や交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

（各項目について、それぞれあてはまる数字に1つだけ○印）

	何度もあつた	1・2度あつた	まったくない	ない や交際相手はい	今までに配偶者
①なぐったり、けったりする	1	2	3	4	
②物をぶつける	1	2	3		
③怖がらせたりして、脅す	1	2	3		
④人と会うことや外出などを制限する	1	2	3		
⑤交友関係や電話・メールなど行動を制限する	1	2	3		
⑥生活費を渡さないなど、経済的制限をする	1	2	3		
⑦馬鹿にしたり、嫌がらせの暴言を吐く	1	2	3		
⑧嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3		

問25-1 **問25で1つでも「1」、または「2」と回答された方のみ**お答えください。

あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 家族	2 友人	3 警察
4 弁護士	5 医師・カウンセラー	6 市や県の窓口
7 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった		
8 その他( )		

問25-2 **問25-1で「7 誰(どこ)にも打ち明けたり、相談しなかった」と回答された方のみ**お答えください。

あなたが、打ち明けたり、相談しなかった理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 誰(どこ)に相談してよいか分からなかった
2 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3 相談しても無駄だと思った
4 相談したことが分かると、仕返しを受けると思った
5 経済的な理由により、我慢しなければいけないと思った
6 相談した相手の言動が、逆に不快感を増すことになると思った
7 自分さえ我慢すれば、何とかやっていたらと思った
8 世間体が悪いと思った
9 他人を巻き込みたくないと思った
10 自分が悪いと思った
11 そのことを思い出したくなかった
12 相談するほどのことではないと思った
13 その他( )

問26 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けたときに相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 警察	2 法務局・人権擁護委員・民生委員
3 配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター)	
4 和歌山市男女共生推進センター“みらい”	
5 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”	
6 県庁・県振興局	7 市役所
8 医師その他医療関係者	9 相談窓口として知っているところはない
10 その他( )	

問 2 7 配偶者や交際相手との間で、相手から暴力を受けた時にどのような助けが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

- 1 一時的に加害者から逃れる場所の提供
- 2 警察の介入
- 3 親身になって、相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与
- 6 自分自身・自分と子どもの心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちとの対話
- 8 加害者に対する責任追及（損害賠償など）
- 9 加害者への教育（暴力防止など）
- 10 わからない
- 11 その他（ )

問 2 8 配偶者や交際相手との間の暴力を防ぐために、もっと取組を進める必要があると思うことは何ですか。（2つまで ○印）

- 1 法律の罰則を強化する
- 2 相談できるところを増やす
- 3 市民に対する啓発や情報提供を行う
- 4 加害者に対する啓発を行う
- 5 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する
- 6 男性も女性も経済的に自立する
- 7 子どもの時から暴力否定の教育を進める
- 8 わからない
- 9 その他（ )

### DV（ドメスティック・バイオレンス）とは・・・

配偶者等の親しい間でふるわれる暴力のことをいいます。「なぐる」「ける」といったような身体的暴力だけでなく、「外出をさせない」「無視する」「暴言をはく」「生活費を渡さない」「望まない性行為を強要する」など様々な暴力があります。

また、配偶者等の間におけるDVは子どもにも大きな影響を与えます。

平成26年度内閣府の「男女間における暴力に関する調査」では、配偶者からの「身体的暴行」「心理的攻撃」「経済的圧迫」「性的強要」などの被害を受けた経験について、被害経験が「あった」との回答の割合は、女性が23.7%、男性は16.6%の結果となっています。

●語句の説明と今後についておたずねします

問 2 9 あなたは、男女共生に関する言葉を知っていますか。

( 各項目について、それぞれあてはまる数字に 1つだけ○印 )

	知 つ て い る 言 葉 も 内 容 も	知 ら な い 言 葉 は 知 つ て い る が 内 容 は	知 ら な い 言 葉 も 内 容 も
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②男女雇用機会均等法	1	2	3
③育児・介護休業法	1	2	3
④DV防止法	1	2	3
⑤ストーカー規制法	1	2	3
⑥ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
⑦ポジティブ・アクション	1	2	3
⑧ジェンダー	1	2	3
⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
⑩メディア・リテラシー	1	2	3
⑪セクシュアル・ハラスメント	1	2	3
⑫マタニティ・ハラスメント	1	2	3
⑬パタニティ・ハラスメント	1	2	3
⑭デートDV	1	2	3
⑮LGBT	1	2	3

## この機会に、男女共生に関する言葉を少し、勉強・・・

**ワーク・ライフ・バランス**：仕事と生活の調和、一人ひとりがやりがいや充実感をもちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できること。

**ポジティブ・アクション**：雇用の場における事実上の男女格差の解消を目指して、女性の能力発揮を促進し、その活用をはかる積極的な取組のこと。

**ジェンダー**：「女らしさ、男らしさ」といった社会的・文化的側面から見た性別のこと。

**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**：性と生殖において、人間が生涯にわたって自分の健康を主体的に確保することをめざそうという概念のこと。

**メディア・リテラシー**：メディアの内容を読み解き・活用し、メディアを使って表現する能力のこと。

**セクシュアル・ハラスメント**：職場または教育現場において、相手の望まない性的な言動または性差別的な意識に基づく行動によって、相手方に不利益を与えたり、不快感を与えて、就学就労や教育研究環境を悪化させること。

**マタニティ・ハラスメント**：働く女性が妊娠・出産・育児などを理由に解雇や雇い止めで不利益を被ったり、妊娠・出産・育児などに関して職場で精神的・肉体的な嫌がらせなど不当な扱いを受けること。

**パタニティ・ハラスメント**：男性が育児休業や育児のための時短勤務制度などを利用しようとすることを妨げたり、嫌がらせ行為をすること。

**デートDV**：主に恋人間でおこるDVのこと。

**LGBT**：レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（自分の思っている性と体が一致しない人）の頭文字で性的少数者のこと。

**性暴力**：同意がなく、対等でない、また強要された、本人の意思に反する性的な行為のこと。

問30 本市では、男女共生社会に関する各種講座を行っています。今後、学習・参加してみたい講座のテーマは何ですか。

(あてはまるものすべてに○印)

1	男女共生の基礎知識
2	地域活動
3	防災
4	男性の家事、育児参加
5	子育て、教育
6	介護
7	女性のための起業、再就職
8	こころとからだの健康
9	リフレッシュ
10	DV防止、被害者支援
11	コミュニケーション
12	生き方
13	LGBT
14	その他 ( )

問31 男女共生を推進するために、あなた自身ができること、又はしなければならないことはどのようなことと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1	仕事、家事、育児などを配偶者（パートナー）とともに担う
2	社会活動、地域活動などを配偶者（パートナー）とともに担う
3	経済的に自立する
4	自分の身の回りのことができるよう生活面で自立する
5	仕事と生活の時間のバランスをうまく取る
6	社会の一員としての自覚と責任を持つ
7	育児・介護休業の必要な場合など配偶者（パートナー）と相談の上取得する
8	人権・平等についての理解を深めるように努める
9	配偶者（パートナー）とのコミュニケーションを深める
10	その他 ( )

問3 2 男女共生社会を推進するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 条例の整備や制度の見直しを行う</li><li>2 政策決定の場への女性の参画を拡大する</li><li>3 地域で活動する女性リーダーを養成する</li><li>4 就労における男女の均等な取扱いについて啓発する</li><li>5 妊娠や出産にかかわる機能を保護するための施策を充実する</li><li>6 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する</li><li>7 男性の家事や育児、介護などに参加するための意識や技能向上のための学習を充実する</li><li>8 保育施設・サービスや介護施設・サービスを充実する</li><li>9 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する</li><li>10 それぞれの性別の生き方に関する情報提供や交流、相談などを充実する</li><li>11 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する</li><li>12 新聞・テレビなどのメディアに対し、男女平等を働きかける</li><li>13 配偶者間等における暴力を防止するための施策を充実する</li><li>14 その他 ( )</li></ol> |
|--|

●男女共生社会をさらに推進していくためのご意見をお聞かせください

<hr/> <hr/> <hr/>
-------------------

※※ ご協力ありがとうございました ※※